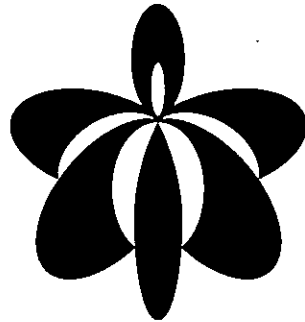


令和元年度～令和2年度 文部科学省委託事業

「これからの時代に求められる資質・能力を育むための
カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」

カリキュラム・マネジメントの 手引き



秋田県由利本荘市教育委員会

実践校

由利本荘市立西目中学校

由利本荘市立西目小学校

由利本荘市立岩城小学校

はじめに

「カリキュラム・マネジメント」は、平成29年3月に告示された学習指導要領（以下「新学習指導要領」）の改訂の理念である「社会に開かれた教育課程」を実現するための方策として挙げられたものである。総則については平成30年度から先行実施となっており、各校でカリキュラム・マネジメントの取組が進められている。しかし、実際には温度差があったり迷いや悩みがあったりし、全ての学校で十分に展開されているとは言えないのではないだろうか。このことは、由利本荘市においても例外ではない。

そのような中、令和元年度～令和2年度の文部科学省委託事業「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」の指定を受け、西目中学校、西目小学校、岩城小学校が実践校として研究を推進してきた。

そもそも「カリキュラム・マネジメント」とは何か。これまで取り組んできたことは何か。これから取り組むべきことは何か。これらのことについて、各校で一つ一つ確認をしながら実践を進めてきたところである。

さて、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』（以下「解説（総則編）」）には、次のような記載がある。

中央教育審議会答申においては、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要であること、こうした力は全く新しい力ということではなく学校教育が長年その育成を目指してきた「生きる力」であることを改めて捉え直し、学校教育がしっかりとその強みを発揮できるようにしていくことが必要とされた。（p. 3 下線は土倉）

このような子どもたちに育成したい「生きる力」を教職員がフルに発揮せざるを得ない事態が起こった。

「全国一斉臨時休校」という予想だにできなかった緊急事態に直面し、子どもたちの健康をどのようにして守るのか、子どもたちの学びをどのようにして保障していくのか、教職員の誰しもが主体的に考え、話し合い、行動したはずである。そして、子どもたちにどんな「生きる力」を育成していくのか、そのためにどのような教育課程を編成し実践すべきか、例年以上に議論を尽くした令和2年度のスタートであっただろうことは想像に難くない。

カリキュラム・マネジメントは、子どもたちに「生きる力」を育むための営みであると同時に、教職員の「生きる力」を磨き上げる営みであると言えよう。

また、平成28年12月21日に中央教育審議会より示された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（以下「中教審答申」）には、次のような記載がある。

- ・教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現 (p.23)
- ・「カリキュラム・マネジメント」は、全ての教職員が参加することによって、学校の特色を創り上げていく営みである。(p.24)

「学校教育の改善・充実の好循環を生み出す」ことも「学校の特色を創り上げる」ことも、容易にできることではない。しかし、情熱あふれる教職員が「チーム学校」として結束したとき、それは可能になる。

カリキュラム・マネジメントの営みを支えるのは、教職員の情熱とチーム力であると言えよう。

本手引きは、2年間における3校の取組を整理し、他校におけるカリキュラム・マネジメントの推進に資することを目的に作成したものである。教職員の情熱にあふれチーム力に秀でた3校それぞれの試行錯誤の軌跡の中から、他校における取組のヒントが必ずや見つかるものと確信している。

秋田県由利本荘市教育委員会学校教育課
主幹兼学校教育課長 土倉新也

目 次

はじめに

第1章 「カリキュラム・マネジメント」概論

- 第1節 カリキュラム・マネジメントとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 第2節 カリキュラム・マネジメント推進のポイント
 - 1 児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握する・・・・・・・・・・ 3
 - 2 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を
教科等横断的な視点で組み立てる・・・・・・・・ 3
 - 3 教育課程の実施状況を評価しその改善を図る・・・・・・・・・・ 4
 - 4 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともに
その改善を図る・・・・・・・・ 5
 - 5 教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図る・・・・・・・・ 5

第2章 カリキュラム・マネジメントの実践例

- 第1節 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の
設定及び実現に向けた取組 【由利本荘市立西目中学校】
 - 1 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 2 令和元年度の取組
 - (1) 学校の教育目標等の設定のために・・・・・・・・・・・・ 7
 - (2) 学校の教育目標等の実現のために・・・・・・・・・・・・ 11
 - (3) 教育課程等の評価・改善・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - 3 令和2年度の取組
 - (1) 本年度の研究を推進するに当たって・・・・・・・・・・・・ 16
 - (2) 学校の教育目標等の実現のために・・・・・・・・・・・・ 17
 - (3) その他の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
 - (4) 教育課程等の評価・改善・・・・・・・・・・・・・・ 25
 - 4 取組を進める上での学校運営上の工夫
 - (1) 教科等横断的な学習を目指すことの確認・・・・・・・・ 27
 - (2) 立志三訓「希望」「友情」「鍛錬」の基盤となる新たな資質・能力の設定・・・・ 27
 - (3) 生徒自身が資質・能力を働かせようとする方向性の確認・・・・・・・・ 28
 - 5 成果と今後の展望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
- 第2節 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた取組【由利本荘市立西目小学校】
 - 1 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
 - 2 令和元年度の取組
 - (1) 学校の教育目標等の設定・・・・・・・・・・・・・・ 30
 - (2) 学習の基盤となる資質・能力の育成のために・・・・・・・・ 31
 - (3) その他の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
 - (4) 教育課程等の評価・改善・・・・・・・・・・・・・・ 38

| | | |
|-----|------------------------|----|
| 3 | 令和2年度の取組 | |
| (1) | 学校教育目標の設定 | 39 |
| (2) | 重点資質・能力育成のための単元の精選と重点化 | 40 |
| (3) | 長期・短期のPDCAの連続的な展開 | 43 |
| (4) | 重点資質・能力を支える言語力を伸ばす活動 | 45 |
| (5) | 教育課程等の評価・改善 | 47 |
| 4 | 取組を進める上での学校運営上の工夫 | |
| (1) | 組織で動く研究推進 | 49 |
| (2) | 重点資質・能力を育む意識の共有 | 49 |
| (3) | 無理のない取組とする工夫 | 49 |
| 5 | 成果と今後の展望 | 50 |

第3節 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた取組

【由利本荘市立岩城小学校】

| | | |
|-----|--|----|
| 1 | はじめに | 51 |
| 2 | 令和元年度の取組 | |
| (1) | 学校の教育目標等の設定 | 51 |
| (2) | 「郷土や地域に関する教育」「伝統や文化に関する教育」を通して 現代的な諸課題に対応するための資質・能力を育成するために | 52 |
| (3) | その他の取組 | 57 |
| (4) | 教育課程等の評価・改善 | 58 |
| 3 | 令和2年度 of 取組 | |
| (1) | 学校の教育目標等の設定 | 60 |
| (2) | 「郷土や地域に関する教育」「伝統や文化に関する教育」を通して 現代的な諸課題に対応するための資質・能力を育成するために | 60 |
| (3) | その他の取組 | 68 |
| (4) | 教育課程等の評価・改善 | 69 |
| 4 | 取組を進める上での学校運営上の工夫 | |
| (1) | ゴールの明確化 | 71 |
| (2) | 効果的なPDCAサイクルのための組織づくり | 72 |
| (3) | 中学校との連携による、 人材バンク「岩城小・中地域協力隊」募集の試み | 72 |
| 5 | 成果と今後の展望 | 72 |

第3章 由利本荘市におけるカリキュラム・マネジメント

| | | |
|-----|---------------------------|----|
| 第1節 | コミュニティ・スクールとカリキュラム・マネジメント | 75 |
| 第2節 | 「学校経営要覧」の作成とカリキュラム・マネジメント | 78 |
| 第3節 | 「研究紀要」の作成とカリキュラム・マネジメント | 83 |

おわりに

カリキュラム・マネジメント検討委員名簿

第1章 「カリキュラム・マネジメント」概論



〈西目中：1年 国語科〉

本章では、中教審答申、新学習指導要領、解説（総則編）に記載されていることを基に、以下の文献も参考にしながら、カリキュラム・マネジメントの概論を整理していく。

【参考文献】

- ・村川雅弘，吉富芳正，田村知子，秦山裕 編著『教育委員会・学校管理職のためのカリキュラム・マネジメント実現への戦略と実践』ぎょうせい，2020年
- ・田村学『「深い学び」を実現するカリキュラム・マネジメント』文溪堂，2019年
- ・高木展郎『授業が変わる，授業を変える 資質・能力を育てるカリキュラム・マネジメントとアセスメントとしての評価』三省堂，2019年

第1節 カリキュラム・マネジメントとは

中教審答申では、子どもたちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むために、「教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す『カリキュラム・マネジメント』の実現」の重要性が述べられている。

このことを踏まえてまず確認したいのは、「カリキュラム・マネジメントは、子どもたちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むためのもの」ということである。「未来の創り手となるために必要な資質・能力」が「生きる力」と同義であることは、前述のとおりである。つまり、カリキュラム・マネジメントの主たる目的は、「子どもたちに生きる力を育むこと」であると言える。

また、カリキュラム・マネジメントのゴールとして、「学校教育の改善・充実の好循環を生み出すこと」が求められている。各学校では、このことを念頭に置きながらカリキュラム・マネジメントに取り組んでいく必要がある。

この中教審答申を受けて改訂された新学習指導要領（第1章 総則）では、カリキュラム・マネジメントについて次のように定義されている。

第1 小学校（中学校）教育の基本と教育課程の役割

- 4 各学校においては、児童（生徒）や学校、地域の実態を適切に把握し，教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと，教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと，教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して，教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。（下線は大庭）

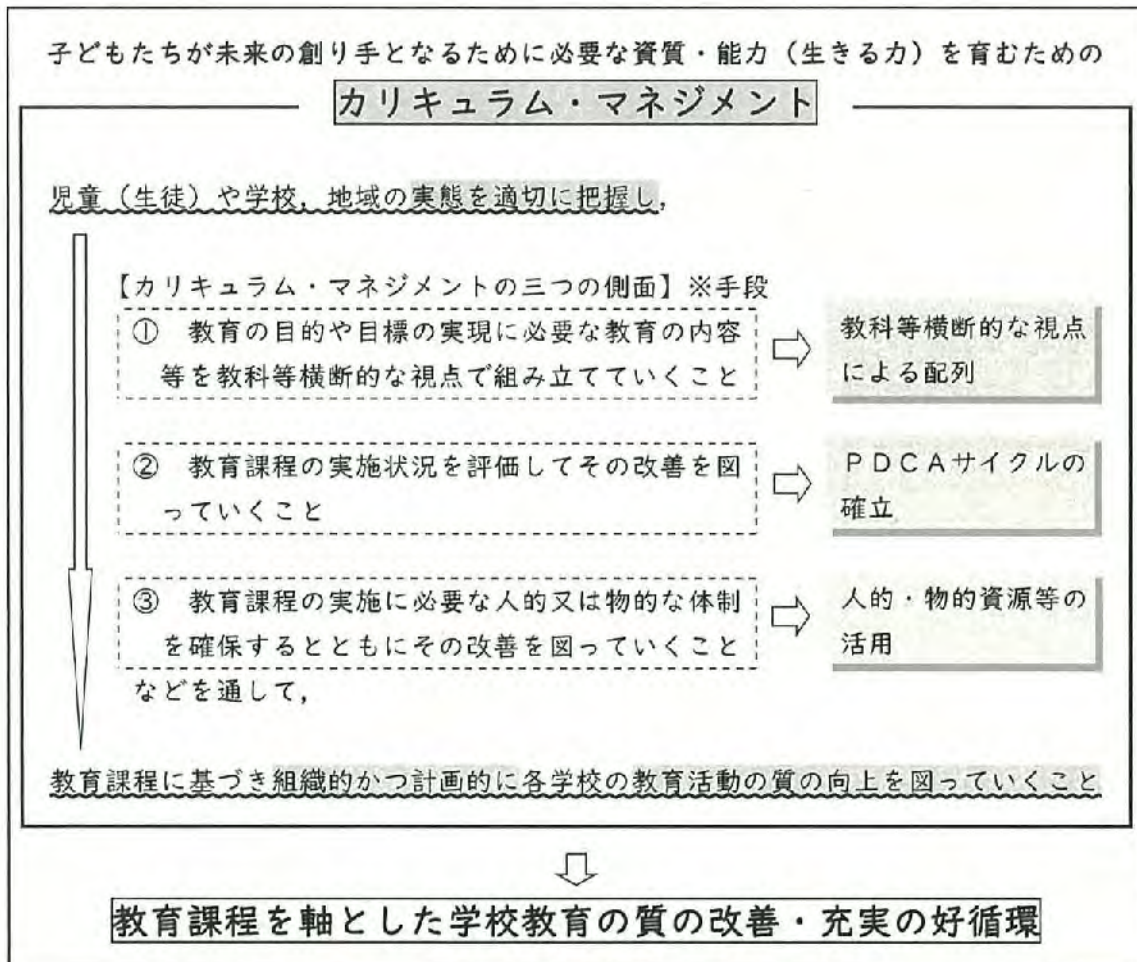
カリキュラム・マネジメントとは、端的には「実態を適切に把握し，組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくこと」であると言える。

児童生徒や学校，地域の実態は，当然のことながら学校によって異なる。したがって，実態を踏まえてどのような教育課程を編成していくかをはじめとし，カリキュラム・マネジメント

の営みには学校の特色が色濃く反映される。

そして、そのための手段として、「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと」、「教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと」、「教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと」が挙げられている。これらは、いわゆる「カリキュラム・マネジメントの三つの側面」と言われるものである。

以上のことは、次のように整理することができる。



〈岩城小：5年 総合的な学習の時間〉

第2節 カリキュラム・マネジメント推進のポイント

新学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメントの定義の文言に沿って、ポイントを整理していく。

1 児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握する

新学習指導要領（第1章 総則 第1の1）に「児童（生徒）の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成する」と示されているとおり、カリキュラム・マネジメントを推進する上では、実態把握が重要となる。

把握すべき実態について解説（総則編 pp.19-22及び39-42）に記載されていることを整理すると、次のようになる。

| | |
|---------|---|
| 児童生徒の実態 | ・心身の発達の段階や特性 ・興味・関心 ・一人一人の多様な能力・適性 ・性格 |
| 学校の実態 | ・学校規模 ・教職員の状況（教職員の構成，教師の指導力） ・施設設備の状況（教材・教具の整備状況） ・児童生徒の実態 ・地域住民による連携及び協働の体制に関わる状況 |
| 地域の実態 | ・生活条件や環境（都市，農村，山村，漁村など） ・産業，経済，文化等 ・歴史的経緯や将来への展望 ・教育資源や学習環境（近隣の学校，社会教育施設，児童生徒の学習に協力することのできる人材等） ・保護者や地域住民の意向等 |

なお、実態把握の方法としては、各種調査結果やアンケート結果，データ等の活用が考えられる。

2 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てる

「カリキュラム・マネジメントの三つの側面」の一つ目である。中教審答申（p.23）においては、「各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと」と示されている。

法令に定める学校教育の目的や目標及び教育課程の基準に基づき、前述の実態把握を踏まえた各学校の教育課題の解決を目指して、学校教育目標（及び育成したい資質・能力）を設

定する。そして、学校教育目標（及び育成したい資質・能力）の実現を目指して教育課程を編成していくことになるが、その際のポイントが「教科等横断的な視点で組み立てること」である。

解説（総則編 p.41）には、教科等横断的な視点で教育課程を編成することに関わって次のような記述がある。

- ・第1章総則第2の2に示す教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を教育課程の中で適切に位置付けていくこと
- ・総合的な学習の時間において教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習が行われるようにすること など



教科等間のつながりを意識して教育課程を編成することが重要である

「教科等間のつながり」を意識する際は、「内容のつながり」とともに「資質・能力のつながり」が重要である。各教科等で身に付けた資質・能力が、他教科等の学びで「活用・発揮」されることをイメージして、教育課程を編成していくのである。

なお、新学習指導要領（第1章 総則 第2の2）には、「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成」について次のように示されている。

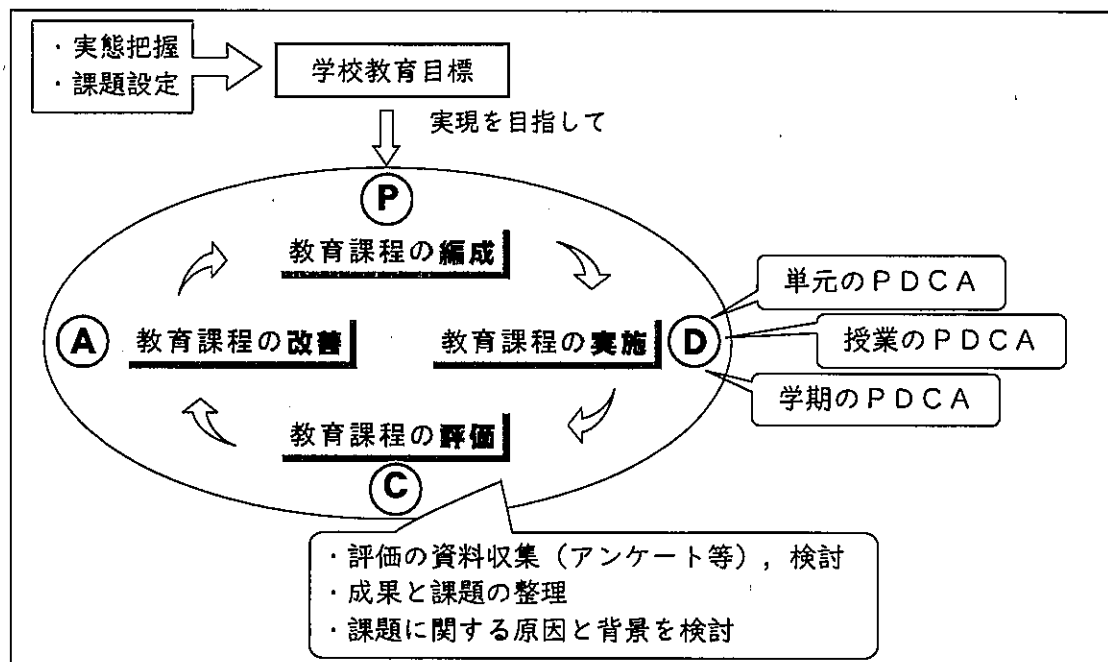
- (1) 各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。
- (2) 各学校においては、児童や学校、地域の実態及び児童の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。（下線は大庭）

「学習の基盤となる資質・能力」は、あらゆる教科等に共通するものである。また、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」は、教科等の学習を通じて身に付けた力を統合的に活用していく中で育成されるものである。いずれも、各教科等の役割を明確にししながら、教科等横断的な視点で育てていくことができるよう、教育課程を編成していくことが求められている。

3 教育課程の実施状況を評価しその改善を図る

「カリキュラム・マネジメントの三つの側面」の二つ目である。中教審答申（p.24）においては、「教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクル

ルを確立すること」と示されている。このことは、これまでも重視されてきたことである。PDCAサイクルについては、次のように整理することができる。



単元ごと、授業ごと、学期ごとのような短期のPDCAサイクルを回しながら、年間のPDCAサイクルを回し、次年度につなげていくようにする。

なお、教育課程の評価、改善については、新学習指導要領（第1章 総則 第5の1のア）に「各学校が行う学校評価については、教育課程の編成、実施、改善が教育活動や学校運営の中核となることを踏まえ、カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施するよう留意する」と示されているとおり、学校評価と関連付けながら実施することが必要である。

4 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図る

「カリキュラム・マネジメントの三つの側面」の三つ目である。中教審答申（p.24）においては、「教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること」と示されている。

教育課程の実施及び改善に当たっては、校内の運営組織を生かすとともに、新学習指導要領（第1章 総則 第5の2のア）に「教育活動の実施に必要な人的又は物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど、家庭や地域社会との連携及び協働を深めること」と示されているとおり、地域とのつながりを生かしていくことが重要である。

5 教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図る

上記三つの側面を通して、各学校の教育活動の質の向上を図っていくこととなる。その際の鍵となるのが、「組織的かつ計画的に」取組を進めることである。

新学習指導要領（第1章 総則 第5の1のア）には、「校長の方針の下に、校務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行う」と示されている。これまでは、とすれば「校長、教頭、教務主任が行うもの」と捉えられがちであったカリキュラム・マネジメントであるが、「校長の方針の下に、全教職員の適切な役割分担と連携に基づいて行うもの」であることが明示された形である。

具体的には、解説（総則編 p.40）に記載されているとおり、「カリキュラム・マネジメントに関わる取組を、学校の組織全体の中に明確に位置付け、具体的な組織や日程を決定していく」こととなる。その際は、「学校教育目標（及び育成したい資質・能力）の実現」という柱からぶれないことが肝要である。

以上のようにして、全教職員で組織的かつ計画的に取り組むことで、「学校教育の改善・充実の好循環を生み出すカリキュラム・マネジメントの実現」を目指すことが求められているのである。



〈西目小：2年 生活科〉

第2章 カリキュラム・マネジメントの実践例



〈岩城小：1年 生活科〉

第1節 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた取組

【由利本荘市立西目中学校】

1 はじめに

本校は学校教育目標「夢を力に」のもと、昭和41年から毎年続けられている「少年式」（満14歳を迎える中学2年時を人生の節目の年と捉え、生徒の成長を祝い、夢や希望を確認する行事）に象徴される「立志の学校」である。高い志をもち、将来に渡って力強く生き抜く人間を育てることが本校の大いなる理念である。そして立志三訓「希望」、「友情」、「鍛練」の目指す生徒像に近づくよう、生徒も教師も日々努力を重ねている。

本校の生徒は明るく素直で協調性に富み、特に、学校行事や生徒会活動、部活動には意欲的かつ積極的に取り組んでいる。一方で、生徒の大部分は幼稚園から中学校まで同じ生活集団で過ごしており、人間関係が固定化しているため、コミュニケーション能力や表現力の不足を起因とするトラブルや、不登校など生徒指導上の諸問題を抱えている生徒も少なくないことが課題である。

本校では、平成27～29年度の3年間にわたり、独立行政法人教職員支援機構委嘱事業「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト」の実践フィールド校として、西目小学校と共同研究を行った。その研究において、自校で育てたい資質・能力を明確にし、授業や生徒の成長について教科の枠を超えて話し合ったことにより、チームによる授業づくりについて研究を深めることができた。さらに、生徒の「生きる力」をよりよく伸ばすためには、本校の生徒たちに求められる「資質・能力」について様々な視点から検討し、学校と地域が一体となって育む大切さを確認できた。

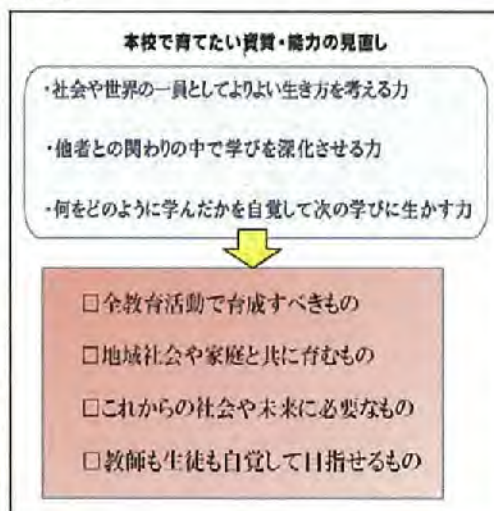
そこで、「学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究」のテーマのもと、「本校で育てたい資質・能力」を見直すとともに、この資質・能力を学習のみならず、学校教育目標の具現化のためにカリキュラムの中核に位置付けることで、教育課程や生徒会活動、学校行事などとも効果的につながり、教育活動の質の向上が図られるものと捉え、研究を進めることとした。

2 令和元年度の取組

(1) 学校の教育目標等の設定のために

① 求められる資質・能力に対する意見を幅広く集約

これまでの本校で育てたい資質・能力は、「社会や世界の一員としてよりよい生き方を考える力」「他者との関わりの中で学びを深化させる力」「何をどのように学んだかを自覚して次の学びに活かす力」の三つであった。し



しかし、この資質・能力は学習寄りの傾向が強く、授業での育成が主であったため、「もっと教育活動全般で育成が図られるものになりたい」「資質・能力をもっと短く、教師も生徒も自覚して目指せるものになりたい」との考えから、この資質・能力の見直しを図ることとした。

そこで、地域の方は本校生徒にどのような資質・能力が必要だと考えているのか、全戸を対象にアンケートを実施した。また、同様のものを保護者や教職員にも行い、幅広い意見や考えの集約に努めた。

「これからの時代に求められる資質・能力について」のアンケート結果

- 職業を選択する能力
- 地域を元気にする力
- アントレプレナーシップ
- コミュニケーション能力
- 人の痛みを感じ取る力
- 自律、自立して生きる力

地域

アントレプレナーシップとは、事業創造や新商品開発などに高い創造意欲を持ち、リスクに対しても積極的に対応していく姿勢や発想、能力

「これからの時代に求められる資質・能力について」のアンケート結果

- 広い視野（将来を見通す力）
- 調整力
- 柔軟性
- 粘り力
- IT能力
- 語学力
- 発想力
- 発信力
- 創造性
- 想像力
- 視野の拡張
- 問題解決力
- 応用力
- 分析力
- 財力
- 実践力
- 倫理（道徳心）
- 判断力
- 決断力
- 観察能力
- セレンディビティ
- 本質を見極める力
- 危険・失敗を創造する力

保護者

＜地域から寄せられたアンケートから＞

＜保護者から寄せられたアンケートから＞

地域のアンケートからは、学校現場とは違った視点での教育への捉えや考えがうかがわれた。また、保護者からは生徒に望む生の声が寄せられるなど非常に多岐にわたった。さらに、学校運営協議会でも話題とし、委員の方々からも直接意見をもらった。



「これからの時代に求められる資質・能力について」の協議会から

- 我慢強さ
- 臨機応変な考え方
- 21世紀を切り拓く人力
- 自律 主体性
- 広い視野や体験
- 異年齢との関わり
- 創造性
- 柔軟性
- 調整力
- 体力
- コミュニケーション能力
- やわらかさ あたたかさ たくましさ

学校運営協議会

＜学校運営協議会の話し合いから＞

これからの社会で必要な力や具体的な場面で見られる生徒の実態、様々な世代や立場の方の考えや願いなど、多面的な生徒の把握と学校教育目標の捉え直しにつながる貴重な機会となった。

② 本校で育てたい資質・能力について多面的に考察

これらのアンケート結果を踏まえて、全職員で「資質・能力設定のための協議会」を実施した。その際、まずはカリキュラム・マネジメントの概念や意義、今後の方向性に

ついて全職員で共通理解を図った。その上で、付箋を貼りながらのワークショップ形式で行ったが、ここでも、生徒の実態や地域や社会、将来や願いなど様々な実状や根拠とつなげての活発な意見交換がなされた。



2016.01.14

カリキュラム・マネジメント資質・能力についての協議会

カリキュラム・マネジメントとは…
 学校教育目標の具現化のために、学校で育てたい資質・能力を指標としながら教育活動の質の向上を図ったカリキュラムを全員で創り出し、実効性、組織的・継続的な営みのこと

メリット

- 全職員で行うチーム学習としての協働的な取組
- 全ての教育活動で育成を目指すことでの相乗効果
- 年間を見通した関連や連携・統合による意識化や効率化
- 生徒・保護者・地域を巻き込んだでの共通理解や同一歩調での育成
- 教員が負担しても続いていく基盤や土壌づくり
- 客観的・多面的な評価と改善が可能

新たな取組というよりは、これまでの取組の再編や提乳直し…

学校で育てたい
資質・能力を記入

白紙封筒

その資質・能力を達成
する理由や考えを記入

黄色封筒

※ホームページで見やすいように
 ※複数枚用意しても構いません
 ※名前ははいりません

付箋を貼った後、関連のあるものを削いだり、分類したりする
 などして書籍で盛り込んでください。

この協議会では決定まで至らなかったものの、決定する上で次のような項目を重視することを確認して、再度検討することとした。

- 生徒の実態に即して足りないものか、さらに伸ばしたいものであること
- 立志三訓「希望」「友情」「鍛練」のいずれをも含む中心となる資質能力であること
- 資質・能力であることから、特に育てたい力を重視⇒「○○力」「～を～する力」等
- 覚えやすく評価が可能なものであること

その後、研修会の場を経て、育成したい力や態度を加味しながら「創造力」に決定した。この背景には、「自分たちで疑問を感じ、思考したり発展させたりしよう」という意識が低く、受動的な姿勢が強い」という生徒の実態や、「地域の魅力を発見、着目して継続できる発想力や開発力、具現化する力を育成したい」というような地域・保護者の願いなどがある。

学校教育目標 **夢をかな**

創造力

理解できないも
玉解や方
が一つとは限
らない問題に
対して解決し
ようとする力

多様な価値に
気付いて受け
入れる心と価値
あるものを見出
す力

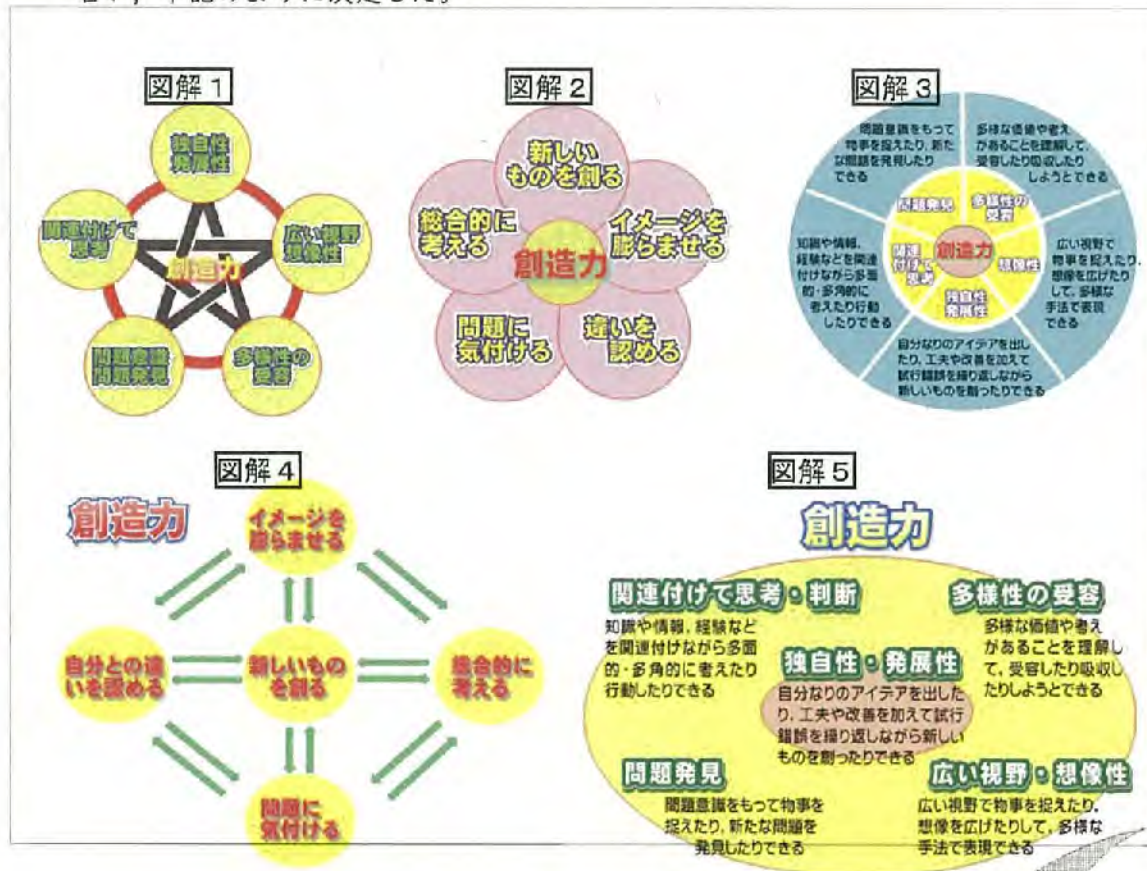
自己の生活や
社会をよりよ
くするための自
律的な態度や判
断力

新たな問題を
発見し、新しい
発想でアイデア
を出して工夫や
改善を加えよう
とする態度

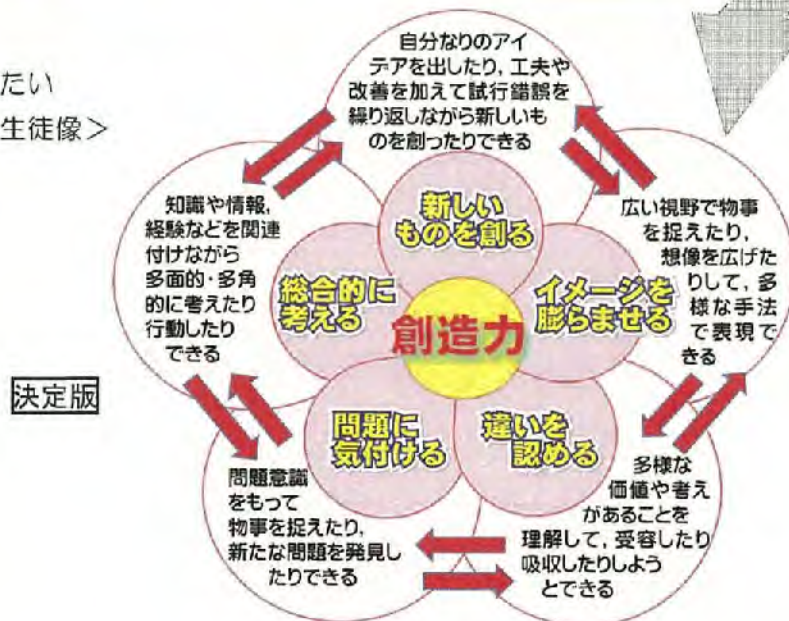
知識や経験を
土台にしながら、
多様な発想や
批判的考察に
よって探究する
力

③ 育てたい資質・能力を具体的な生徒の姿として設定

「創造力」を育成するに当たり、どのような生徒像が求められるか、職員にアンケートを実施した。その結果を基に、五つの具体的な生徒の姿を設定し、図解に表した。表し方についても、文言や意図を汲んだ図解としてふさわしい形態のアイデアを出し合い、下記のように決定した。



＜西目中学校で育てたい
資質・能力と生徒像＞



(2) 学校の教育目標等の実現のために

① 資質・能力育成のための授業実践

「創造力」を育成するための授業改善の一端として、特別活動の授業に全職員で取り組んだ。カリキュラム・マネジメントの担い手は生徒である。生徒が学びの場づくりに参画できるように、生徒の立案・計画・運営による生徒総会を行った。具体的には、生徒会テーマに基づいて学校生活における問題点に焦点を当



て、議題化し、改善策を模索していく話し合いである。正解のないものに対して思案し合意形成を図ることは、「創造力」を育むことはもとより、将来必要となる様々な資質・能力の伸長をも促すであろうとの考えから授業を構想した。また、異年齢集団による班編制を行うことで、立場や考えの違いを認めたり、他学年から学び合う機会にもなると考えた。

令和元年度の生徒会テーマは、『超 Over～今までの自分たちを超えろ～』である。生徒は前年度の実績を上回ろうと部活動や学校行事に励み成果を上げてきた。しかし、一方で、普段の学校生活に目を向けると、時間管理の甘さや凡事徹底の不足が改善できていないことが課題として挙げられた。



そこで、総務の委員や全校委員会による協議を経て、授業の2分前自学の改善策について検討することになった。生徒会から全校へ議題を提起し、まずは各学級での実態や改善策についてアイデアを出した。学級会では、手引きを活用しながら話し合いにおける約束や進め方について再度確認し、徹底が図られるように働きかけてもらった。



また、学級での話し合いの経緯や具体案は、思考ツールを活用するなどして視覚化し、把握や比較がしやすいように工夫した。

拡大全校委員会 自分達の生活における問題発見と提起



学級会 多様な発想と多角的・多面的視点での考察



生徒総会 集団の一員としての在り方の認識と波及



【生徒の振り返りより抜粋】

○私たちが社会に出たときのことも考えての話合いで、みんな深く考えられたのでいい機会になったと思う。

○案がメリットしかないことはほとんどないと思うので、そのデメリットを少しずつ小さくしていくのが話合いではないかと考えた。

○2年生や3年生は、他の問題ともつなげて、なおかつ、みんなが納得するような意見を述べていてやっぱりすごいと思った。

○3年生と1年生のもつ意見に違いがあって、それを踏まえた上で解決策を考えることができた。

○「1つの視点からだけでなく、違うところから考えるとどうなのか」というもっと深く考えを追究できるようにしたいと考えさせられた。

○自分が考えていた意見の足りないところがあったから、反論まで考えて返答を準備しておくのと良かった。

○私たちが社会に出たときのことも考えての話合いで、みんな深く考えられたのでいい機会になった。

○1年生と2年生の意見を取り入れることによって新しい発見につながった。

当日は、初めての縦割り班、1班が十数名ということもあり遠慮も見られたが、参観者からは、協議内容や進行の仕方について日頃の指導の成果であるとお褒めの言葉もいただいた。その場では合意形成までは至らなかったものの、発言は、社会や将来、他の活動と結び付けての発想や、メリットとデメリットとの関連、他学年の実態や課題についての核心的な意見など、多岐にわたった。また、話合いを終えての振り返りからは、下記のように、それぞれに得るところが多い話合いとなったことがうかがえた。

また、この生徒を軸とした一連の話合い活動には、様々な教職員で検討や支援、分担を行ってきている。ねらいや目的を共有し、全職員が協働的に生徒の資質・能力の伸長のために作り上げた授業であったことも大きな意味があったといえる。

授業を参観された方々から、協議会において次のような意見・助言をいただいた。

- ・教育を束ねる教育課程であることが必要であり、教科を束ねるのは「資質・能力」である。他教科等と資質・能力でつなごうという視点をもつことが必要である。
- ・本時の授業が、単元の中、年間の中にどのように位置付くか、他単元、他教科、他学年とどうつながるかを意識することが大切である。
- ・今回の授業でいえば、特別活動の単元の中に「創造力」をかみ砕いて入れていくとよい。創造力を支える「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」は、それぞれどのようなものを整理していくこと。さらに、それらが他教科等の資質・能力とどのようにつながるかを整理するとよい。
- ・授業を見る際、特に中学校では「自分の専門教科とどうつながっているか」「自分の教科で培った力が本時をどのように支えているか」を視点とするとよい。また、協議会では「各教科の立場で、今日の授業について何か言うとしたら～」というやりとりをしていくとよい。
- ・付けたい資質・能力を年度途中に変えることは構わない。むしろ、よい意味で適宜修正していくことが望ましい。生徒の成長に寄り添い、実状に応じて加筆修正すること（より具体的な方向へ向かったり、抽象度を上げたり等）。ただし、変える理由があること、過程が明らかになること、生徒に説明すること、みんなが納得できるものであることが大切である。
- ・「PDCA」とは言うが、学校現場では「CAPD」のサイクルが自然である（西目中ではそのようにしている。その過程を記録しておき、次年度にどう生かすか、どうつなげるかを検討するとよい）。

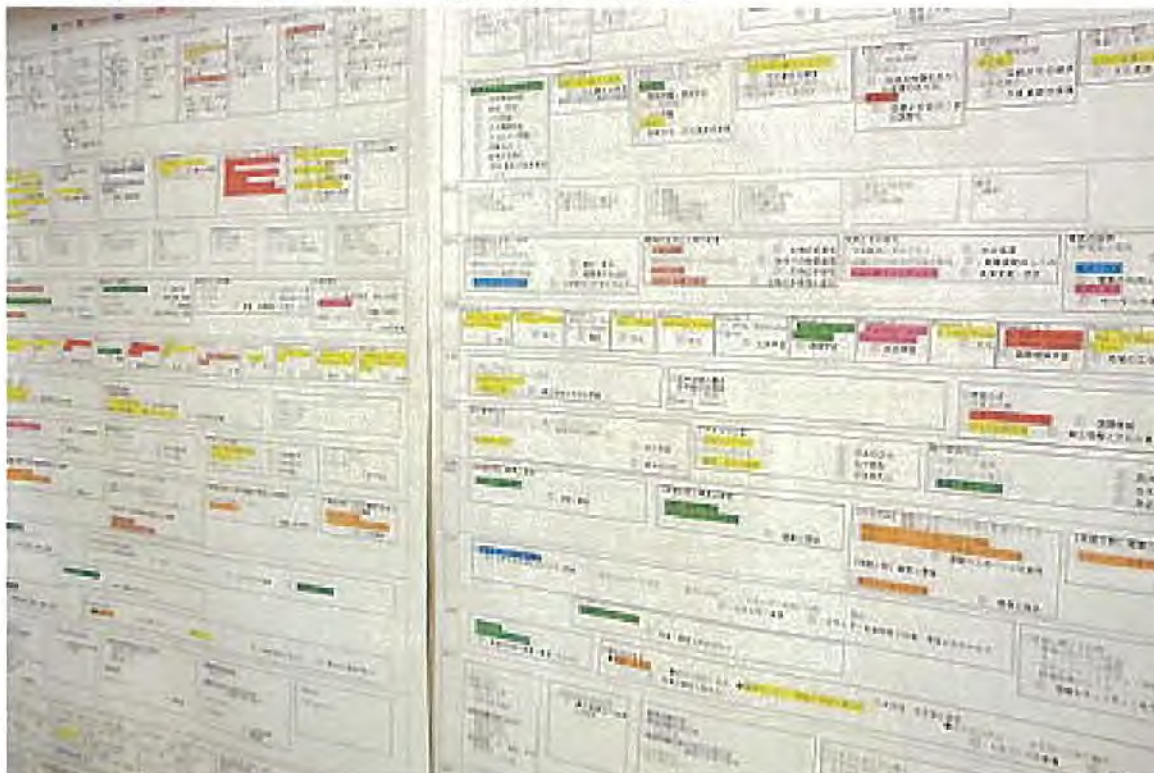


＜「カリキュラム・マネジメント調査研究」実地調査（令和2年1月17日）協議会より＞

② ESDをテーマとした資質・能力を発揮するための環境整備

各教科の単元を「環境」「国際理解」「防災」などESD（持続可能な開発のための教育）のテーマとなる観点で色分けし、一覧を作成した（下写真）。これは、教科等横断的な視点での見通しはもちろんのこと、学校行事との連携を模索するためである。

このESDの観点を絞り込みながら、総合的な学習の時間を中心とした「創造力」を発揮、活用できるカリキュラム編成を構想中である。



③ 人的・物的資源の整備

本校の特色的な行事の一つに「少年式」がある。将来の自分を思い描き、志を新たにす
るこの式では、地元で新たな発想で起業する方に講演をいただき、色紙にしたための書写
指導に講師を招き、PTA進路指導部に運営に携わってもらうなど、多くの地域人材が関
わっている。このように、従来までの実績から、関わった地域人材や関連施設、関係機関
等の洗い出しを行い、効果的に資質・能力の育成が図られるべく人的・物的資源の整備を
進めた。

(3) 教育課程等の評価・改善

① 令和元年度の成果

- ・「資質・能力」の設定に伴うアンケート調査や協議は、社会で必要な力や生徒の実態、地域や保護者、職員の願いや考えなどの多面的な把握と学校教育目標の捉え直しにつながった。
- ・これまで学習寄りだった資質・能力から、教育活動全般を視野に入れた資質・能力にシフトすることにより、あらゆる活動や機関との連携による育成が可能となる。その

ため、教育課程の編成や生徒会活動、学校行事などの有機的なつながりを見直し、検討する機会になった。

- ・カリキュラム・マネジメントの概念同様に、あらゆることにマネジメント能力を発揮していくことや、全職員での協働的な取組であることへの共通理解・意識が高まってきた。

② 令和2年度に向けての改善策

- ・下の「西目中学校 カリキュラム・マネジメント モデル」(令和元年度作成)をもとに、「創造力」を視点に教育活動を捉え直し、見直しや再編を図るとともに、実施状況と評価を蓄積して改善に努める。
- ・「創造力」を様々な場面と結び付けて生徒に下ろし意識化を図るとともに、生徒自らが推進していけるようなしつけや支援を工夫する。そして、PDCAサイクルで評価、修正を加えていく。
- ・「創造力」が、各教科の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」とどう関連があるのかを整理し、構造化、可視化を図っていく必要がある。そのため、三つの観点と期待される生徒の姿を結び付けて、学習指導案や指導計画を作成していく。
- ・あらゆる教育課程を通して「創造力」を育成するに当たり、外部機関や地域人材にも、その趣旨や目的を理解してもらい、評価材料を求める必要がある。それらのコーディネートをはじめ、カリキュラム・マネジメントを推進する上で、校内組織の確立や役割分担、運営など組織面でもPDCAを機能させていかなければならない。



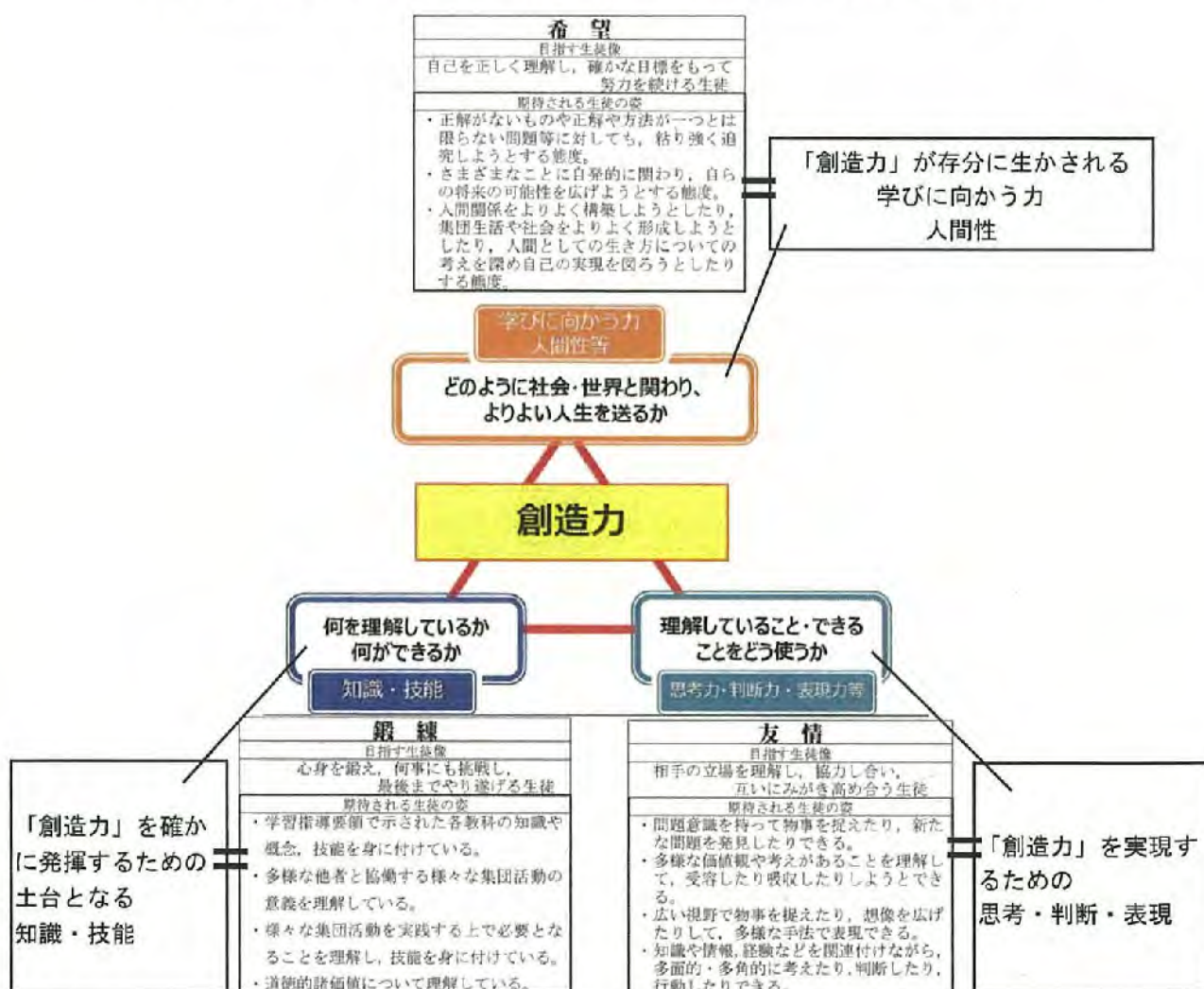
<西目中学校 カリキュラム・マネジメント モデル>

3 令和2年度の取組

(1) 本年度の研究を推進するに当たって

本年度の研究の中心は、教育活動全般を通して本校で育てたい資質・能力である「創造力」を生徒が身に付けられるように、「つなぐ・つながる・つなげる」をキーワードとして単元や授業を構想し、PDC Aサイクルを確立させながら、具体的に取り組むことである。そのために、まずは教職員も生徒も「創造力」を日頃から意識して教育活動に取り組んだり、学校生活を送ったりすることが大切と考えた。本年度は、昨年度末の人事異動により教職員が大きく入れ替わっている。そこで、本校で育てたい資質・能力が「創造力」に決まった経緯や、「立志三訓」と「創造力」、「育成すべき資質・能力の三つの柱」とのつながりを、研修会で下図を使って確認し合い、本研究についての共通理解を図った。また、新型コロナウイルスによる教育活動への影響を視野に入れ、適宜、生徒会や地域人材、関連施設、関係機関と連絡を取り合いながら、体験活動等実施の可否に応じて、これまでの実施計画の見直しを図ることも確認し合った。そして、教職員と生徒共々、新しいものを創り出していく視点を大切にしたい教育活動の推進を目指して研究がスタートした。

＜「立志三訓」、「創造力」、「育成すべき資質・能力の三つの柱」との関連＞

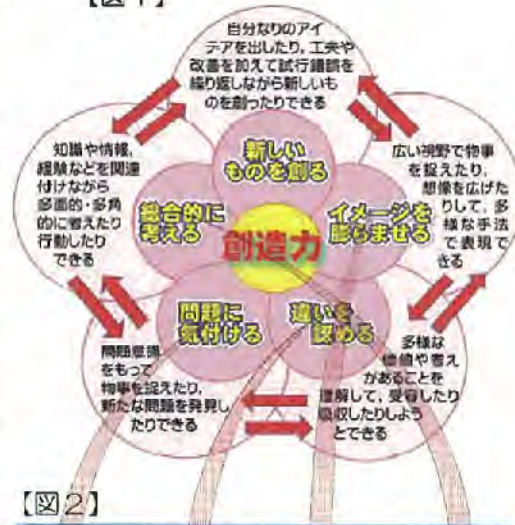


(2) 学校の教育目標等の実現のために

① 教科等横断的な視点での「創造力」の育成

教科の枠を超えて「創造力」を育む指導を行うために、図1中の「総合的に考える」をはじめ、「創造力」の育成につながる項目を図2のように実際の授業の場面と結び付け、単元や1単位時間における指導の基本型とした。この指導スタイルは、問題解決学習の授業展開と同じである。したがって、図3のようにどの教科でも問題解決型の学習を意図的にかつ繰り返し行っていくことが、教科の目標の達成や資質・能力の伸長とともに「創造力」の育成につながるという考えのもと、実践に取り組んだ。

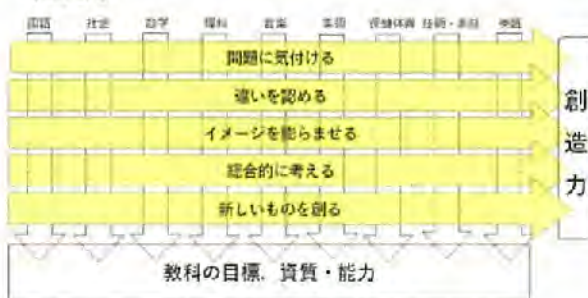
【図1】



【図2】



【図3】



【資料1】

※以下で育てたい資質・能力（※A～Eは、教科の育てたい資質・能力a～eに対応）

| | A 問題に気付く | B 違いを認める | C イメージを膨らませる | D 総合的に考える | E 新しいものを創る |
|-----------|---|--|---|--|---|
| | ○問題意識を持って物事を捉えたり、新たな問題を発見したりできる。 | ○多様な価値観や考えがあることを理解して、受け取り方や見方を変えたりすることができる。 | ○広い視野で物事を捉えたり、想像を広げたりして、多様な手法で表現できる。 | ○知識や情報、経験などを関連付けながら、多角的・多面的に考えたり行動したりできる。 | ○自分なりのアイデアを出したり、工夫や改善を加えて試行錯誤を繰り返しながら新しいものを創ったりできる。 |
| 指導計画（さ/る） | | | | | |
| 時 | ねらい（評価の観点） | 学習活動 | 育てたい資質・能力につながる生徒の姿 | 教師の支援 | |
| 1 | 詩の概要を捉え、表現に着目して、疑問点を挙げる。 【思・判・表】 | 詩を朗読し、読み取った内容を捉え、疑問点を挙げる。 | a 自分自身の見方や考え方を明らかにし、他の見方や考え方を理解し、自分の考えや疑問点について話し合う。 | 一読したときの違和感や気付きについて問いつける。 | |
| 2 | 作者の表現の意図について考えることができる。 【思・判・表】 | 解決できそうな疑問を選び、なぜその表現にしたのかについて話し合う。 | d 前後の内容や、言葉の指す広い意味と関連させて疑問を解決している。 | 他の言葉で表現されていた場合どういった印象の違いがあるかを問いつける。 | |
| 3 | 他のペアの発表を聞いて、表現の視座に挙げながら詩に込められたメッセージを捉えることができる。 【思・判・表】 | 解決した疑問の答えを発表し合い、最後に「一番強いメッセージが込められているのはどこか」について話し合う。 | b 自分の考えと比較し、複数の視点から読み取っている。 | 表現を視座として、詩のメッセージを考えられるように、どの部分から読み取ったのかを問いつける。 | |
| 5 | 互いに考えを伝え合い、現代の私たちが受け取るべきメッセージについて文章でまとめようとしている。 【生】 | 現代社会の状況と詩のメッセージに重なる部分を探し、私たちが受け取るべきメッセージを考える。 | d 詩のメッセージと現代の状況を互いに捉え、重なり合いながら自分の考えをもっている。 | 広い視野で捉えられるよう文章の場を設け、気付きを促す。 | |

ア 単元の指導計画作成上の工夫

左の資料1は、9月に行った校内授業研究会の際の国語の学習指導案の一部（単元の指導計画）である。

「創造力」の育成に関わる五つの項目（A～E）と1時間ごとの学習のねらいとの関連を図り、「育てたい資質・能力につながる生徒の姿」（a～e）として指導計画に位置付けた。このような手立てを取ることで、問題解決型の学習を展開する中で「創造力」を育む指導が意図的・計画的に行われていくものと考えた。

しかし、参観した指導主事から、「学校として育成したい資質・能力

の明確化までの経緯，ハマナスの花びら（図1）で表した五つの項目の整理等，非常にすばらしい。」と評価していただいた上で，次の指摘・助言があった。

- ・指導案が，教科としての資質・能力よりも，学校としての資質・能力を付けることをメインに書かれている。
- ・教科の時間は，教科としての資質・能力を育成する時間。国語科でいえば，指導事項そのものを育成する時間である。
- ・単元構想を工夫し，その積み重ねによって長いスパンで育成されるのが，学校としての資質・能力と考える。
- ・単元構想の根拠となる「学校としての資質・能力」が複数だと焦点化できない。一つに絞り，メインとなる指導事項との組み合わせを決定するとよい。
- ・授業者がa～eを設定し，毎時間，a～eを意識するのは大変である。
- ・花びらの5項目が偏らないようにする必要がある。そこで大切なのが年間指導計画。年間を見通して，バランス良く各単元にA～Eを配置するとよい。

これらの指摘等は，教科の指導と「創造力」の育成を目指す指導との，いわゆる「ダブルスタンダード」についてである。これを受けて研修会等で協議し，まずは「創造力」の育成に関わる五つの項目中の一つを単元の指導全体を通して育てていくことや，それを拠り所にして単元を構想することを確認した。そして，12月実施の第2回校内授業研究会では，指導案の指導計画の箇所を次のように変更した。（太線による囲みは本単元を通して育てたい資質・能力）

4 全体計画

本校で育てたい資質・能力

| 問題に気付ける | 違いを覚める | イメージを膨らませる | 総合的に考える | 新しいものを創る |
|----------------------------------|--|--------------------------------------|---|---|
| ○問題意識を持って物事を捉えたり，新たな問題を発見したりできる。 | ○多様な価値観や考えがあることを理解して，受容したり吸収したりしようとする。 | ○広い視野で物事を捉えたり，想像を広げたりして，多様な手法で表現できる。 | ○知識や情報，経験などを関連付けながら，多面的・多角的に考えたり行動したりできる。 | ○自分なりのアイデアを出したり，工夫や改善を加えて試行錯誤を繰り返しながら新しいものを創ったりできる。 |

指導計画（4/8）

| 時間 | ねらい | 学習活動 | 教師の支援 |
|----|--|---|---|
| 1 | ・物体が見えるときには，光源からの光や反射した光が目に入っていることを理解できる。【知・技】 | ○物の見え方 ・身のまわりの現象を通して，物が見える理由について考え，光の性質についてまとめる。 | ・具体的な現象と結び付けることにより，物が見えるという身近な経験について深く考えられるようにする。 |
| 2 | ・光の反射について，正しい手順で実験を行い，正確に | ○光の反射（1） ・鏡を用いて，鏡に映る物と見 | ・位置関係を正確に把握するために，マス目入 |

さらに，単元配当表（資料2）に各単元における「創造力」の重点項目を示すことにした。教科や分野の特性によって章単位で配置してもよいこと，1年間の中で教科のねらいとの関連を図りながらバランスよく項目を配置することに留意して作成した。このようにして長期的なスパンのもとで，各教科が「創造力」を育てるための指導に一体となって計画的に取り組むことは，とても意義あることであると感じ

た。

令和2年度 社会科 単元配当表

山形市花町立西日中学校

□本校で育てたい資質・能力

| 創造力 | | | | |
|----------------------------------|--|--------------------------------------|---|---|
| 【A】問題に気付ける | 【B】違いを認める | 【C】イメージを膨らませる | 【D】総合的に考える | 【E】新しいものを創る |
| ○問題意識を持って物事を捉えたり、新たな問題を発見したりできる。 | ○多様な価値観や考えがあることを理解して、受容したり吸収したりしようとする。 | ○広い視野で物事を捉えたり、想像を広げたりして、多様な方法で表現できる。 | ○知識や情報、経験などを関連付けながら、多面的・多角的に考えたり行動したりできる。 | ○自分なりのアイデアを出したり、工夫や改善を加えて試行錯誤を繰り返しながら新しいものを創ったりできる。 |

| 月 | 1年(105) | 2年(105) | 3年(140) |
|----|--|--|--|
| 1 | オリエンテーション 1 | オリエンテーション 1 | オリエンテーション 1 |
| 4 | 第1編 世界と日本の地域構成 第1章 世界の地域構成【C】 5 第2章 日本の地域構成【C】 4 | 第4章 近世の日本と世界【D】 13 第3章 幕藩体制の確立と鎖国 5 第4章 経済の成長と幕政の改革 6 学習のまとめと表現 2 | 第6章 二度の世界大戦と日本【A】 19 第1章 第一次世界大戦と民族解放思想の動き 3 第2章 大正デモクラシー 3 第3章 恐慌から戦争へ 5 第4章 第二次世界大戦と日本の戦戦 4 学習のまとめと表現 2 |
| 5 | 第1章 歴史のつらえ方・調べ方【E】 6 1 私たちと歴史 3 2 身近な地域の歴史 3 | 第3編 日本のさまざまな地域 17 第1章 地域調査の方法を学ぼう【E】 6 第2章 日本の特色と地域区分【B】 11 | 第7章 現代の日本と世界【D】 14 1 日本の民主化と発展 4 2 世界の多様化と日本 4 3 発展の軌跡とこれからの日本 4 学習のまとめと表現 2 ●歴史学習の終わりに 3 |
| 6 | 第2章 原始・古代の日本と世界【C】 17 1 人類の出現と文明のまき 5 2 日本の成り立ちと倭の王権 3 3 大帝国の出現と律令国家の形成 3 4 貴族社会の発展 4 学習のまとめと表現 2 | 第3章 日本の諸地域 15 1 九州地方【D】 5 2 中国・四国地方【A】 5 3 近畿地方【C】 5 | 第1章 現代社会と私たちの生活【C】 10 学習のはじめに 1 1 現代社会の特色と私たち 4 2 私たちの生活と文化 2 3 現代社会の見方や考え方 3 |
| 7 | 第2編 世界のさまざまな地域 第1章 世界の人の生活と環境【B】 8 第2章 世界の諸地域 16 1 アジア州【B】 7 2 ヨーロッパ州【A】 6 3 アフリカ州【D】 3 | 第5章 日本の近代化と国際社会【D】 25 1 近代世界の確立とアジア 5 2 開国と幕府政治の終わり 3 3 明治維新と立憲国家への歩み 7 4 激動する東アジアと日清・日露戦争 5 3 近代の産業と文化の発展 3 学習のまとめと表現 2 | 第2章 個人の尊重と日本国憲法【B】 16 学習のはじめに 1 1 人権と日本国憲法 4 2 人権と共生社会 7 3 これからの人権保障 4 |
| 8 | 第3章 中世の日本と世界【D】 15 1 武家政治の始まり 5 2 コーランアの動きと武家政治と変化 3 3 結びつく民族と王朝上の社会 3 学習のまとめと表現 2 | 第3章 日本の諸地域 20 | 第3章 現代の民主政治と社会【C】 18 学習のはじめに 1 1 現代の民主政治 3 2 国の政治のしくみ 10 3 地方自治と私たち 4 |
| 9 | 第3章 世界の諸地域 12 4 北アメリカ州【A】 5 | 第3章 日本の諸地域 20 | 第4章 私たちの暮らしと経済【A】 21 学習のはじめに 1 1 消費生活と経済 4 2 生産と労働 4 3 経済の働きと金融 5 4 政府の役割と国民の福祉 4 5 これからの経済と社会 3 |
| 10 | | | 第5章 地球社会と私たち【A】 13 学習のはじめに 1 |
| 11 | | | |
| 12 | | | |
| 1 | | | |

イ 他教科との連携による深い学び

中学校は教科担任制であるため、他教科の学習内容等についての理解が十分ではない。しかし、「創造力」を育む協働研究を通して、教科等横断的な視点による授業づくりへの意識の高まりとともに、教室などに掲示・展示している他教科等の資料や生徒の作品等にこれまで以上に目が向くようになり、自教科の指導に活かそうとする取組が見られた。

右は、11～12月に第2学年国語科「平家物語」の学習に合わせて掲示した資料である。この学習と関連した内容を、社会科歴史的分野で第1学年の12月頃に指導する際、社会科担当教諭がこの掲示物を目にしていたことにより、授業づくりにおいて「翌年の国語科の授業につながるように」という視点が追



● Have you ever seen the rain



● Have you ever seen the rain の歌について学んだこと・感じたこと

最初鼻水を見た時は、雨の歌だと思っただけで、
 本当は、ベトナム戦争の時に歌われたと知り、あどろ
 きました。それをふまえた上、歌を聞くと、戦争は、
 たくさんの人を苦しめたんだなと思いました。
 私たちは戦争の時代に産まれないけれど、大変だったのよ
 と改めて感じるきっかけになりました。



「ベトナム戦争、を学ぶ事は、
 戦争は、たくさんの人を苦しめ、悲しい事だとなら
 ない、 戦争は、戦争としてならないものな
 と思いました。
 以前、英語の学習で「Have you ever seen the rain」
 という歌を歌いました。その歌はベトナム戦争の時に歌わ
 れた歌でした。その歌を歌うことで、世界の平和について
 よく考え、行動していきたいです。
 また、日本で言う、ベトナム戦争、が、英語という教科でも
 取り扱われていて、勉強のつながりを感じることが
 できました。

加された。そして、生徒の学びをつなげるために、学習指導要領で示されている指導内容のもと、どのような視点で学習活動を展開すれば豊かな学びになるのか等、これまでの実践を振り返り今後の指導方法を考える契機になった。

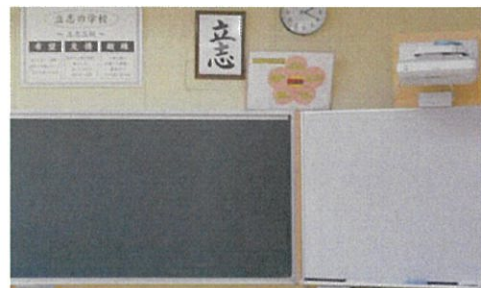
また、左は第3学年の英語科担当教諭が用いた補助教材である。「このような学習をしましたが、ベトナム戦争についての授業は終わりましたか」と話しかけられた社会科担当教諭は、その後、授業で動画を用い、生徒たちがベトナム戦争についてのイメージを膨らませられるように授業を行った。授業後の生徒の記述からは、教科間の学習のつながりを感じるとともに、戦争全般に対する認識を深めている様子が伝わってきた。

学習内容の面から教科を横断する授業を構想する場合、社会科が他教科の学習とつながられるケースが多いことや、他教科と連携を図る指導は「創造力」の育成に関わる五つの項目の中でも、特に「イメージを膨らませる」「総合的に考える」力を育む際に有効であることの確認ができた。また、教科の学習内容について教員間で情報交換を行っている姿が以前より多く見られるようになった。

② 生徒や地域と共に育成を図るための施策

ア パネルの設置による意識の高揚

「西中生が目指す資質・能力」が「創造力」であることを日頃から意識して取り組むことができるように、年度当初に各教室にパネルを掲示した。このパネルを活用しながら、避難訓練（地震）の事前指導で「もし一人だったら……」「もし机がない場所だったら……」と創造力（イメージを膨らませる）に絡め、訓練に向けて意識の高揚を図った学級担任もいる。このような取組が、前期学校経営評価における「『創造力』のパネルを含め学級掲示がとても有効であった。今後も機会に応じて触れながら指導に当たりたい。」という回答につながっているものと考えている。また、生徒に対する7月のアンケートでも「今までは何も意識せず授業を受けて



いたけれども、今年、このようなものができてから、意識して授業に取り組むようになって、他の人の話をよく聞いたり、自分の考えをまとめたりするなどの様々な力を付けることができました」との回答が見られた。

イ 生徒会活動を通した「創造力」の育成

年度当初の集会等で、「創造力」を身に付けることが本校生徒にとって必要であることや、これまでにはない新たな取組を期待していることを伝え、「創造力」をもとにした生徒会活動の活性化を図った。

新型コロナウイルスの影響を受け、運動会に代わる行事(「レクリエーション大会」)を企画したり、学校祭の実施に向けて様々な方向から検討したりと、「創造力」を育む5項目の全てを発揮しながら取り組む姿が多くの場面で見られた。

特に、学校祭に向けた生徒集会では、右の写真のように生徒会長から「今年の西中祭はコロナウイルスの影響で人と人の距離を確保したり、規模を縮小したりしなければならないこともあると思います。しかし、西目中で目指す力である創造力を発揮して、例年に劣らない西中祭にしましょう。特に『問題に気付ける』『総合的に考える』『新しいものを創る』を意識して、コロナに適応した新しい西中祭を創っていきましょう」という呼びかけが行われた。



実際に例年にない部門を設置したり、感染症への対策を考えたりするなど、アイデアを出し合いながら取り組んだ。学校祭終了後には、生徒会総務がこの三つの観点から総括を行うとともに、次年度の実施に向けての留意点をまとめた。

ウ 地域の人材等を活用した「創造力」の育成

コロナウイルスの影響により、修学旅行をはじめ多くの校外学習が中止となった。そのような中、本年度も下の学習を行う際に関係機関や地域の方の協力を得ながら、「創造力」の育成に取り組んだ。



| 内容 | 対象 | 実施月 | 実施時間等 |
|-------------|-----|-----------|-------------------------|
| 体育(ダンス) | 全学年 | 9月 | 1年5時間 2年7時間 3年9時間 |
| 国語(書写) | 2年生 | 11月 | 8時間 |
| 歯磨き指導 | 全学年 | 6, 11, 2月 | 約20分程度 年12回実施 |
| PA | 1年生 | 11月 | 2時間 |
| クロスロード | 3年生 | 11月 | 2時間 |
| こころの健康づくり教室 | 3年生 | 11月 | 1時間 |



国語科担当教諭からは、「書写の綿密な行書指導にはこれまで苦慮してきたが、『少年式』（P14参照）で生徒が披露する決意を託した漢字一字と結び付け、外部講師を招き、その専門性を活用しながら指導を行った。生徒は、自分の思いと字体を考えながら表現することで、思考力・判断力・表現力を発揮しながら取り組めたと言える。」との声が寄せられた。このことは、体育科のダンス指導にも通じる。また、歯磨き指導は、自己の歯の状態を知り、その状況に応じて適切な措置を取るという、まさに生徒自らがPDCAサイクルを回しながら歯の健康に努める機会となっている。



③ 総合的な学習の時間の再編とカリキュラムの整備

昨年度末、教務会においてこれまでの総合的な学習の時間の見直しを行った。そして、以前から本校で行ってきた体験活動等との関連により、1年生は「環境」、2年生は「産業・経済」、3年生は「国際理解」をテーマに、「ESD」に向けて探究的な学習を行うことにした。そのために第1回研修会議で、昨年度作成した「創造力に関わるカリキュラム」（P14参照）上に、それぞれのテーマと関係する単元を精選しながら下表のように線で結び、他教科等との学びのつながりを、各学年の総合的な学習の時間担当だけでなく全ての教員が意識できるようにした。

西目中学校 3年生 創造力に関わるカリキュラム

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
|------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 国語 | 漢字の学び ○社会との関わりを学ぶ ○漢字の目的に合った 書き方を学ぶ | 読書を楽しむ ○読書の楽しさを伝える ○読書の楽しさを伝える | 読書を楽しむ ○読書の楽しさを伝える ○読書の楽しさを伝える | 読書を楽しむ ○読書の楽しさを伝える ○読書の楽しさを伝える | 読書を楽しむ ○読書の楽しさを伝える ○読書の楽しさを伝える | 読書を楽しむ ○読書の楽しさを伝える ○読書の楽しさを伝える | 読書を楽しむ ○読書の楽しさを伝える ○読書の楽しさを伝える | 読書を楽しむ ○読書の楽しさを伝える ○読書の楽しさを伝える | 読書を楽しむ ○読書の楽しさを伝える ○読書の楽しさを伝える | 読書を楽しむ ○読書の楽しさを伝える ○読書の楽しさを伝える | 読書を楽しむ ○読書の楽しさを伝える ○読書の楽しさを伝える | 読書を楽しむ ○読書の楽しさを伝える ○読書の楽しさを伝える | 読書を楽しむ ○読書の楽しさを伝える ○読書の楽しさを伝える |
| 理科 | 身のまわりの自然 ○身のまわりの自然を観察 ○身のまわりの自然を観察 | 身のまわりの自然 ○身のまわりの自然を観察 ○身のまわりの自然を観察 | 身のまわりの自然 ○身のまわりの自然を観察 ○身のまわりの自然を観察 | 身のまわりの自然 ○身のまわりの自然を観察 ○身のまわりの自然を観察 | 身のまわりの自然 ○身のまわりの自然を観察 ○身のまわりの自然を観察 | 身のまわりの自然 ○身のまわりの自然を観察 ○身のまわりの自然を観察 | 身のまわりの自然 ○身のまわりの自然を観察 ○身のまわりの自然を観察 | 身のまわりの自然 ○身のまわりの自然を観察 ○身のまわりの自然を観察 | 身のまわりの自然 ○身のまわりの自然を観察 ○身のまわりの自然を観察 | 身のまわりの自然 ○身のまわりの自然を観察 ○身のまわりの自然を観察 | 身のまわりの自然 ○身のまわりの自然を観察 ○身のまわりの自然を観察 | 身のまわりの自然 ○身のまわりの自然を観察 ○身のまわりの自然を観察 | 身のまわりの自然 ○身のまわりの自然を観察 ○身のまわりの自然を観察 |
| 英語 | Program 1 ○ A History of Vegetables | Program 2 ○ Let's Talk to Save the Earth | Program 3 ○ Elephant | Program 4 ○ Elephant | Program 5 ○ Let's talk about American People | Program 6 ○ What is the New Things to Learn | Program 7 ○ Clean Energy Sources | Program 8 ○ Clean Energy Sources | Program 9 ○ Clean Energy Sources | Program 10 ○ Clean Energy Sources | Program 11 ○ Clean Energy Sources | Program 12 ○ Clean Energy Sources | |
| 総合 | ○国際理解 ○ALT での国際文 化の交流 | ○国際理解 ○ALT での国際文 化の交流 | ○国際理解 ○ALT での国際文 化の交流 | ○国際理解 ○ALT での国際文 化の交流 | ○国際理解 ○ALT での国際文 化の交流 | ○国際理解 ○ALT での国際文 化の交流 | ○国際理解 ○ALT での国際文 化の交流 | ○国際理解 ○ALT での国際文 化の交流 | ○国際理解 ○ALT での国際文 化の交流 | ○国際理解 ○ALT での国際文 化の交流 | ○国際理解 ○ALT での国際文 化の交流 | ○国際理解 ○ALT での国際文 化の交流 | |
| 音楽 | 音楽 ○ソングライティング ○オーディオレコーディング | 音楽 ○ソングライティング ○オーディオレコーディング | 音楽 ○ソングライティング ○オーディオレコーディング | 音楽 ○ソングライティング ○オーディオレコーディング | 音楽 ○ソングライティング ○オーディオレコーディング | 音楽 ○ソングライティング ○オーディオレコーディング | 音楽 ○ソングライティング ○オーディオレコーディング | 音楽 ○ソングライティング ○オーディオレコーディング | 音楽 ○ソングライティング ○オーディオレコーディング | 音楽 ○ソングライティング ○オーディオレコーディング | 音楽 ○ソングライティング ○オーディオレコーディング | 音楽 ○ソングライティング ○オーディオレコーディング | |
| 美術 | 美術 ○「立てる家」を紙で 作る | 美術 ○「立てる家」を紙で 作る | 美術 ○「立てる家」を紙で 作る | 美術 ○「立てる家」を紙で 作る | 美術 ○「立てる家」を紙で 作る | 美術 ○「立てる家」を紙で 作る | 美術 ○「立てる家」を紙で 作る | 美術 ○「立てる家」を紙で 作る | 美術 ○「立てる家」を紙で 作る | 美術 ○「立てる家」を紙で 作る | 美術 ○「立てる家」を紙で 作る | 美術 ○「立てる家」を紙で 作る | |
| 体育 | 体育 ○運動会的な行事に 参加する | 体育 ○運動会的な行事に 参加する | 体育 ○運動会的な行事に 参加する | 体育 ○運動会的な行事に 参加する | 体育 ○運動会的な行事に 参加する | 体育 ○運動会的な行事に 参加する | 体育 ○運動会的な行事に 参加する | 体育 ○運動会的な行事に 参加する | 体育 ○運動会的な行事に 参加する | 体育 ○運動会的な行事に 参加する | 体育 ○運動会的な行事に 参加する | 体育 ○運動会的な行事に 参加する | |
| 情報 | 情報 ○デジタル技術の活用 ○デジタル技術の活用 | 情報 ○デジタル技術の活用 ○デジタル技術の活用 | 情報 ○デジタル技術の活用 ○デジタル技術の活用 | 情報 ○デジタル技術の活用 ○デジタル技術の活用 | 情報 ○デジタル技術の活用 ○デジタル技術の活用 | 情報 ○デジタル技術の活用 ○デジタル技術の活用 | 情報 ○デジタル技術の活用 ○デジタル技術の活用 | 情報 ○デジタル技術の活用 ○デジタル技術の活用 | 情報 ○デジタル技術の活用 ○デジタル技術の活用 | 情報 ○デジタル技術の活用 ○デジタル技術の活用 | 情報 ○デジタル技術の活用 ○デジタル技術の活用 | 情報 ○デジタル技術の活用 ○デジタル技術の活用 | |
| 道徳 | 道徳 ○道徳的行動の 実践 | 道徳 ○道徳的行動の 実践 | 道徳 ○道徳的行動の 実践 | 道徳 ○道徳的行動の 実践 | 道徳 ○道徳的行動の 実践 | 道徳 ○道徳的行動の 実践 | 道徳 ○道徳的行動の 実践 | 道徳 ○道徳的行動の 実践 | 道徳 ○道徳的行動の 実践 | 道徳 ○道徳的行動の 実践 | 道徳 ○道徳的行動の 実践 | 道徳 ○道徳的行動の 実践 | |
| 特別活動 | 特別活動 ○行事活動 ○行事活動 | 特別活動 ○行事活動 ○行事活動 | 特別活動 ○行事活動 ○行事活動 | 特別活動 ○行事活動 ○行事活動 | 特別活動 ○行事活動 ○行事活動 | 特別活動 ○行事活動 ○行事活動 | 特別活動 ○行事活動 ○行事活動 | 特別活動 ○行事活動 ○行事活動 | 特別活動 ○行事活動 ○行事活動 | 特別活動 ○行事活動 ○行事活動 | 特別活動 ○行事活動 ○行事活動 | 特別活動 ○行事活動 ○行事活動 | |
| 学校行事 | 学校行事 ○入学式 ○入学式 | 学校行事 ○入学式 ○入学式 | 学校行事 ○入学式 ○入学式 | 学校行事 ○入学式 ○入学式 | 学校行事 ○入学式 ○入学式 | 学校行事 ○入学式 ○入学式 | 学校行事 ○入学式 ○入学式 | 学校行事 ○入学式 ○入学式 | 学校行事 ○入学式 ○入学式 | 学校行事 ○入学式 ○入学式 | 学校行事 ○入学式 ○入学式 | 学校行事 ○入学式 ○入学式 | |

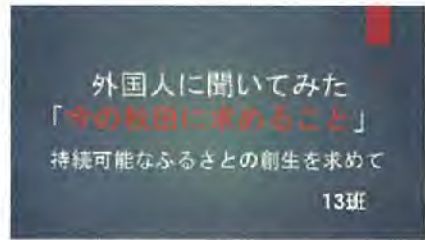
これらをもとにして、学年ごとに指導計画を立てた。しかし、今年度は、コロナウイルスの影響で、総合的な学習を計画する上で核となる職場体験学習（2年）、修学旅行（3年）の実施の可否について見通しが立たなかったり、職場見学（1年）の実施時期が例年よりも遅くなったりしたため、計画を幾度も見直さなければならなかった。そのような中であっても、各学年部では関係機関等と連絡を取り合いながら学習を進めた。（下は3年総合「国際理解」より）



6月 市内のALTとの交流会



7月 秋田県企画振興部国際課の活用



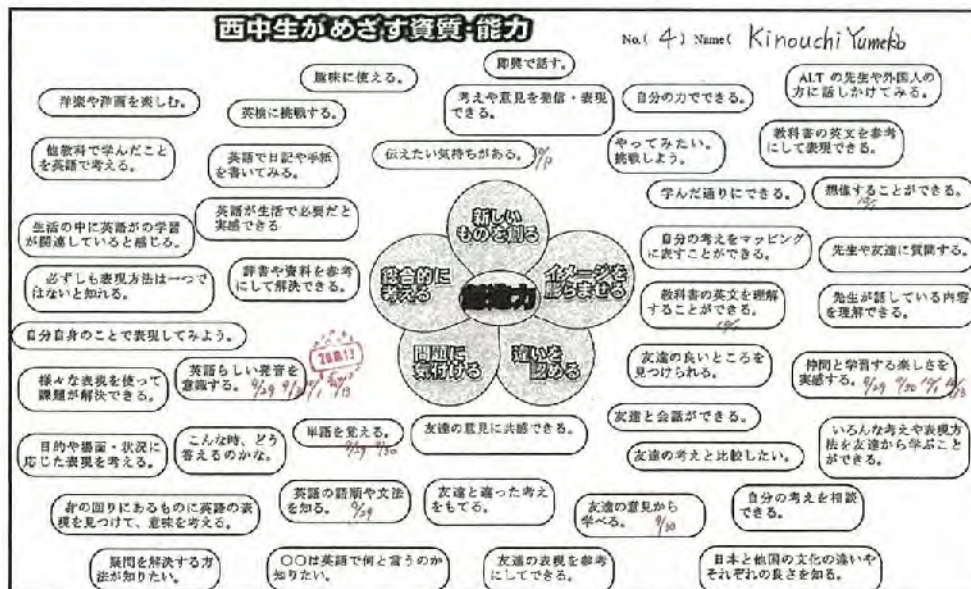
12月 生徒の発表（PPスライド）

今年度の総合的な学習の時間を振り返り、教員から「まとめの段階(パワーポイントで資料作り, 新聞作成など)で, 情報を適切かつ効果的に表現する技能等, 他教科で身に付けた既習事項が役立っている。それこそ, 総合的に考え, まとめる力が付いてきていると感じる。ただ, より深く探究していくためには, 課題設定が大事になってくると思う。既習事項を生かしながら, 課題を追究していく学習になるようにしていきたい。」, 「テーマによって, どうしても関連付けられない教科はあると思う。我々の頭を柔らかくして, つながられるようになればよいと思う。」という感想・意見があった。

(3) その他の取組

① 「創造力」を育む教科の取組

英語科では下の「振り返りカード」を作成し、「創造力」の育成に取り組んだ。



「創造力」を構成する五つの項目について、英語の授業における生徒の姿を具体的に並べ、生徒が「創造力」をイメージしやすいようにし、1時間ごとに自己評価（赤で日

付を記入)させた。そして、それらを参考にして単元の学びを振り返らせ、生徒自身が「創造力」につながる学習に取り組んでいることへの自覚を促した。それと同時に指導者のねらいとの整合を図る材料とした。

国語科でも同様の「振り返りカード」を今年度早々から作成・活用しており、アンケートで「(国語の授業を通して)『創造力』を意識しながら学習に取り組めた」と回答した生徒が多数見られた。

② 「道徳の授業を見合う会」の実施

全学級で国際パラリンピック委員会公認教材『I'm POSSIBLE』を用い、右のように「道徳の授業を見合う会」を実施した。(3Bは11月実施)

| 道徳を見合う会 | |
|------------------|----------|
| 実施予定日 | |
| ※日時 詳細を記入してください。 | |
| 1A | 9/17(木)⑤ |
| 1B | 9/17(木)③ |
| 2A | 9/16(水)② |
| 2B | 9/17(木)⑤ |
| 3A | 9/17(木)⑤ |
| 3B | |

「授業を見合う会」は、これまでは教員の指導力の向上を目的に行ってきた。参観した教員からは、「バリアフリーの在り方を考え、障害の有無にかかわらず、他者との違いや対話を尊重することの大切さを学ぶことは、『創造力』の育成や総合的な学習におけるESDの理念にも通じるものがあり、人間性の尊重や、多様性の尊重、持続可能な社会、西目町について考えることにもつながる。」、「本題材は、道徳の『他者の理解』『共生社会』の単元だけではなく、総合的な学習の時間や社会科の『基本的人権』、保健体育科の『豊かなスポーツライフ』、英語科の『異文化理解』等、他教科と横断的な学習の取組も可能になる。」という感想・意見があった。このように、教材を教科等横断的な視点から俯瞰的に捉え、効果的な指導の在り方について学ぶよい機会にもなっている。

③ 教科の枠を超えての協働研究

中学校では「教科の特性」と一蹴されることの多かった研究授業の協議会を、本校では「資質・能力の育成」という視点で括り、教科の枠を超えた協働研究を以前から行ってきた。今年度は、昨年度のカリキュラム・マネジメント調査研究実地調査協議会での助言(P13参照)を受け、「生徒が資質・能力を発揮する姿が見られていたか。」、「各教科の取組との関連や生かせることは何か。」を協議の視点にして、授業を参観したり、協議会で話し合ったりした。



当日、指導者として出席した指導主事からは、参観前に次のような話があった。

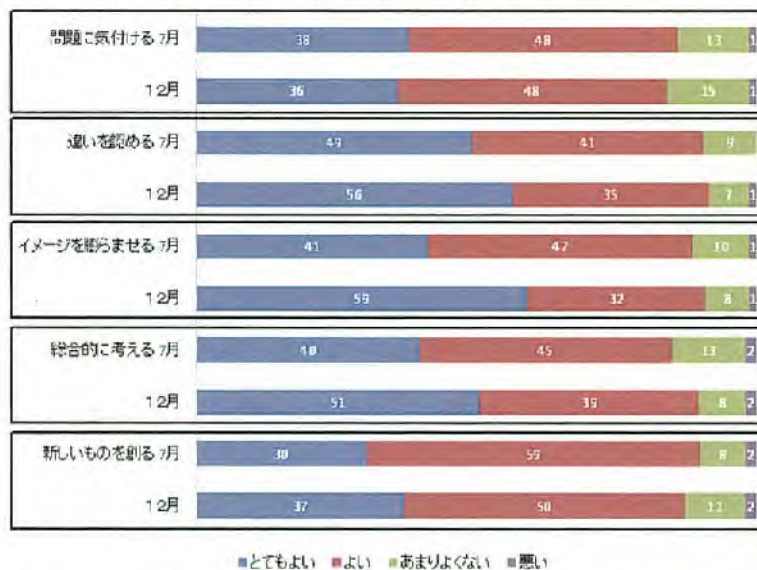
中学校では、教科等横断的に授業研究を進めていくことがとても大事だと思います。今日も、先生方が自分の専門教科ではない他教科の授業を見て、「自分の教科のこういうところが生かされているのではないか」とか、また逆に、「理科や英語の授業で見取ったことが、自分の授業のこういうところに生きてくるのではないか」というところを、きっと考えられると思います。そういう先生方の姿が見られるのが楽しみです。

実際に、教科としての指導事項やねらいの達成のみならず、「創造力の育成」という共通の土俵で授業を参観したり、協議したりすることができた。

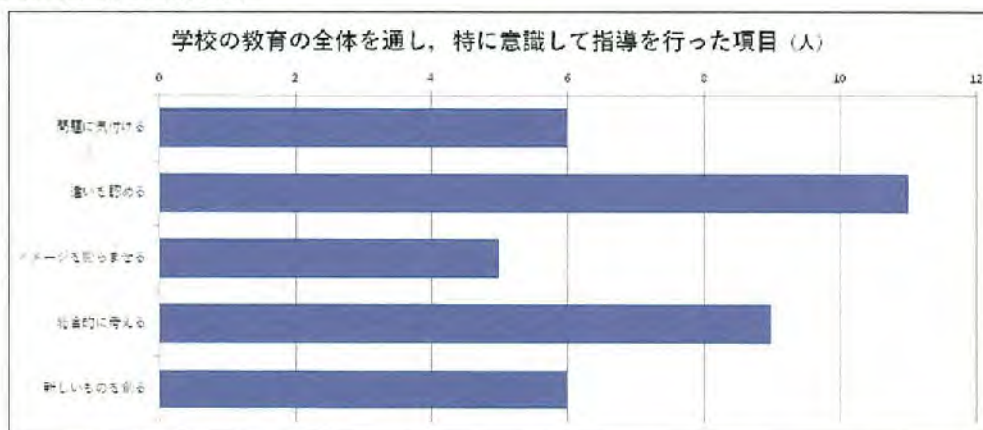
(4) 教育課程等の評価・改善

上述の(2)や(3)のような実践によって「創造力」を身に付けたり伸ばしたりすることができているかどうか、生徒及び教職員へのアンケートを通して取組の評価を行った。

「創造力」につながる自分自身の取組はどうだったか。(全校) %



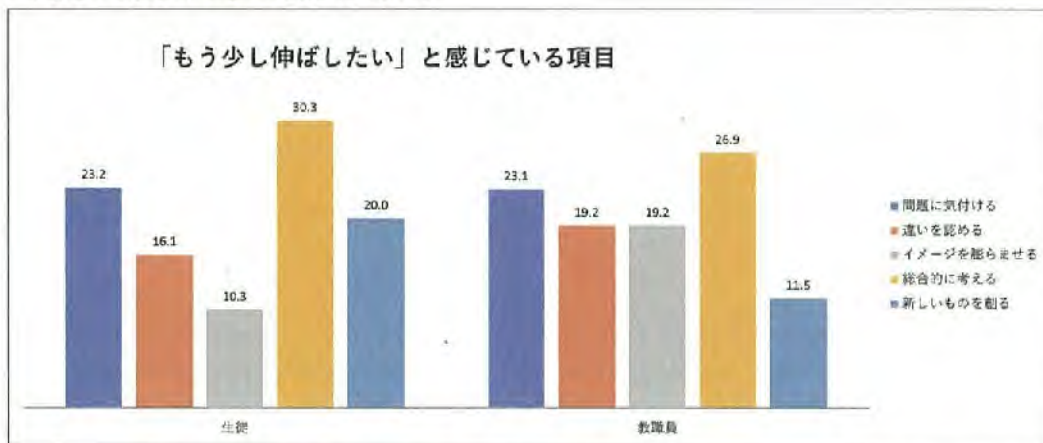
7月、12月とも、「創造力」を構成する五つの項目への取組について、多数の生徒が「とてもよい」「よい」と回答している。これは、教科・領域の指導をはじめ、日常生活や学校行事等の全ての教育活動を「創造力」と結び付け、生徒の意識を高めながらバランスよく育ててきた成果と捉えられる。特に、下のグラフに見られるように、教職員が「違いを認める」「総合的に考える」ことを意識して指導を行ったことが、生徒の自己評価にも反映されていると言える。



また、「問題に気付ける」、「新しいものを創る」を除く3項目については、7月より12月の方が「とてもよい」「よい」の割合が増えている。これには、夏季休業中に各教室にスクリーン一体型のプロジェクターや実物投影機（書画カメラ）が設置され、これらを活用した授業が多く行われるようになったことも関係していると考えられる。

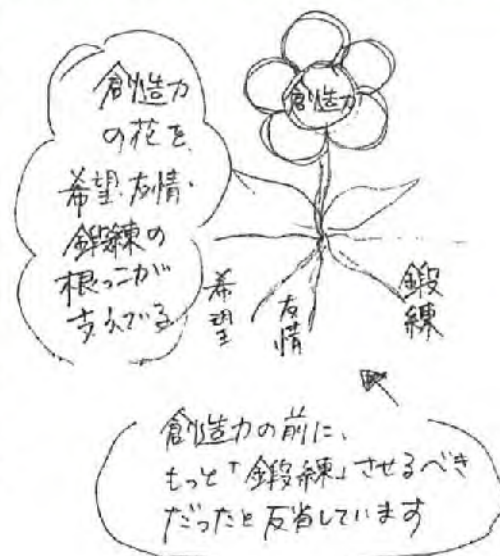
さらに、アンケートからは、学年が上がるにつれて、五つの項目への取組がよくなっていく傾向が見られることも分かった。中でも「新しいものを創る」については、1年生が77%、2年生が84%、3年生は100%の生徒が「とてもよい」「よい」と回答している。これは、学校行事や生徒会活動、部活動等において、リーダーとなり率先して活動に関わる機会が増えていくことに関係していることが、生徒の自由記述から汲み取れる。よって、下学年においても、生徒たちが積極的に関わっていくことができる行事等を企画し、生徒たちに運営を任せ、それを適切に評価していくことが、「創造力」を一層育む上で有効と考えられる。

今後、伸ばしたい項目としては、下の通り、生徒、教職員ともに「総合的に考える」、「問題に気付ける」の割合が高い。



「問題に気付ける」ようになることは、学習への意欲や学校生活の向上につながる。また、「総合的に考える」ことは、深い学びのみならず人や物事の正しい理解につながっていく。特に「問題に気付ける」については、「『自分たちで疑問を感じ、思考したり発展させたりしよう』という意識が低く、受動的な姿勢が強い」という生徒の実態（P9参照）からも、学校教育全体で重点的に育成を目指す必要のある観点である。教科指導においては、課題設定までの導入の工夫や、指導過程に多面的・多角的に検討を加える場を一層充実させること。また、学校生活における諸問題に意識が働くように支援を工夫し、生徒会や学年委員による自主的・自発的な解決が図られるように促していくこと。このような取組を計画的、継続的に行うことにより、少しずつ改善が図られていくものと考えられる。

なお、右は今年度本校に赴任した教員が、自身の取組についてアンケートに記載したものである。本年度の秋田県学習状況調査の結果からも、「鍛錬」、つまり、「何を理解しているか・何ができるか」という知識・技能の確実な定着を図る指導に、これまで以上に力を注いで取り組む必要があることを研修会で確認し合った。



4 取組を進める上での学校運営上の工夫

主に次の3点を意図的に行うことにより、全ての職員や生徒が関わりながら、学校教育目標の実現に向けて取組が進められている。

(1) 教科等横断的な学習を目指すことの確認

① 新学習指導要領の理解

新学習指導要領においては、学習の基盤となる資質・能力の育成、現代的な諸課題に対応する資質・能力の育成、教科等横断的な学習の充実、各教科等において見方・考え方を働かせること等が重点として示されている。これを全教員が理解することが第一歩である。A3一枚にまとめた資料を作成し配布した。

② 研究主題との連携

本校の研究においても、「つなぐ・つながる・つなげる」をキーワードとして単元や授業を構想し実践するなど、教科等横断的な学習を目指してきた。

③ ESDの推進

教科等横断的な学習の一つとして、本校ではESDを推進している。昨年度は、各教科において関連のある単元や題材を重点的に扱うこととして、学年別ESD単元一覧表を全教員の手で作成し、今年度は各学年における総合的な学習の時間での取組が行われた。

(2) 立志三訓「希望」「友情」「鍛練」の基盤となる新たな資質・能力の設定

① 新たな時代に求められる資質・能力の設定

本校では20年以上の間、立志三訓「希望」「友情」「鍛練」の目指す生徒像を掲げて教育実践を行ってきた。この度、予想のつかない新たな時代においても目指す生徒像に向けて生徒が成長できることが求められた。そこで、立志三訓の基盤となる新たな資質・能力を設定することとした。

② 生徒の実態を踏まえた設定

本校生徒は、決まったことを一生懸命に行うことは得意であるが、様々な活動が前年度の踏襲となっている。そこで、新しいことを生み出そうとする資質・能力を設定することとした。

③ 学校運営協議会、西目地区定例連絡会議や地域との連携

新たな時代に求められる資質・能力としてふさわしいものについて、全戸アンケート調査を行い、その結果を学校運営協議会に提案した。そして、そこで出された意見を踏まえた上で教職員による協議が行われた。また、西目地区定例連絡会議（行政、幼保小中高校、JA、郵便局、警察等の各団体の代表者及び町内会長が毎月1回集まり開催）

において決まったことを伝え、理解と協力をお願いしてきた。

④ 研究主任による情報の整理（図式化）

新たな資質・能力が創造力と決まり、研究主任が、「創造力と目指す生徒の姿」、「立志三訓と創造力とのつながり」及び「創造力を育む学習指導のあり方」という図を作成し、繁雑な情報を整理した。

(3) 生徒自身が資質・能力を働かせようとする方向性の確認

① 生徒会活動における確認

昨年度、校長と現教頭が広島県尾道市への視察を通して、児童生徒自身が資質・能力を意識して学習や行事において活動することが大事であることを実感した。そこで、本校では、生徒会活動における各専門部の計画、体育祭、学校祭等の行事計画に創造力の視点を加えることとした。

② 教室の掲示物による啓発

創造力に関連した期待される生徒の姿を教職員で出し合い、ハマナスの花を模した図を作成した。各教室には、内側の花卉部分の図を掲示し、授業で触れることとした。教師はもちろんであるが、生徒も創造力を意識して学習ができるように全教員で共通理解を図った。

5 成果と今後の展望

生徒や学校、地域の実態や、当地域の全戸を対象としたアンケート等により、本校で育てたい資質・能力が「創造力」に決定してから、カリキュラム・マネジメントの本格的な取組が始まった。全ての教育活動を通して生徒の「創造力」を育むために、「教科等横断的な視点」、「PDCAサイクルの確立」、「人的・物的資源等の活用」という実践に向けてのキーワードをもとに、試行錯誤を重ねながら研究を進めてきた。

「教科等横断的な視点」に関わる一番の成果は、他教科と連携した実践を積んできたことによって、生徒が学習に「つながり」を見だし、学習への興味・関心を高めたり、学びを深めたり、他教科の学習で習得した技能を活用したりしている姿を目にすることが多くなったことである。また、このような視点で生徒の学びを捉えることができるようになったことも、実践による成果であると考えられる。教科の枠を超えて研修し合ったことは、多くの教員の「他教科であっても自分の教科と結び付けたり、自分の教科ならこうやっていけばよいのではと考えたりする意識が高まった。」という感想と結び付いている。そして「担当教科の専門性を一層高めたい」という熱意やスキルアップにもつながっている。

「PDCAサイクルの確立」に関わっては、本校で育てたい資質・能力を「創造力」に絞ったことが、明快であったが故に、生徒も教職員も自覚して目指すことにつながったと感じている。このことは、「学校全体で一つの『創造力』の目標を合い言葉にしたことで、自分

にも指導の柱ができた」という教員の感想からもうかがわれる。また、ハマナスの花びらで表した「創造力」を構成する五つの項目及び生徒像（P10参照）を具体的に設定したことは、PDCAサイクルを確立する上でとても有効であった。

「人的・物的資源等の活用」については、これまでも総合的な学習を中心に十分な活用が図られてきている。コロナウイルス感染の終息後には、再び多くの施設等から協力が得られるものと確信している。なお、より一層の活用に向けて、学校運営協議会で「必要な人材や要望等を伝えながらアンケートで協力依頼をし、システムを整えていくとよいのではないか」という提案があり、現在、このことへの動きを進めている最中である。

本研究全体についての教職員の感想の中に、「学校の教育活動全体で生徒に力を付けていくという見方・考え方が育まれた。」「教員の個性やそれぞれのよさを見付け、お互いのよさを発揮しながら組織として取り組もうとする意識が高まった。自分の学級だけでなく、学年、学校全体に目を向けて、指導する力をさらに高めていきたい。」と記されているものがあった。このようなカリキュラム・マネジメントに関する本研究を通して高まった同僚性や協働性を今後も大いに発揮しながら、本校で育てたい資質・能力である「創造力」を生徒が豊かに身に付けていくことができるように、さらに研究を推進していきたい。



第2節 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた取組

【由利本荘市立西目小学校】

1 はじめに

本校には、家庭や地域の方々に温かく見守られ、明るく素直で伸び伸びと育てられている子どもが多い。長年、地域と連携をしながらあいさつ運動に取り組んできており、明るくさわやかなあいさつがたくさん響き合うようになってきている。

また、体を動かすことを好む子どもが多く、学びの原体験や思考力・表現力の支えとなっている。

しかし、子どもの自立（自律）という観点から見ると、くじけず最後までやろうとすること、互いに気持ちよく過ごすこと、自分のよさを発揮し互いの存在を認め合いながら高まっていこうとすること等は十分とは言えない。

学力については、教科による差も見られることから、より、基礎的・基本的な学力を身に付けるようにしていきたいと考えた。さらに、互いに意見を述べながら考えを高め合うこと、根拠をはっきりさせて話すこと、複数のテキストを関連付けて考え結論に結び付けていくこと等、思考力・判断力・表現力の向上を目指してきた。

平成27年度からは、研究主題を「学びの自立を目指して」として、新学習指導要領の先駆けとなる「協働的学び」「資質・能力の育成」「アクティブ・ラーニング」について研修した。同年6月に文部科学省より「アクティブ・ラーニング実践フィールド校」の指定を3年間受け、問題解決能力を高める授業づくりと深い学びの自覚化の2点から研修と実践を積み重ねた。

この3年間の成果をベースに、平成30年度より、研究主題「学びをつなげて、学びを拓く」を掲げた。そして、前年度に、教科等の枠組みを超えて重点的に育成を図っていく資質・能力として設定した「学びの価値を見出す力」「論理的な思考力」「考えが伝わる表現力」を基に、教科等間を関連付けた指導を行ってきた。

本校では、この三つの重点資質・能力を「学習の基盤となる資質・能力」と捉えている。なぜなら、「考えが伝わる表現力」は、教科等の学習で育成する資質・能力であると同時に、各教科等の資質・能力を育成するために必要な手段となる資質・能力でもあるからである。そして、「論理的な思考力」は、「考えが伝わる表現力」と一体的に育成を図っていくことが必要であり、「学びの価値を見出す力」は、生涯に渡って能動的に学び続けていく礎になるからである。

以上のことから、これまでの研究の成果を踏まえつつ、本校における重点資質・能力（「学習の基盤となる資質・能力」）を育成すべく、本研究を進めることとした。

2 令和元年度の取組

(1) 学校の教育目標等の設定

ふるさとに学び、主体的にたくましく生きる子どもの育成
～生活・学び・心の自立を目指して～

本校教育目標は、平成30年度より新たに設定されたものであり、経営の基底となっているのは「ふるさと」である。グローバル化が進み、多様な価値観が混在する現代、今後一層AIやネットワークの進化とともに、変化が急速で予測困難な社会を子どもたちは生き抜いていかなければならない。しかし、変わらないのは、子どもたちにとっての「ふるさと」である。本校では、ふるさとを学びのフィールドとし、ふるさとの「人・もの・こと」について広く学びながら、見いだした課題や問題に対して主体的に関わり、仲間と共に粘り強く解決していこうとするたくましさを備えた子どもを育成したいと考えた。

そのために、次の四つの視点から子どもの自立（生活・学び・心）を考えていく。

一つめは、ふるさとの「人・もの・こと」どのにかかわりの中で、自分も他と共に生きていることを実感できる広い心や態度を育てることである。

二つめは、問題解決的な学習を通して学習意欲を育てるとともに、自ら考えることや習得した知識・技能を様々な場面で生かしていく能力を育てることである。

三つめは、ふるさとに対する自信や誇りをもって主体的にたくましく生きていこうとする心を育てることである。

四つめは、自己指導能力を備えた自立（自律）できる心を育てることである。

これらのことを踏まえ、学校教育目標を設定した。

(2) 学習の基盤となる資質・能力の育成のために

① 重点的に育成を図る資質・能力の見つめ直しと共有

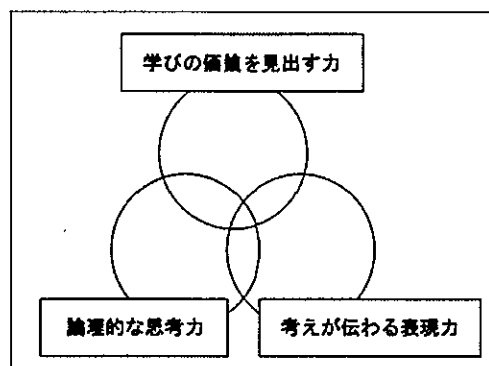
先に述べたとおり、本校の重点資質・能力は、「アクティブ・ラーニング実践フィールド校」の指定を受けた研究の中で、平成29年度に設定したものである。当時とは教職員のメンバー構成も変わってきたため、本調査研究を進めていくに当たって、はじめに、重点資質・能力について、それぞれどのような子どもの姿を求めていくのかを確認し合った。すると、職員間での共通理解が十分でないことが明らかになった。そこで、「論理的な思考力」と「考えが伝わる表現力」については、研究推進委員会

【資料1】 三つの資質・能力の見つめ直し

| | 再定義した重点資質・能力 | 平成29年度当初からの定義付け |
|------------|---|--|
| 学びの価値を見出す力 | 学びのよさや面白さを感得し、それを価値付け、よりよい自分を目指して学び続けようとする力 | 学んだ力を汎用的に発揮することで、学びのよさや面白さを感得し、それらを価値付けることができる力。学びの可能性を自ら探り、新たな自己の形成に結び付く力 |
| 論理的な思考力 | 課題解決に向け、理由や根拠を明確にし、筋道立てて考える力 情報活用能力を含む | 課題解決に向け、根拠を明確にし、筋道立てて考える力、比べる力等。（学年の発達段階によっては、情報活用能力も含める。） |
| 考えが伝わる表現力 | 自己の思いや考えを目的や相手に応じて、適切な表現方法で伝える力 | 論理的な思考力を働かせた自己の考えを、目的や相手に応じて適切な表現方法で表現する力 |

で協議し、文言を整理して、教職員全員による研修会議で確認し合った。そして「学びの価値を見出す力」については、「学びの可能性を自ら探り、新たな自己の形成に結び付く力」と定義している子どもの姿をどのようにイメージするか研修会議で協議し、再定義につなげた。【前頁資料1】

また、前年度までの研究から、三つの重点資質・能力は重なる部分があると考えてきた。それは、「考えが伝わる表現力」は、「論理的な思考力」を働かせた上での「自己の思いや考えを表現する力」だからである。そして、「学びの価値を見出す力」を付けるためには、子ども自身が感じた学び



＜三つの重点資質・能力の関連図＞

のよさや面白さを互いに伝え合うことを欠かすことができない。つまり、「考えが伝わる表現力」を抜きに考えることはできないと考えたからである。このことについても改めて共通理解を図り、三つの資質・能力が相互に関連し合いながら育成されることを意識しながら取組を進めた。

② 教科等横断的な視点での教育課程の編成

～「カリキュラム・デザイン表」の作成と活用

ア 「カリキュラム・デザイン表」の見直しと修正

本校の「カリキュラム・デザイン表」には、各学年の教科経営のテーマを明示するとともに、国語、算数、社会、理科、生活においては、ほぼ全ての単元・題材を（国語は3領域の内容のみ、算数科等の配当時数が少ない単元は除く。）、その他の教科等については、重点資質・能力を育むために適切な単元・題材を精選して配置している。

この「カリキュラム・デザイン表」は、原版として平成29年度に作成したものが、毎年、年度始めに、前学年までの子どもの学びの姿と、その年の学年経営の目標を踏まえて見直している。学年の教科経営のテーマ、生活科と総合的な学習の時間の単元設定、主要4教科以外の教科等の単元選択が適切かという視点で見直しと修正を行い、活用している。【資料2】

イ 「カリキュラム・デザイン表」を活用した教科等横断的な視点での教育課程の編成

見直したカリキュラム・デザイン表をA1版に拡大して長机に広げ、研修会議の場で、教科等横断的な視点から教育課程の編成を行った。学年部と7年部が1名以上入ったグループを編成し、1年間固定して、各学年の教育課程について考えるようにした。

学びをつなげる際には、どのような子どもの姿を求めているのかを大付箋に書き出しながら、重点資質・能力ごとに色の異なるマジックで線をつないでいった。教科等間のつながりを探りながら、重点資質・能力の育成のために1年間の見通しをもつことができた。【資料3】

【資料2】カリキュラム・デザイン表原版

| 1学期 | | 2学期 | | 3学期 | |
|---|--|--|--|--|--|
| <p>～個人学習/自分の考えを自分の言葉で～</p> <p>～基礎的知識を築く～</p> <p>～事に向かって～</p> <p>～過去から学び、未来へつなげる～</p> <p>～つぎの時代を準備し、発見し、創造する～</p> <p>～探究活動を通して～</p> <p>～たくましく、ひたむきにチャレンジ～</p> <p>～自分を見つめて、生活しよう～</p> | <p>～基礎的知識を築く～</p> <p>～事に向かって～</p> <p>～過去から学び、未来へつなげる～</p> <p>～つぎの時代を準備し、発見し、創造する～</p> <p>～探究活動を通して～</p> <p>～たくましく、ひたむきにチャレンジ～</p> <p>～自分を見つめて、生活しよう～</p> | <p>～基礎的知識を築く～</p> <p>～事に向かって～</p> <p>～過去から学び、未来へつなげる～</p> <p>～つぎの時代を準備し、発見し、創造する～</p> <p>～探究活動を通して～</p> <p>～たくましく、ひたむきにチャレンジ～</p> <p>～自分を見つめて、生活しよう～</p> | <p>～基礎的知識を築く～</p> <p>～事に向かって～</p> <p>～過去から学び、未来へつなげる～</p> <p>～つぎの時代を準備し、発見し、創造する～</p> <p>～探究活動を通して～</p> <p>～たくましく、ひたむきにチャレンジ～</p> <p>～自分を見つめて、生活しよう～</p> | <p>～基礎的知識を築く～</p> <p>～事に向かって～</p> <p>～過去から学び、未来へつなげる～</p> <p>～つぎの時代を準備し、発見し、創造する～</p> <p>～探究活動を通して～</p> <p>～たくましく、ひたむきにチャレンジ～</p> <p>～自分を見つめて、生活しよう～</p> | <p>～基礎的知識を築く～</p> <p>～事に向かって～</p> <p>～過去から学び、未来へつなげる～</p> <p>～つぎの時代を準備し、発見し、創造する～</p> <p>～探究活動を通して～</p> <p>～たくましく、ひたむきにチャレンジ～</p> <p>～自分を見つめて、生活しよう～</p> |

【資料3】完成したカリキュラム・デザイン表



| 1学期 | | 2学期 | | 3学期 | |
|---|--|--|--|--|--|
| <p>～個人学習/自分の考えを自分の言葉で～</p> <p>～基礎的知識を築く～</p> <p>～事に向かって～</p> <p>～過去から学び、未来へつなげる～</p> <p>～つぎの時代を準備し、発見し、創造する～</p> <p>～探究活動を通して～</p> <p>～たくましく、ひたむきにチャレンジ～</p> <p>～自分を見つめて、生活しよう～</p> | <p>～基礎的知識を築く～</p> <p>～事に向かって～</p> <p>～過去から学び、未来へつなげる～</p> <p>～つぎの時代を準備し、発見し、創造する～</p> <p>～探究活動を通して～</p> <p>～たくましく、ひたむきにチャレンジ～</p> <p>～自分を見つめて、生活しよう～</p> | <p>～基礎的知識を築く～</p> <p>～事に向かって～</p> <p>～過去から学び、未来へつなげる～</p> <p>～つぎの時代を準備し、発見し、創造する～</p> <p>～探究活動を通して～</p> <p>～たくましく、ひたむきにチャレンジ～</p> <p>～自分を見つめて、生活しよう～</p> | <p>～基礎的知識を築く～</p> <p>～事に向かって～</p> <p>～過去から学び、未来へつなげる～</p> <p>～つぎの時代を準備し、発見し、創造する～</p> <p>～探究活動を通して～</p> <p>～たくましく、ひたむきにチャレンジ～</p> <p>～自分を見つめて、生活しよう～</p> | <p>～基礎的知識を築く～</p> <p>～事に向かって～</p> <p>～過去から学び、未来へつなげる～</p> <p>～つぎの時代を準備し、発見し、創造する～</p> <p>～探究活動を通して～</p> <p>～たくましく、ひたむきにチャレンジ～</p> <p>～自分を見つめて、生活しよう～</p> | <p>～基礎的知識を築く～</p> <p>～事に向かって～</p> <p>～過去から学び、未来へつなげる～</p> <p>～つぎの時代を準備し、発見し、創造する～</p> <p>～探究活動を通して～</p> <p>～たくましく、ひたむきにチャレンジ～</p> <p>～自分を見つめて、生活しよう～</p> |

このような流れでカリキュラムのデザインを行い、実践した授業について、以下に紹介する。

＜実践例1＞2年生活科「西目の人ともなかよし 西目っ子たんけんたい」

本単元では、町探検で発見したことを紹介し合う活動を設定していた。そこで、国語科の「大好きなもの、教えたてい」での学習を活用・発揮するようにした。

この国語科の単元では、「自分の好きなもの」を題材に「初め」「中」「終わり」の構成で、「二つ発表します。一つ目は～、二つ目は～」というナンバリングの話型を用いて話す学習を行っていた。それを、生活科でも活用するようにした。話す材料を選択する際には、国語科で使用したものと同一学習シートを使い、身に付けた力を自覚的に発揮できるようにした。国語科の学習を生かすことで、一人一人の町探検での気づきがより明確になったと考える。



＜実践例2＞3年社会科

「ふるさとではたらく人たち～地いきのお店のいいところさがし」



本単元では、地域に見られる販売店で、生活に必要な食品や日用品がどのように販売され、販売に携わる人たちがどのような工夫をしているのかを学習する。一方、総合的な学習の時間の「りんごのひみつ大発見！」という単元では、地域の果樹園でりんごを育てる体験をする中で、子どもたちが「自分たちが育てたりんごをたくさんの人に味わってほしい」という願いをもつようになっていた。

ていた。

そこで、本単元での学び（販売者と消費者のそれぞれの立場で考えることや、実際の販売店で行われている工夫など）を、総合的な学習の時間にりんごを販売するための準備をする中で発揮できるように意図して、授業を行った。

③ 日常の授業改善へつなげる各種取組の検証改善サイクルの確立

ア 諸調査や授業研究会を日常の授業に生かす

全国学力・学習状況調査と秋田県学習状況調査（4～6年）においては、校内採点・分析検討会を全教員で行い、授業改善案を協働で立案している。重点資質・能力に関わる「複数の資料を目的に合わせて適切に活用したり、根拠や理由を明らかにして記述したりする」問題について誤答を分析し、成果と課題を明らかにした。

また、授業研究会においては、単元構想会→指導案検討会→提案授業→研究協議会までの一連の研修を子どもの具体的な姿を視点として積み重ね、授業改善につなげるようにした。単元構想会では、単元構想シート【資料4】を使い、育成すべき資質・能力と教科等間や単元間の学びのつながりを明らかにして授業づくりを進めてきた。

【資料6】西目っ子の学びアンケート

西目っ子の学びアンケート

○ 各人の学習の様子について記入してください。1～4の中から一つを選んで○をつけましょう。下の2は、記入したわけや人が入っていること、こまごま記入してください。

| | | | |
|---------------|------------|------------|-------------|
| 1 とてもやる気よくできる | 2 やる気よくできる | 3 あまり変わらない | 4 ほとんど変わらない |
|---------------|------------|------------|-------------|

1 教材がわかり、やってみたいと思って学習していますか。 1 2 3 4

2 自分がつたたいことを 分かりやすく つたえることができましたか。 1 2 3 4

3 友だちの考えとくちあつたり、もっとよいやり方をかんがえたりして、ほめあうことができましたか。 1 2 3 4

4 「あれ？」「おや？」「まよー！」とどうしてかなと思ったり、気がついたりすることができましたか。 1 2 3 4

5 こんなふうにかんがえたら、答えより自分のかんがえがでてきたら、次はこんなふうにかんがえたいかなど、新しい考えをもちあえることができましたか。 1 2 3 4

6 いま、2学期の学習をふりかえって、「○○の学習と□□の学習は、にているなあ。かんがいがあんなあ。」、「○○の学習と□□の学習は、うでもつたあんなあ。」とむもつことは、ありますか。 1 2 3 4

どんなことですか？

【資料7】「西目っ子の学びアンケート」の記述一覧より抜粋

6年 複…2～3名 多…5名以上

1 課題が分かり、やってみたいと思って学習していますか。
 ◇新しいことを学ぼうと思っている。分からないことだから知りたいと思ってやっている。多
 ◇どうなっているか疑問をもってやっている。多
 ◇いろいろなやり方で取り組んでいる。複
 ◇進んで挑戦している。
 ◇何度も考え直してやっている。

2 自分が伝えたいこと分かりやすく伝えることができますか。
 ◇学んだ言葉を使って分かりやすくなるように心がけている。
 ◇黒板に書いたり図や表に示したりして分かりやすく伝えているから。
 ◆表現の仕方が分からない。複
 ◆止まったり忘れてしまったり。複
 ◆その場では、ぱっと言えない。
 ◆まとめるのが苦手。
 ◆語彙力がなくて感じている。
 ◆家でもだけど、結局何を伝えたいのか分からないという顔をされる。

ウ カリキュラム・デザイン表を教育課程の修正に生かす

カリキュラム・デザイン表【資料3】を活用して、子どもの学びの姿を具体的に評価する場を、学期末（年間3回）の研修会議の際に設定した。毎回、年度当初と同じメンバーで評価・改善を行った。どんな子どもの姿が見られたかを小付箋に書き出す形で評価を行い、改善点があるときには次学期以降の大付箋を書き換えたり書き足したりした。このようにして、定期的に評価・改善を図り、次学期の授業改善に活用した。

なお、このカリキュラム・デザイン表は、全学年分を会議室に掲示して、研修会議のときだけでなく、いつでも活用できるようにしている。学年部が自主的に集まり、学年経営についての話し合いに活用している様子も見られた。

ただし、カリキュラム・デザイン表のデータ化は行わなかった。紙面上で、マジックで線をつないだり、付箋を貼り付けたりしているのは、全職員が一堂に会し子どもの姿を語り合うことが、子どもの姿を多様な視点で見取るという教師自身の研修を深める場にもなると考え、大切にしているからである。

(3) その他の取組

① 言葉の力を育む「ことばタイム」の取組

朝活動（始業直後の20分間）の時間に、月に3～4回程度「ことばタイム」という時間を設定している。この「ことばタイム」は、語彙の拡充を中心に、言語感覚を養うことを目的としている。子ども一人一人が「ことばノート」を持ち、次頁の表にある活動を積み重ね、友達と交流を図りながら言葉の力を育むようにした。

| | |
|-------|---|
| 言葉集め | 言葉のイメージマップ作りをしたり，日常生活で感じたことを書き留めたりする。 |
| 俳句の創作 | 四季をテーマに年4回，俳句の創作を行う。創作した俳句は，他学年も見られるように廊下へ掲示する。最優秀賞，優秀賞を学年部で決め，全学年分をまとめて玄関ホールへ展示したり，学校報で紹介したりして，子どもたちの頑張りを賞揚している。 |
| ことば集会 | 各学年が年1回行う詩の音読発表を聞き，音読表現の工夫や詩の内容について感想交流をする。集会前に，「ことばタイム」担当の教師の作成したプリントを使って，発表される詩を知り，感想などの考えをもって集会に臨むようにしている。 |

② 総合的な学習の時間の単元の見直しを図る部会の開催

本校の重点資質・能力の育成は，生活科と総合的な学習の時間を核として取り組むことを共通理解している。しかし，年度当初に，探究課題を基にどのような学習活動を展開していくか見通しを持っていないと，他教科等と学びのつながりを探っていくことが難しいことが明らかになった。



そこで，前学年の取組や課題が次年度へ引き継がれるように，30分程度の「きらら（総合的な学習の時間の名称）学年部会」を春季休業中に行った。4学年をそれぞれ別の時間に設定するとともに，部会のメンバーを，学級担任2名，研究推進委員1，2名，前学年にその学年を担当した教師，合わせて4，5名で編成し協議した。話し合ったことはその場で記録を取り，次年度へ引き継ぐ形にした。コロナ禍の影響を受けた春季休業で新年度の始まりは不透明であったが，例年通りの学校再開を願いながら協議した。

③ 「人材一覧」表の活用・更新

各学年で，生活科や総合的な学習の時間を中心に，教科等で活用している地域素材や人材をまとめたリストを作成している。前年度だけでなく過年度の活用実績も積み重ねられたものである。今年度も，そのリストを年間単元・題材一覧表，学級活動及び総合的な学習の時間の年間計画等と共に冊子にし，年度初めに全職員に配付し活用を図ってきた。そして，年度末には，新たに活用した素材や人材を追加し，更新している。【資料8】

【資料8】西目小「人材一覧」表

| 教科 | 単元と人材活用の内容 | 地域の方の氏名と連絡先 |
|-----------|--------------|---|
| 総合的な学習の時間 | ○ほくらりんご育て隊 | 櫻井○○さん(○○町内) ☎○○-○○○○ 道の駅 支配人菊地さん ☎○○-○○○○ コロニー 芦澤さん ☎○○-○○○○ ケーブルテレビ ☎○○-○○○○ さきがけ新聞 ☎○○○-○○○-○○○○ |
| | ○西目のおいしさ 大集合 | 秋田ニューバイオファーム ☎○○-○○○○ 秋田中央きのこセンター(鈴木さん) ☎○○-○○○○ J Aあきたしんせい園芸販売部(遠藤さん) ☎○○-○○○○ 地産地消を進める西目の会(秋生さん) ☎○○-○○○○ コロニー(佐藤さん) ☎○○-○○○○ |

活用例としては、2年生の生活科の町探検の単元で、学区内にある薬局、菓子店などの商店、消防署、公民館などの公共施設、しめじ栽培農事組合法人などに、3年生の総合的な学習の時間の「ぼくらりんご育て隊」で、年間を通して歪化りんごの栽培農家に、それぞれ協力を仰いだこと等が挙げられる。



<2年 生活科：
「西目の人ともなかよし
にしめっ子 たんけんたい」>



<3年 総合的な学習の時間：
「ぼくらりんご育て隊」>

(4) 教育課程等の評価・改善

「学習の基盤となる資質・能力」に沿った評価・改善のために、下記の①②を実施した。

① 子どもの意識調査（「西目っ子の学びアンケート」）の結果から

質問に対して「とてもそう思う、よくできる」「そう思う、できる」と肯定的に答えた子どもの割合は、下の通りであった。質問1・5・6の結果から、「学びの価値を見出す」ことに関しては意欲的な様子が見られる。特に、質問6の高学年の肯定的な割合は、学習経験の差とも考えられるが、90%を超える結果となった。

<「西目っ子の学びアンケート」結果>

| 質 問 内 容 | | 7月 | 12月 |
|---------|---|-----|-----|
| 1 | 課題が分かり、やってみたいと思って学習していますか。 | 89% | 89% |
| 2 | 自分が伝えたいことを分かりやすく伝えることができているですか。 | 77% | 74% |
| 3 | 友達の考えと比べたり、もっとよいやり方を考えたりして話し合うことができますか。 | 81% | 84% |
| 4 | 「あれ?」「おや?」「まてよ!」と、どうしたかなと思ったり気がついたりすることができますか。 | 83% | 85% |
| 5 | こんなふうを考えるんだな、前より自分の考えが広がってきたな、次はこんなふうを考えたいな、などと学習を振り返ることができますか。 | 88% | 88% |
| 6 | 2学期の学習を振り返って、「〇〇の学習は似ているな」「〇〇の学習を□□の学習でも使えるな」と思うことはありますか。 | | 88% |

一方、「考えが伝わる表現力」に関しては、苦手意識を改善することができなかつ

た。子どもたちが、身に付けた表現力を発揮している姿を価値付け、自覚化を図っていく必要があると考えている。

② カリキュラム・デザイン表を活用した

重点資質・能力を視点とした子どもの見取りから

年度末に、カリキュラム・デザイン表を活用して実践した単元を踏まえながら、重点資質・能力ごとに、子どもたちに付いた力と伸ばしたい力を各学年部から報告し合った。

付いた力としては、「子ども自身が学びのつながりや学びのよさを実感し、主体的に学びに向かおうとする姿が見られた」という「学びの価値を見出す力」に関わる報告が多かった。また、伸ばしたい力として

は、「自分なりの思いや考えを確かにもって、言葉や伝え方を粘り強く吟味して発信しようとしてほしい」という「考えが伝わる表現力」に関わる報告が多かった。

この取組は、全職員で同じベクトルで子どもを育てていくという意識の共有につながった。



<学年部ごとに成果と課題を紹介>

③ 令和2年度へ向けての改善策

- ・生活科と総合的な学習の時間を核として、教科等横断的な視点で教育課程の編成を図ることを再確認する。そのために、これまで活用実績がある地域人材・地域素材を学習過程にどのように位置付けたら効果的か、年度末の「きらら学年部会」での協議を踏まえ、単元の見直しを図る。
- ・カリキュラム・デザイン表を活用して、単元間の「学びのつながり」を探る際には、本校の重点資質・能力を確実に育むために適切な単元を精選したり再構成したりして、重点化する。特に、「考えが伝わる表現力」「論理的な思考力」については、学習対象、学習活動、思考方法の共通性・関連性の有無等を検討しながら、重点資質・能力で単元間の関連を探っていく。
- ・「考えが伝わる表現力」に関する子どもの苦手意識を軽減するために、子どもの意識調査の記述を活用したり、教科の枠を超えて取り組んだりする手立てを考えて実践する。

3 令和2年度の取組

(1) 学校教育目標の設定

ふるさとに学び、主体的にたくましく生きる子どもの育成
～生活・学び・心の自立を目指して～

今年度も、平成30年度からの学校教育目標を継続した。自立のためには様々な要素はあるが、今年度は特に「生活の自立」や「心の自立」に焦点化を図り、「学級づくり」を基盤とする学校生活の充実に向けた取組を推進してきた。具体的には「にこにこ挨拶」「感謝」「一生懸命」を合い言葉にし、子ども・教師共々コミュニケーション能力の醸成、相手に対する感謝の心の育成、主体的な姿勢を目指した。

「学びの自立」については、新学習指導要領の趣旨に則り、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりや学習環境整備、育てたい資質・能力の設定とその育成を追究してきた。

育てたい資質・能力については、前年度からの「考えが伝わる表現力」「論理的な思考力」「学びの価値を見出す力」の三つを継続して追究し続けた。

例えば、「学びの価値を見出す力」については、学びの途中で「学んだことが他に使えないか。今現在活用されていないか。」などと身の回りの生活と結び付けて考える場を設定したり、問題解決する際に「これまで学んだ知識や技能が使えないか。」などと未来志向的な考え方をするような働きかけをしたりした。また、「論理的な思考力」や「考えが伝わる表現力」については、学習指導の場面だけではなく、日常生活の様々な場面で、理由や根拠を述べて、筋道立てて相手の立場を考えながら工夫して表現する力を醸成してきた。

(2) 重点資質・能力育成のための単元の精選と重点化

① カリキュラム・デザイン表原版の様式の見直し

学習指導要領実施に伴う新教科書の採用を契機に、カリキュラム・デザイン表原版の様式を見直した。これまでの原版には、主要4教科(1,2年生は3教科)と総合的な学習の時間以外の教科等について、単元・題材をかなり厳選して載せてきたが、次の点を改善した。

- ・音楽、図工、家庭科、体育、外国語、道徳、外国語活動、学級活動の全単元・題材の挿入
- ・学校・学年行事の項目の挿入
- ・国語科の領域の可視化

改善した理由は、カリキュラムをデザインしながら、1年を俯瞰し学年部経営の見通しを立てることも合わせて行いたいということ、国語科の領域を可視化することで、どのような言語活動を設定できるかを容易にイメージでき、本校の重点資質・能力の「考えが伝わる表現力」を育むに当たってカリキュラムをデザインしやすくなると考えたことからである。

【資料9】カリキュラム・デザイン表原版

| 2020年度 第1学期 | カリキュラム・デザイン表 | 第2学期 第3学期 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-------------|--------------|-----------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 |
| 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 |
| 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 |
| 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 |

② カリキュラム・デザイン表を活用した単元等の精選と重点化

カリキュラムをデザインする前に、次の視点で単元等の精選を図った。

<視点>

- ・生活科及び総合的な学習の時間との関連が薄い教科等は、生活科と総合的な学習の時間から離し下方に配置する。
- ・主要4教科(低学年は3教科)以外の教科等について、重点資質・能力を育む上で生活科及び総合的な学習の時間との関連が弱いと判断できる単元・題材等は削除する。
- ・道徳は、生活科及び総合的な学習の時間に関わる内容を扱った教材と学校の道徳教育の重点価値項目を扱った教材を残す。

【資料10】精選後のカリキュラム・デザイン表

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月・9月 | 10月 |
|-------|----------------|--------------|-----------------|---------------|---------------------------|-------------|
| 学年 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月・9月 | 10月 |
| 教科 | 国語 | 算数 | 理科 | 社会 | 総合的な学習の時間 | 道徳 |
| 単元 | 国語(1) 国語(2) | 算数(1) 算数(2) | 理科(1) 理科(2) | 社会(1) 社会(2) | 総合的な学習の時間(1) 総合的な学習の時間(2) | 道徳(1) 道徳(2) |
| 内容 | 国語(1) 国語(2) | 算数(1) 算数(2) | 理科(1) 理科(2) | 社会(1) 社会(2) | 総合的な学習の時間(1) 総合的な学習の時間(2) | 道徳(1) 道徳(2) |
| 資質・能力 | 言語運用能力、読解力、表現力 | 数感、計算能力、図形能力 | 観察力、実験能力、問題解決能力 | 社会生活能力、問題解決能力 | 総合的な学習の時間(1) 総合的な学習の時間(2) | 道徳的価値観の形成 |
| 評価 | 国語(1) 国語(2) | 算数(1) 算数(2) | 理科(1) 理科(2) | 社会(1) 社会(2) | 総合的な学習の時間(1) 総合的な学習の時間(2) | 道徳(1) 道徳(2) |
| 教材 | 国語(1) 国語(2) | 算数(1) 算数(2) | 理科(1) 理科(2) | 社会(1) 社会(2) | 総合的な学習の時間(1) 総合的な学習の時間(2) | 道徳(1) 道徳(2) |
| 道徳 | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) |
| 道徳教育 | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) |
| 道徳教育 | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) |
| 道徳教育 | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) | 道徳(1) 道徳(2) |

【資料9】と【資料10】を比較すると、単元等が絞られていることが分かる。しかし、中には、その学年を担当した経験が少ないため削除することに不安があり、原版とそれほど変わらないカリキュラム・デザイン表になった学年もあった。

さらに、精選後の研修会議の場で、学年別のグループに分かれて、生活科及び総合的な学習の時間を核としながら教科等横断的な視点で重点資質・能力を育むために適する単元等を探っていった。そこでは、指導内容の関連を探ることが目的ではなく、重点資質・能力を育むためであること、関連付けたことが確実な実践につながるようにするための「重点化」であることを確認した。

また、関連を図るためには、単元等の移動も考えていく必要があることも強調した。【資料11】

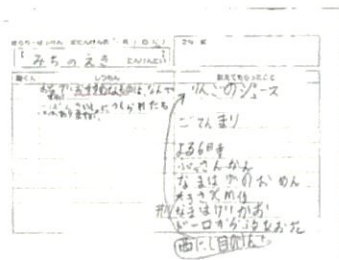
【資料11】4月下旬時点でのカリキュラム・デザイン表

③ 生活科・総合的な学習の時間の実践例

生活科部会では、地域や地域の人々と関わる学習内容について、きらら学年部会では、どのような探求的な課題を設定するかについて話し合い、今年度の実践へつなげるようにした。その実践が以下の通りである。

<実践例1> 2年生生活科

「きらりはっけん！町たんけん」「もっと知りたい！きらりはっけん！町たんけん」単元の途中で国語科「メモをとるとき」の学習を意識して見学先でメモを取る活動を、また、国語科「こんなもの見つけた」の学習での学びを踏まえ、学習のゴールとして探検で見たこと・感じたこと・分かったことなどを相互交流する場を設定した。その中で、子どもたちには、「実際の場面でメモを取る力」（論理的な思考力）や「伝えたいことについて分かりやすく伝える力」（考えが伝わる表現力）を付けることができた。



<実際の探検時のメモと
国語科で完成させた作文>

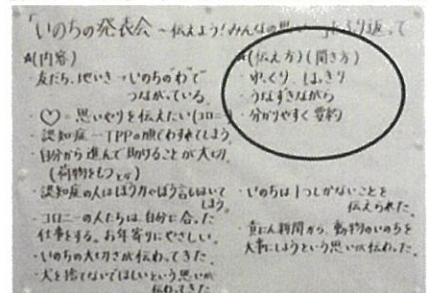
<実践例2> 4年総合的な学習の時間 「きらきら輝け！みんなのいのち！！」

「命」についてのイメージマップ作りをし、単元を設定した。そして、子どもたちの「考えたい、体験したい」という思いを生かし、「考えよう！みんなのいのち」「やってみよう！わたしたちができること」「見つめよう！つながるいのち～ぼくたち・わたしたちの二分の一人～」という三つの小単元を構想した。

小単元1・2のまとめとして、国語科「要約するとき」「新聞にまとめよう」での学びを生かし、自分の考えを新聞にまとめる活動と、この新聞を用いて自分の考えを発信し意見交流する「いのちの発表会」を設定した。新聞作りでは、グループのテーマに沿い、「自分には何ができるのか」を考えながら、図書資料で調べたことや家族にインタビューしたことなどを加え、体験したことを基にして、読み手に分かりやすく表現することができていた。「いのちの発表会」は、新聞記事をさらに分かりやすく要約して伝え合えたことの自覚化にもつながった。



【資料 12】 単元終末の振り返りの板書



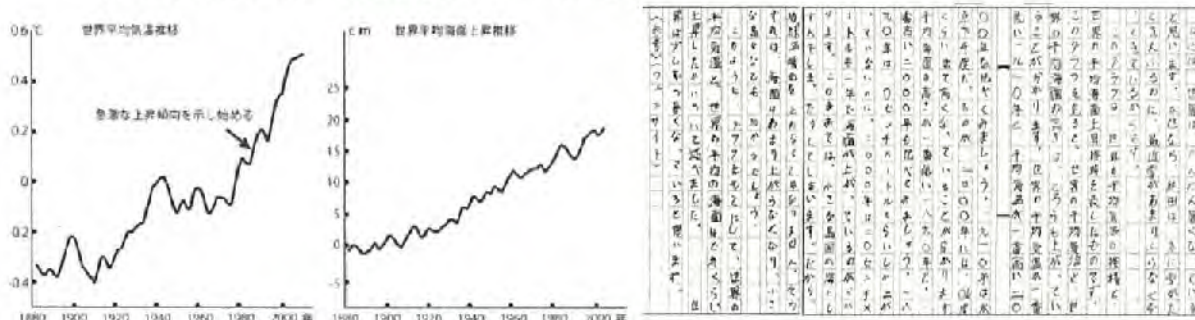
た。（【資料12】の丸囲み部分）

<実践例3> 5年総合的な学習の時間

「ひとめぼれレンジャー出動！ふるさと地球の自然を守れ！」

本単元では、総合的な学習の時間「ひとめぼれレンジャー出動！ふるさと地球の自然を守れ！」の活動の一つとして、子どもたち一人一人が、自分が気になる環境問題について調べ学習を行った。さらに、そこで得た資料から分かったことや考えたことを書く活動を設定した。子どもたちは、説明的文章「固有種が教えてくれること」で、筆者が自分の意見に説得力をもたせるために資料を効果的に活用していたことや、「グラフや表を用いて書こう」で学習した、資料を基に自分の考えを正確に伝える書き方を踏まえて、環境問題について自分なりの意見文にまとめていった。

グラフや表で表された環境問題についての資料を子どもたちが正しく読み取り、自分の意見を書いたことで、論理的な思考力の育成につながった。また、書いた文章を見せ合うことで、環境問題について自分事として捉える姿勢が身に付いた。



<調べ学習で得た資料とそれを活用して国語科で完成させた意見文>

(3) 長期・短期のPDCAの連続的な展開

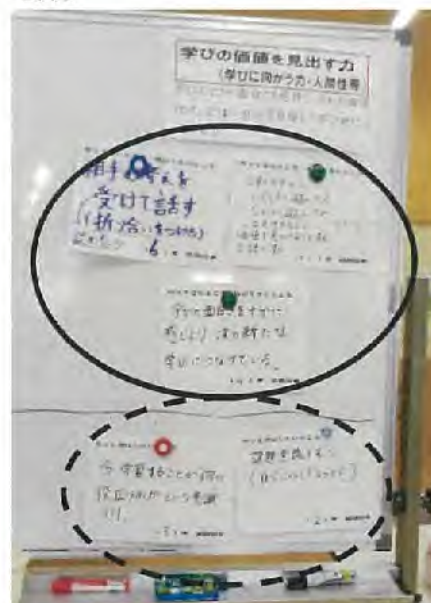
① 重点資質・能力と重点単元等の評価・改善

ア 重点資質・能力の評価・改善

7月の研修会議で、重点資質・能力について「伸びてきたところ」（【資料13】実線丸囲み）と「もう少し伸ばしたいところ」（【資料13】点線丸囲み）を学年部ごとに報告し合う形式で評価を行った。A4サイズ1枚につき一つの内容を書き、ホワイトボードに貼った。それを受けて、三つの重点資質・能力別のグループに分かれて、どのような授業改善を求めていけばよいか協議し、共有した。さらに、研修日よりでも再度紹介した。

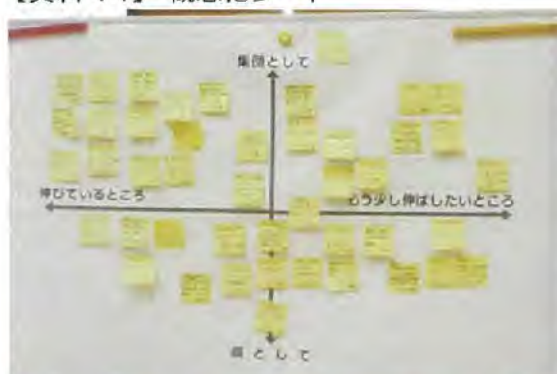
本校の重点資質・能力は、学習の基盤となる教科等の枠組みを超えて育む資質・能力である。そこで、手立ての成果が表れるのは、学年単位より学級単位でないかと考え直し、その手立てをもっと共有できるようにするために、本調査研究の指導者の助言を得て、12月の研修会議での評価・改善の際は、概念化シートを活用し

【資料13】重点資質・能力の「学びの価値を見出す力」に関する部分

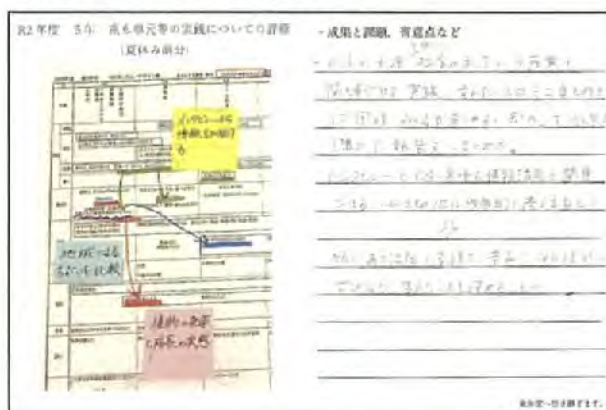


た。学級の子どもの姿で「伸びているところ」と「もう少し伸ばしたいところ」を、「集団として」と「個として」のそれぞれで見えてきた姿として評価した。また、教師の手立てについても「現在取り組んでいること」と「これから取り組みたいこと」を同様にして行った。付箋に書かれた手立てについて質問し合ったり、もう少し伸ばしたい子どもの姿について共有したりすることもできた。【資料14】

【資料14】 概念化シート



【資料15】 重点単元等評価シート



イ 重点単元等の評価・改善

昨年度までの完成されたカリキュラム・デザイン表は、画像データとして残しているが、文字データとしては残していない。それは、子どもたちの前年度までの学びの実態を踏まえてカリキュラムをデザインするべきであると考えているからである。また、すでに述べているが、年間の学習内容を俯瞰してカリキュラムをデザインすることの良さを実感してほしいこともある。しかし、それだけでは単年度ごとの取組で終わってしまう。そこで、重点資質・能力を育む上で適している単元等を蓄積するために、右のようなシートを作成し、評価・改善につなげた。【資料15】

② 学習指導案における重点資質・能力の可視化と自覚化

コロナ禍により、生活科と総合的な学習の時間の授業研究会は、地域素材・地域人材の活用ができるかどうかの見通しが立たず行うことができなかった。そのため、指定校訪問（理科，図画工作科，特別活動）のみの授業研究会となったが、それぞれの教科等において、教科等横断的に関連を図って単元を構築した。

学習指導案は、昨年度までの形式をベースとしながら、次の点を変更した。

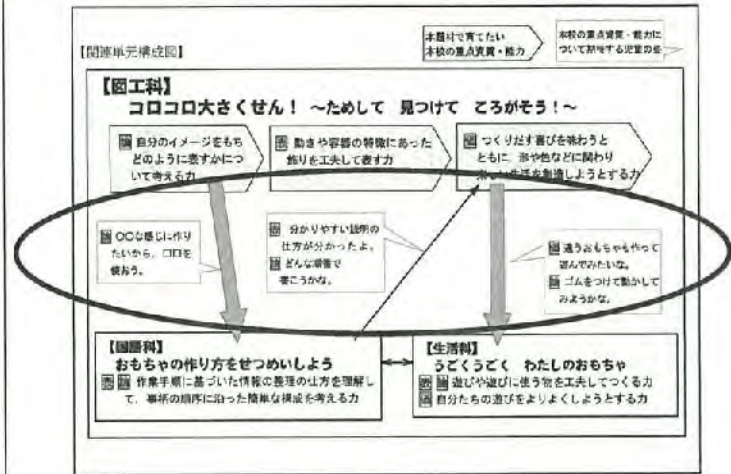
- ・重点資質・能力と単元等の資質・能力の関連の可視化…【資料16】
- ・関連する単元等間の資質・能力の可視化と具現化…【資料17】の丸囲み

【資料 16】2年図工科学習指導案より

| 本校重点資質・能力 | | | |
|---------------------------------|---|---|--|
| 考えがわかる「読解力」 | 「読解力」的思考力 | 学びの「態度」を見出す力 | |
| 自己の思いや考えを目的や相手に応じて、適切な表現方法で伝える力 | 課題解決に向け、理由や根拠を明確にし、粘り立てて伝えられる力（情報活用能力を含む） | 学びの良きや面白さを把握し、それを多角的視点、よりよい自分を目指す学習に取り組む力 | |

| 5 題材の学習計画（全4時間 本時 2/4） | | | |
|------------------------|--------------------------------|------------------------------|---|
| 次時 | おおい | 学びの観点 | 評価規準 |
| 1 | ① 動きや容姿の特徴から見た動物の姿を表現することができる。 | 自分のイメージをもとに、動物の姿を表現することができる。 | 【図・形・表現】 ・動物の色や容姿、自分のイメージをもとに、動物の姿を表現することができる。 |
| 2 | ② 動きや容姿の特徴から見た動物の姿を表現することができる。 | 動きや容姿の特徴から見た動物の姿を表現することができる。 | 【図・形・表現】 ・自分のイメージをもとに、動物の姿を表現することができる。 |

【資料 17】2年図工科学習指導案より



③ 研究協議会での重点資質・能力に沿った評価・改善と教師個々の省察

研究協議会は、前年度同様ワークショップ型でマトリクス法を用いて行った。重点資質・能力の育ちを検証する意識と時間が充分ではなかった昨年度の反省を踏まえ、①子どものどんな姿に重点資質・能力の育ちが見られたか、②もう少し伸ばしたいところとしてはどんな姿があるのかという2点について協議・検証する時間を設定した。①については、本時の重点資質・能力に関して見られた子どもの姿に星形付箋を置き、手立てを共有した。②については、グループごとの協議内容紹介後に、再度提案し、授業改善につなげるようにした。【資料 18】

また、重点資質・能力を育むための意識を継続的に共有し授業改善につなげるために、NITSで紹介されている「パッとリフレクションシート」を参考にリフレクションシートを作成し、個人の省察の場とした。【資料 19】

【資料 18】研究協議会マトリクス型シート

【資料 19】西目小リフレクションシート

| 今日 | 自分に相対する 課題の状況は? | 相対する 手段の状況は? | 相対する できること | 今後の重点資質・能力に相対する手段が、見つけられること できること |
|-----------|-----------------------------------|------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 11月17日（水） | ① 動物の動きや容姿の特徴から見た動物の姿を表現することができる。 | 自分のイメージをもとに、動物の姿を表現することができる。 | 動物の色や容姿、自分のイメージをもとに、動物の姿を表現することができる。 | 動物の色や容姿、自分のイメージをもとに、動物の姿を表現することができる。 |
| 11月18日（木） | ② 動きや容姿の特徴から見た動物の姿を表現することができる。 | 動きや容姿の特徴から見た動物の姿を表現することができる。 | 動物の色や容姿、自分のイメージをもとに、動物の姿を表現することができる。 | 動物の色や容姿、自分のイメージをもとに、動物の姿を表現することができる。 |

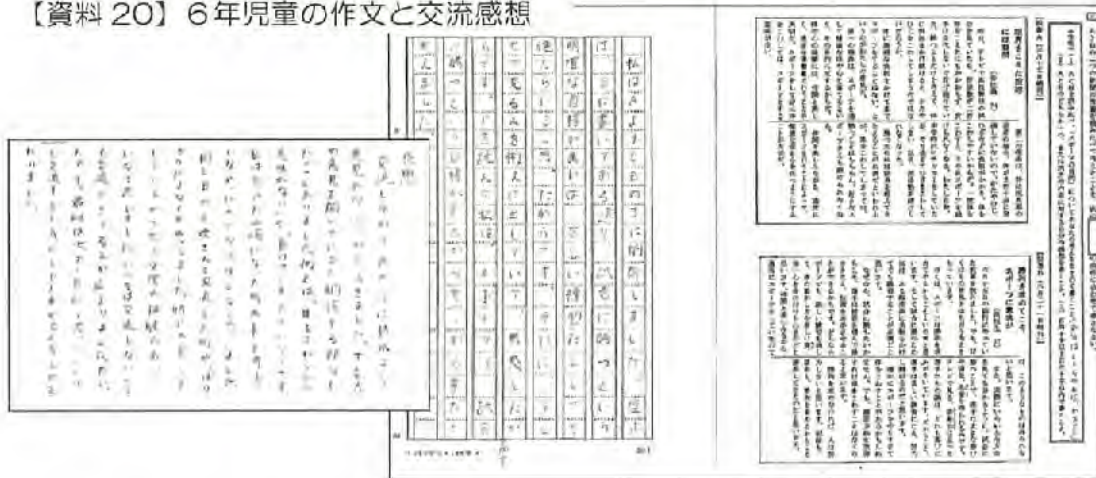
(4) 重点資質・能力を支える言語力を伸ばす活動

① 「ことばタイム」の書く力を高める取組

コロナ禍により各学年の音読発表による「ことば集会」を中止し、作文を書く活動を取り入れた。朝活動の「ことばタイム」(20分間)の2コマを1セットとし、1コマ目で作文を書き、2コマ目を共有と相互評価の時間とした。どのような作文を書くかについては、次の点を全体で共通理解した。

- ・内容や書き表し方において、国語科で身に付けた力を活用・発揮するようにする。
- ・自分の思いや考えを広げる機会としつつも、子どもの興味・関心にも配慮する。
- ・学年によっては事前にプリントを配付し、すぐに書く活動に入れるようにする。
- ・子ども同士の相互評価だけでなく、教師による価値付けも行う。

【資料20】6年児童の作文と交流感想



② 「西目っ子 学びのことば」の見直し・修正

【資料21】教室掲示物「西目っ子 学びのことば」

| 西目っ子 学びのことば | |
|-------------|---------------------------|
| 自分の考えを話そう | |
| 立場や考え | ～の方法で考えました。～に さんせいです。 |
| 理由を | ～に注目して、考えました。 |
| 話そう | 理由は～からです。 |
| 順序よく | はじめに、まず、次に、また、さいごに |
| 話そう | 〇つあります。一つ目は、二つ目は… |
| まとめよう | つまり、これらのことから、このように |
| 友達と話し合おう | |
| つ | ①〇〇さんの考えの△△のところが… |
| な | 〇〇の所までは同じですが、〇〇の所は… |
| け | ②それは…ということですか。 |
| る | …の所をくわしく教えてください。 |
| | ③くらべてみると… |
| し | ④～の考えの方が～だと思います。理由は…からです。 |
| ほ | ⑤～の考えは、つまり… |
| る | ⑥これらの考えは、〇つに分けられます。 |
| 広 | ⑦…から～と考えられます。 |
| げ | ⑧～と～の考えを合わせると… |
| る | ⑨たとえば(もし)〇〇なら、… |
| | ⑩～の考えをヒントにして… |



| 西目っ子 学びのことば(高学) | |
|--------------------|---|
| 【あなたが聴こう】 | |
| 友達の考えを分かってもらうとして聴く | 「ああ」「分かる、分かる」「そうか」「なるほど」「言いたいことが分かる気がする」「今言ったのは…ということですか」「今の意見はいいと思うけれど…」「ここまでは、私と一緒にだと思います」「〇〇さんが言いたいのは、こういうことだと思います。」 |
| 【つなげて話そう】 | |
| つ | ①はじめに、まず、次に、さいごに、また |
| な | 〇つあります。一つ目は、二つ目は… |
| け | ②それは…ということですか。 |
| る | …の所をくわしく教えてください。 |
| | ③くらべてみると… |
| し | ④～の考えの方が～だと思います。理由は…からです。 |
| ほ | ⑤～の考えは、つまり… |
| る | ⑥これらの考えは、〇つに分けられます。 |
| 広 | ⑦…から～と考えられます。 |
| げ | ⑧～と～の考えを合わせると… |
| る | ⑨たとえば(もし)〇〇なら、… |
| | ⑩～の考えをヒントにして… |
| | ⑪〇〇(の立場)では…、△△(の立場)では… |

聴くことに関して追加

多角的な考え方に迫る述べ方を追加

本校では、昨年度まで【資料21】の左のような「西目っ子 学びのことば」を使って学習を進めてきた。しかし、「考えが伝わる表現力」を育成するためには、「話すこと」だけでなく「聴くこと」についても、どのような姿を目指すべきか目安が必要

であるという結論に至り、「聴くこと」に関して追加した。

その際、「各教科等の思考力・判断力・表現力等」に関わる資質・能力と、各教科等で思考していく際の視点となる考え方を洗い出し、これまでの「西目っ子 学びのことば」に、「論理的な思考力」を発揮するときを活用できる述べ方を付け加えた。

③ 話す力を伸ばす「ことばの力 パワーアップ」の取組

これまでも「西目っ子 学びのことば」は、A1サイズに拡大して教室に掲示し、子どもの目に触れるようにしていた。しかし、活用している姿を価値付けていかなければ身に付けていくことはできないことを実感していた。また、「西目っ子の学びアンケート」から「分かりやすく伝えること」に苦手意識があることが明らかになった。

そこで、「考えが伝わる表現力」を育むためには、自覚化と可視化が鍵であると考え、下の写真の取組を共通実践として行った。自分たちに身に付いてきた「分かりやすい話し方」を短冊等を書いていくものである。

6年生については、学級活動を取組のきっかけとしたところ、「分かりやすい話し方」を身に付けることを、児童一人一人が自分事と捉える姿が見られるようになった。2～3日中の学習内容を見通して、係の子どもがどの話し方が使えるかを考えて付箋を貼り、帰りの会で知らせるなど、学級内で意識付ける取り組みを工夫して行っていた。



＜「ことばの力 パワーアップ」の教室掲示物 左：5年 右：6年＞

(5) 教育課程等の評価・改善

① 子どもの意識調査（「西目っ子の学びアンケート」）より

質問に対して「とてもそう思う、よくできる」「そう思う、できる」と肯定的に答えた子どもの割合は、次頁の通りである。

問題を発見したり再考したりすることに関わる質問4は、「論理的な思考力」の一部と捉えられるが、この力を育むために意図して手立てを講じていることが子どもの回答から判断できる。また、「考えが伝わる表現力」に関わる質問2については、他より割合は低いものの、子どもの意識レベルでは改善傾向にあることがうかがえる。ただ、児童と教師の結果を比較すると非常に差が大きい。子どもに対して高い姿を求めつつも、自己肯定感を損なわないように手立てを講じている成果ではないかとプラス思考で捉えることとする。

＜「西目っ子の学びアンケート」結果＞

| 質 問 内 容 | | 児童 6月 | 児童 12月 | 教員 12月 |
|---------|---|----------|-----------|-----------|
| 1 | 課題が分かり、やってみたいと思って学習していますか。 | 92% | 92% | 94% |
| 2 | 自分が伝えたいことを分かりやすく伝えることができますか。 | 76% | 81% | 47% |
| 3 | 友達の考えと比べたり、もっとよいやり方を考えたりして話し合うことができますか。 | 86% | 88% | 65% |
| 4 | 「あれ?」「おや?」「まてよ!」と、どうしたかなと思ったり気がついたりすることができますか。 | 78% | 85% | 65% |
| 5 | こんなふうに考えるんだな、前より自分の考えが広がってきたな、次はこんなふうに考えたいな、などと学習を振り返ることができますか。 | 89% | 91% | 88% |
| 6 | 2学期の学習を振り返って、「〇〇の学習は似ているな」「〇〇の学習を□□の学習でも使えるな」と思うことはありますか。 | 88% | 95% | 71% |

② 研修会議（7月、12月）と校内授業研究会（11月）での評価・改善

7月と12月の研修会議と校内授業研究会での重点資質・能力に関する子どもの姿に関する発言を紹介する。

＜伸びてきたところ＞

- ・理由や根拠を明確にして発言できる。(7月、11月、12月)
- ・理由や根拠として、言葉以外の図や表、写真等の資料も進んで利用できる。(12月)
- ・自分の考えと友達の考えを比較しながら聴き、自分の考えを述べている。(12月)
- ・自分の経験や既習事項（同じ教科内だけでなく）を基に、課題を追求しようとしている。(12月)

＜もう少し伸ばしたいところ＞

- ・話の中心に気を付けて聴く。(7月)→「西目っ子 学びのことば」の修正
- ・理由や根拠を分かりやすく話せるとは言い難い子どもがまだいる。(12月)
- ・目的意識や必要感を明確にし、学習することが何に役立つか意識をもつ。(7月)
- ・問題の本質を捉えて問題点を見いだしたり、視点を整理して比較したりする力が弱い。(11月)
- ・意味が分からない発言について質問することに抵抗がある。(11月)
- ・論理的な思考力については、まだ不足している。(12月)

4 取組を進める上での学校運営上の工夫

(1) 組織で動く研究推進

① 学年部経営の重視

本校では、学年部経営を重視し、重点資質・能力を育成するための単元の精選と重点化も学年部ごとに行った。1年間の見通しを学級間で共有し、学年経営の柱を立てることにつながった。さらに、7年部も交えて行うことにより、開かれた協議となっている。各々が精通している教科を生かした精選と重点化へもつなげることができた。

② 「生活科・きらら（総合的な学習の時間）部会」の新設

生活科及び総合的な学習の時間を核として、重点資質・能力で教科等間をつなげるためには、各単元の学習活動が明らかになっていなければならない。そこで、これまで継続してきた「地域とつながる体験的な学習」を生かして探求的な学習を進めていくことができるように、単元の見直しを目的に部会を新設した。「きらら〇年部会」とし、所属学年と校務分掌を考慮して6、7人程度のメンバーで協議した。

(2) 重点資質・能力を育む意識の共有（研究推進の共有）

① 子どもの姿で見取る

資質・能力が育まれているかどうか、子どもの姿で見取り、語ることを大切にしている。「西目っ子の学びアンケート」にも、数値の検証だけでなく記述欄を設け、子どもの思いや願いを見取り、個別の支援に生かした。各種学力調査においても、子どもの誤答分析を全職員で分担して行い、授業改善の方策を提案・共有した。

② ワークショップ型協議会等のグループ編成の工夫

研究協議会、各種調査の誤答分析、カリキュラムのデザイン等でグループを編成する場合が多い。近隣学年を分けたり経験年数を考慮したりしてグループ編成をし、多くの職員と意見交換できるようにした。

(3) 無理のない取組とする工夫

① これまでの取組を整理・更新し活用へ

これまで取り組んできた本校独自の種々の活動を「重点資質・能力を育む」という視点で見つめ直し、整理・修正して、活用することを心がけた。それが、先述の「ことばタイム」や「西目っ子 学びのことば」である。重点資質・能力を支える取組であることを再確認でき、より力を付けるための方策を工夫する機会となった。

② 「パット」取り組む

研修会議を年間10回程度設定している。その中に、重点単元の設定や評価、育まれている子どもの姿を評価する時間を設ける会がある。記録に残しておきたいときは、なるべくその時間で完結するように、また、随時活用していくためにも手書きで記入する形のプリント等を準備した。

5 成果と今後の展望

2年間の調査研究の成果として、教職員の意識や子どもの姿の変化が見られた。アンケートの記述の主なものを紹介する。

<学校組織の一員として>

- ・以前よりも学校教育目標、研究主題や資質・能力を意識して授業づくりをするようになった。
- ・学校全体で取り組むという意識が高まり、学年部や学団部で互いに声を掛け合い、連携して取り組むようになった。
- ・学校の経営について、変えていった方がいいことや挑戦したいことなどを声に出すことができるようになった。

<個人の力量や見方・考え方の更新と発展>

- ・授業を語るときに、「資質・能力を育成する」という意識が強くなり、教師の視点だけでなく子どもの姿を重視するようになった。
- ・一つの教科を窓口にしながらも、他教科や諸活動との関連をさらに広げてみるができるようになり、広い目で教材を捉えられるようになった。
- ・前学年や次学年とのつながり、さらに6年間を通した学びを意識しながら教材を捉えることができるようになった。
- ・1年間を俯瞰して、子どもの育ちを踏まえて単元づくりをしようとする意識が高まった。

<子どもの姿>

- ・教科学習で得た知識や技能を日常の生活や他教科などに自ら生かそうとする姿が見られるようになった。そのため、学びに広がりや深まりが見られるようになった。
- ・今、自分たちが行っていることが、どんな力を身に付けることにつながるのかを、子ども自身が意識できるようになってきた。

教師には、「学校教育目標を実現する」という学校経営への参画意識の高まり、「子どもに資質・能力を育む」という指導観の更新、単元開発意識の醸成があったと感じている。そして、子どもたちには、学ぶことの意義に気付き、主体的、協働的に学びを進めようとする姿が見られたと考える。教師も子どもも「学びについての見方や考え方」を共に変化させながら、この調査研究を進めることができた。

ただ、本校では、「アクティブ・ラーニング実践フィールド校」の指定を受けて以来、カリキュラム・マネジメントに取り組んできたが、まだ、迷いが出たり再考したりせざるを得なく、試行錯誤することが多かった。特に、本校の「重点資質・能力」については、教科等の枠組みを踏まえた捉えから「学習の基盤となる資質・能力」という捉えに変更したこと、重点資質・能力を三つの柱で整理する必要があったことなどから、未だ、教科等横断的な視点で単元等をつなぐことに難しさを感じている。

しかし、職員も毎年変わる中、定期的に評価・改善しながら前年度までの取組を基に全員で取り組んできたことで、同じベクトルで研究を進められたと感じている。このような意識を持ち続け、今後も試行錯誤しながら取り組んでいきたい。

第3節 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた取組

【由利本荘市立岩城小学校】

1 はじめに

本校は、旧岩城町道川地区の道川小学校と亀田地区の亀田小学校、旧本荘市松ヶ崎地区の松ヶ崎小学校の3校が統合し、平成26年に岩城小学校として開校した新しい学校である。開校以来、コミュニティ・スクールの機能を生かし、学校運営協議会を中心に地域の意見を取り入れた教育活動を展開し、「地域を愛し、地域から愛される学校づくり」を進めている。その上で、児童が将来自立して地域社会に貢献できる人材になることを願い、確かな学力を身に付け、心身ともにたくましい児童の育成を目指した教育活動に取り組んでいる。

本校の児童は、明るく素直で、授業や学校行事などの諸活動に前向きに取り組むことができる。算数科を中心に習熟度別学習を取り入れ、少人数学習で個に応じた指導を進めてきたことにより、全国学力・学習状況調査や県学習状況調査において全国平均や県平均を上回るようになってきている。しかし、児童の学ぶ目的意識が二極化しており、それが学習の定着にも関係している。本校の特色を生かした教育課程の編成において、各教科等で育成される資質・能力と、それらに関連付けた内容の体系化を図り、自己や他者との対話を繰り返し、他者と関わることを通して学びを深める教育活動の充実が求められる。

そこで、「現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成」のテーマのもと、歴史ある本地域で生活している本校の児童に育みたい資質・能力の方向性を、「地域や社会における産業の役割を理解し、地域創生等に生かす力」及び「グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現在まで受け継がれてきた我が国固有の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力」として研究を進めることとした。

2 令和元年度の取組

(1) 学校の教育目標等の設定

令和2年度より完全実施となる新学習指導要領では、これからの時代における様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を拓き、持続可能な未来の創り手となるために必要な資質・能力を一人一人の子どもに身に付けさせることができるよう、社会との連携及び協働による「社会に開かれた教育課程」を重視した教育を行うことが求められている。

本校では、令和元年度、これまでの取組を教育課程上に位置付け、授業の中に地域の自然や文化、施設、人材等を活用し、地域との関わりの中で資質・能力を育む「郷土や地域の特色を生かしたカリキュラム・マネジメント」の調査研究に学校全体で取り組み、確かな学力とたくましく生きる力を育てていくために、次のような学校教育目標、重点、研究主題を設定した。

① 学校教育目標

夢と希望をもち、自分を高めようとする子どもの育成
 ～いきいき笑顔・わくわく学習・きらきら活動～

《合い言葉》

- ①いのちを守る岩城小
- ②われをみがく岩城小
- ③きづいて動く岩城小

② 経営の重点

- ア 確かな学力を身に付けさせるための指導方法の工夫改善
- イ 心の教育の充実とキャリア教育の視点を重視したふるさと教育の推進
- ウ 特別支援教育及び生徒指導の充実
- エ コミュニティ・スクールの推進

③ 研究主題

自ら考え、共に学び合う子どもの育成
 ～主体的・対話的な学びを基に、よりよい気づきを育む授業改善～

(2) 「郷土や地域に関する教育」「伝統や文化に関する教育」を通して現代的な諸課題に対応するための資質・能力を育成するために

① 本校で育てたい資質・能力を具体的な児童の姿として設定

本校で育てたい資質・能力を設定するに当たり、学校教育目標に対しての児童の実態について、全教職員でワークショップ型で協議した。それを踏まえ、本校で育てたい資質・能力を「他と関わる力」「豊かな言語力」「判断する力」の三本柱とし、それらに沿って目指す児童の姿を具体的に設定した。

| | いのちを守る ⇒他と関わる力 | われを磨く ⇒豊かな言語力 | きづいて動く ⇒判断する力 |
|--------------|---|----------------------------------|--------------------------------------|
| 知識及び技能 | 自他の生命を尊重する。 相手の立場に立って親切にする。 | 知識・技能を身に付けて生かす。 | よりよい目標を立てる。 自律的に判断し、行動する。 |
| 思考力、判断力、表現力等 | 自分の考えや意見を相手に伝える。 自分と異なる意見や立場を尊重して行動する。 | 多面的・多角的、論理的に考えて表現する。 | 進んで、みんなのために働く。 目標達成のために、粘り強く取り組む。 |
| 学びに向かう力、人間性等 | 他と協調し、生活の充実を図る。 美しいものや気高いものに感動する。 | 協働的に学び、価値を深める。 学びを振り返り、次を見通す。 | 周りとの助け合いや支え合いに感謝し、それに応える。 |

【資料1：本校で育てたい資質・能力を身に付けた児童の姿】

② 児童と本校で育てたい資質・能力の共有化

ア 児童の意識化を図る学級会の位置付け

学びの当事者である6年生児童と資質・能力について共有化を図るために、学級会を位置付けた。議題を「岩城小学校をよりよくするために」とし、校長がT1、学級担任がT2となって児童の見取りを保障した。話し合いで用いた一覧表（付箋をまとめたもの）を廊下に掲示し、児童の意識化の後押しをするようにした。



＜付箋紙を用いて各グループで検討後、全体で協議して一覧表で掲示＞

イ 中学生、保護者や地域の方々との連携による「熟議」の位置付け

6年生児童が、岩城中学校の生徒、保護者や地域の方々との「小中学校合同PTA意見交流会」にて、「岩城をよりよくするために」をテーマに熟議を行った。児童は、学級会で取り組んだ「岩城小学校をよりよくするために」と重ね合わせながら考え、より自分事として捉えていた。



＜6年生・中学生・保護者・地域の方をメンバーとしたワークショップ＞

ウ 本校で育てたい資質・能力を発達段階に応じた具体的な児童の姿として設定

児童会の運営委員と各委員長が中心となり、発達段階に応じた本校で育てたい資質・能力を身に付けた児童の姿について話し合った。その際、本校で育てたい資質・能力を身に付けた6年生の姿から、中学年、低学年へと逆算して想定するようにした。それをもとに教職員で協議し、表に整理して系統立てて捉えられるようにした。



＜資質・能力を身に付けた児童の姿を発達段階に応じて設定（6年生児童）＞

<低学年：ホップ>

| | 他と関わる力 | 豊かな言語力 | 判断する力 |
|--------------|--|---|--|
| 知識及び技能 | ア 生きることのすばらしさを知り、生命を大切に作る。 イ 困っている人に気づいて、親切にする。 | ア 知識（ちえ）や技能（できること）を確かにする。 | ア 自分のよさや役割に気付く。 イ きまりを守り、自分のことを自分でする。 |
| 思考力、判断力、表現力等 | ウ 自分の考えをもつ。 エ 人の意見や考えを最後まで聞く。 | イ 自分とみんなを比べて、筋道立てて表現する。 | ウ 自分の役目に取り組み。 エ 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行う。 |
| 学びに向かう力、人間性等 | オ みんなと仲よく、明るく過ごす。 カ 美しいものや素晴らしいものに気付く。 | ウ みんなと学び合い、気付きを深める。 エ 学びを振り返り、次の学習を予想する。 | オ 友達や家族、地域の人々など自分との関わりに気づき、感謝する。 |

<中学年：ステップ>

| | 他と関わる力 | 豊かな言語力 | 判断する力 |
|--------------|--|---|--|
| 知識及び技能 | ア 生命の尊さを知り、生命あるものを大切に作る。 イ 相手のことを思いやり、進んで親切にする。 | ア 知識や技能（できること）をつなげる。 | ア 自分の特徴に気づき、よくなるための目標を立てる。 イ きまりを基に、自分で決めて行動する。 |
| 思考力、判断力、表現力等 | ウ 自分と他の考えを比べる。 エ 自分と異なる意見を聞いて、受け止める。 | イ いろいろな見方を関係付け、筋道立てて表現する。 | ウ 人の役に立つことに気付いて働く。 エ 目標に向かって自分を見つめ直して努力する。 |
| 学びに向かう力、人間性等 | オ 周りの人と協力してよりよく過ごす。 カ 美しいものや素晴らしいものに気付く。 | ウ 進んでみんなと学び合い、気付きを深める。 エ 学びを振り返り、次の学習と関連させる。 | オ 周りの人との助け合いや支え合いに感謝し、自分を見つめ直す。 |

<高学年：ジャンプ>

| | 他と関わる力 | 豊かな言語力 | 判断する力 |
|--------------|---|--------------------------------------|--|
| 知識及び技能 | ア 自分の生命を尊重する。 イ 相手の立場に立って親切にする。 | ア 知識・技能を身に付けて生かす。 | ア よりよい目標を立てる。 イ 自律的に判断し行動する。 |
| 思考力、判断力、表現力等 | ウ 他の考えを受け入れ、自分の考えや自分の意見を伝える。 エ 自分と異なる意見や立場を尊重して行動する。 | イ 多面的・多角的に論理的に考えて表現する。 | ウ 進んでみんなのために働く。 エ 目標達成のために粘り強く取り組む。 |
| 学びに向かう力、人間性等 | オ 他と協働し生活の充実を図る。 カ 美しいものや気高いものに感動する。 | ウ 協働的に学び、価値を深める。 エ 学びを振り返り、次を見通す。 | オ 周りとの助け合いや支え合いに感謝し、それに応える。 |

【資料2：本校で育てたい資質・能力を身に付けた児童の姿の系統表】

③ 本校で育てたい資質・能力の発達段階に応じた「まなびのアンケート」の作成

全校児童が本校で育てたい資質・能力を自分事として捉えられるように、児童が自己評価するための「まなびのアンケート」を作成した。

アンケート項目は、ふるさと教育の重点目標から、【資料1】との対応を明確にして設定した。それを基に、【資料2】に整理した発達段階に応じた児童の姿と照らし合わせ、低学年用をホップ、中学年用をステップ、高学年用をジャンプとして作成した。

| アンケートしたまなびの姿 | ○を付けるまなびの姿 |
|---|------------|
| ① いのちを大切にしている。 | 4 3 2 1 |
| ② 困っている人に気づいて、しんげつにしている。 | 4 3 2 1 |
| ③ じいんの かんがえを 持っている。 | 4 3 2 1 |
| ④ ともだちの いけみや かんがえを、さいごまで 覚えている。 | 4 3 2 1 |
| ⑤ みんなと なかよく、 助けあっている。 | 4 3 2 1 |
| ⑥ 「つづかしいが」、「すばらしいが」と、 勇ましく 話している。 | 4 3 2 1 |
| ⑦ ちえや できることを 小まかに 覚えている。 | 4 3 2 1 |
| ⑧ じいんと あんどの お話を 聞いて、 じいんと 一緒に 話している。 | 4 3 2 1 |
| ⑨ みんなと 助けあっている。「おもしろい」、「わかった」と 話している。 | 4 3 2 1 |
| ⑩ がくしゅうを 小まかに、 ついでに がくしゅうを やっている。 | 4 3 2 1 |
| ⑪ じいんに、 よいことを 話している。 | 4 3 2 1 |
| ⑫ 昔の話を 聞いて、 じいんのことを じいんで やっている。 | 4 3 2 1 |
| ⑬ じいんの せうめいを 覚えている、 がんばっている。 | 4 3 2 1 |
| ⑭ じいんが やさしくて かわいい へんごや やさしい ことばを 覚えている。 | 4 3 2 1 |
| ⑮ じいんが、 かぞく、 せいのひとに、「ありがとう」と 話している。 | 4 3 2 1 |
| ⑯ じいんのために、 がんばり してあげたいと 話している。 | 4 3 2 1 |

| いわきっ子 まなびのアンケート(ステップ) | | | | | | |
|---|---|---|----|----|---|---|
| 種別 | 項目 | 時間 | 項目 | 時間 | | |
| つもんないよに いちばんあつちうに ○をしてくだい。 4-あてはまる 3-どちらかといえは あてはまる 2-どちらかといえは あてはまるない-あてはまるない | | | | | | |
| アンケートしつもんないよう ○をつけるばしよ | | | | | | |
| 他と関わる力 | ① | かざりの知る事、つながる事を知り、生命の奥の奥まで大切にしている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ② | 相手のことを思いやり、真ん中で大切にしている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ③ | 自分と他の考えを、くらべる事ができる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ④ | 自分の考えと、相手の考えでも、厳格家で聞いて、相手の言いたことを、書いている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑤ | 周りの人と協力して、よりよくできている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑥ | 「楽しいな」、「すばらしいな」と、思うことが出来る。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑦ | 学んだ知識や、てらることを、学習や生活に、つなげている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑧ | いろいろな方法を、むすびつけて、学習や、てらることに、取り組んでいる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑨ | 真ん中で、みんなと学び合い、教えあひたり、励めたりしている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑩ | 学びをかかさず、次の学習と、むすびつけている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 関わる力 | ① | 自分らしさを書えて、よりよくなる目標を立てている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ② | あまり急もたに、自分で決めて、行動している。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ③ | 人の強に立つことを、書つけて、行動している。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ④ | 困難に向かつて、自分を、真つめ強して、努力している。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑤ | 周りの人との、助け合いや、真つ強いに、「ありがとう」と、書いて、自分の強に、むすびつけている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑥ | 困難のために、なる活動に、真ん中で、取り組めたいと思う。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | あてはまる 3-どちらかといえは あてはまる 2-どちらかといえは あてはまるない-あてはまるない | | | | | |

| いわきっ子 まなびのアンケート(ジャンプ) | | | | | | |
|---|---|---|----|----|---|---|
| 種別 | 項目 | 時間 | 項目 | 時間 | | |
| つもんないよに いちばんあつちうに ○をしてくだい。 4-あてはまる 3-どちらかといえは あてはまる 2-どちらかといえは あてはまるない-あてはまるない | | | | | | |
| アンケート質問内容 ○をつける場所 | | | | | | |
| 他と関わる力 | ① | かざりの知る事、つながる事を知り、自分の生命を大切にしている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ② | 相手の立場に立って、真ん中で大切にしている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ③ | 自分の考えを、相手の考えと、くらべる事ができる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ④ | 自分の考えと、相手の考えでも、厳格家で聞いて、相手の言いたことを、書いている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑤ | 周りの人と協力して、よりよくできている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑥ | 「楽しいな」、「すばらしいな」と、思うことが出来る。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑦ | 学んだ知識や、てらることを、学習や生活に、つなげている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑧ | いろいろな方法を、むすびつけて、学習や、てらることに、取り組んでいる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑨ | 真ん中で、みんなと学び合い、教えあひたり、励めたりしている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑩ | 学びをかかさず、次の学習と、むすびつけている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 関わる力 | ① | 自分らしさを書えて、よりよくなる目標を立てている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ② | あまり急もたに、自分で決めて、行動している。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ③ | 人の強に立つことを、書つけて、行動している。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ④ | 困難に向かつて、自分を、真つめ強して、努力している。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑤ | 周りの人との、助け合いや、真つ強いに、「ありがとう」と、書いて、自分の強に、むすびつけている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | ⑥ | 困難のために、なる活動に、真ん中で、取り組めたいと思う。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | あてはまる 3-どちらかといえは あてはまる 2-どちらかといえは あてはまるない-あてはまるない | | | | | |

【資料3：本校で育てたい資質・能力の系統表と整合させた「まなびのアンケート」】

④ 総合的な学習の時間や生活科を核とした教科等横断的な取組

ア 郷土や地域に関する教育及び伝統や文化に関する教育を通して、本校で育てたい資質・能力の焦点化・共有化

教科等横断的な単元を構想するに当たり、郷土や地域に関する教育及び伝統や文化に関する教育を通して、本稿で育てたい資質・能力が育まれた児童の姿について研修会議で協議し、焦点化を図って共有した。

| ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり ～みんなで作ろう「教育立県あきた」～ | | |
|---|---------------------------------|-----------|
| 学校教育目標「夢と希望をもち、自分を高めようとする子どもの育成」 | | |
| 6年生 | ふるさとのよさや課題を見つめ直し、展望する(社会への発信) | いのちを守る岩城小 |
| 5年生 | 米作りや地域の産業を通して、地域のよさを見つめ直す | 「他と関わる力」 |
| 4年生 | 受け継がれるまちづくりを調べ、先人の思いにふれ、願いをもつ | われをみがく岩城小 |
| 3年生 | 受け継がれる祭りから地域の文化に愛着をもつ(他地区との比較) | 「豊かな言語力」 |
| 2年生 | 三地区の町探検を通して地域にあるものに愛着をもつ(石碑、寺等) | きづいて動く岩城小 |
| 1年生 | 亀田地区の四季を調べ、地域の自然に愛着をもつ(亀田公園等) | 「判断する力」 |

【資料4：郷土や地域に関する教育及び伝統や文化に関する教育を通して、

本校で育てたい資質・能力が育まれた児童の姿】

イ 教科等横断的な取組を促すカリキュラム・デザインによる可視化・共有化

全体を俯瞰的に関連付けられる単元配列表を用いて、「郷土や地域に関する教育」「伝統や文化に関する教育」を軸に据え、学習内容や資質・能力のつながりを視点として単元や題材等の関連性を見直して線をつなぎ、カリキュラム・デザイン表として可視化した。カリキュラム・デザイン表は、関係性が分かりやすいように、児童が習得した内容を生かし、自分事として位置付けられやすい総合的な学習の時間や生活科

を核とし、関連性が強い道徳科や特別活動、学校行事を中核として、次のように構造的に表した。

令和元年度 第5学年 年間単元配当表 地域・郷土に関する学習、及び国語・文法に関する学習を推進して「郷と関わる力」「郷を学ぶ力」を育成すること

香取市立香取西小学校

| 単元 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8・9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 国語 国語 国語 国語 | 国語 国語 国語 国語 | 国語 国語 国語 国語 | 国語 国語 国語 国語 | 国語 国語 国語 国語 | 国語 国語 国語 国語 | 国語 国語 国語 国語 | 国語 国語 国語 国語 | 国語 国語 国語 国語 | 国語 国語 国語 国語 | 国語 国語 国語 国語 | 国語 国語 国語 国語 |
| 社会 社会 社会 社会 | 社会 社会 社会 社会 | 社会 社会 社会 社会 | 社会 社会 社会 社会 | 社会 社会 社会 社会 | 社会 社会 社会 社会 | 社会 社会 社会 社会 | 社会 社会 社会 社会 | 社会 社会 社会 社会 | 社会 社会 社会 社会 | 社会 社会 社会 社会 | 社会 社会 社会 社会 |
| 算数 算数 算数 算数 | 算数 算数 算数 算数 | 算数 算数 算数 算数 | 算数 算数 算数 算数 | 算数 算数 算数 算数 | 算数 算数 算数 算数 | 算数 算数 算数 算数 | 算数 算数 算数 算数 | 算数 算数 算数 算数 | 算数 算数 算数 算数 | 算数 算数 算数 算数 | 算数 算数 算数 算数 |
| 理科 理科 理科 理科 | 理科 理科 理科 理科 | 理科 理科 理科 理科 | 理科 理科 理科 理科 | 理科 理科 理科 理科 | 理科 理科 理科 理科 | 理科 理科 理科 理科 | 理科 理科 理科 理科 | 理科 理科 理科 理科 | 理科 理科 理科 理科 | 理科 理科 理科 理科 | 理科 理科 理科 理科 |
| 道徳 道徳 道徳 道徳 | 道徳 道徳 道徳 道徳 | 道徳 道徳 道徳 道徳 | 道徳 道徳 道徳 道徳 | 道徳 道徳 道徳 道徳 | 道徳 道徳 道徳 道徳 | 道徳 道徳 道徳 道徳 | 道徳 道徳 道徳 道徳 | 道徳 道徳 道徳 道徳 | 道徳 道徳 道徳 道徳 | 道徳 道徳 道徳 道徳 | 道徳 道徳 道徳 道徳 |
| 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 | 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 | 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 | 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 | 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 | 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 | 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 | 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 | 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 | 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 | 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 | 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 学習指導要領 |
| 特別活動 特別活動 特別活動 特別活動 | 特別活動 特別活動 特別活動 特別活動 | 特別活動 特別活動 特別活動 特別活動 | 特別活動 特別活動 特別活動 特別活動 | 特別活動 特別活動 特別活動 特別活動 | 特別活動 特別活動 特別活動 特別活動 | 特別活動 特別活動 特別活動 特別活動 | 特別活動 特別活動 特別活動 特別活動 | 特別活動 特別活動 特別活動 特別活動 | 特別活動 特別活動 特別活動 特別活動 | 特別活動 特別活動 特別活動 特別活動 | 特別活動 特別活動 特別活動 特別活動 |
| 学校行事 学校行事 学校行事 学校行事 | 学校行事 学校行事 学校行事 学校行事 | 学校行事 学校行事 学校行事 学校行事 | 学校行事 学校行事 学校行事 学校行事 | 学校行事 学校行事 学校行事 学校行事 | 学校行事 学校行事 学校行事 学校行事 | 学校行事 学校行事 学校行事 学校行事 | 学校行事 学校行事 学校行事 学校行事 | 学校行事 学校行事 学校行事 学校行事 | 学校行事 学校行事 学校行事 学校行事 | 学校行事 学校行事 学校行事 学校行事 | 学校行事 学校行事 学校行事 学校行事 |

【資料5：学習内容や資質・能力の関連性を可視化したカリキュラム・デザイン表】

ウ 地域素材を取り入れた大単元構成

5年生の算数科「合同な図形」の単元の導入や学習問題に組子細工を取り入れたり、6年生の道徳科の教材として新聞記事を活用したりするなど、地域素材を取り入れて単元を構想し、地域社会とつながりをもつようにした。

総合的な学習の時間や生活科の単元計画には、10月に実施する学校行事「学習発表会」を地域に発信する場として位置付けた。地域を学習素材として総合的な学習の時間や生活科を中心に進めてきた教科等横断的な学習の取組について発表し合うことによって、児童が他者との関わりについて自分を見つめ直し、ステップアップを図るようにした。



<4年生「地域のお囃子」> <5年生「百姓おどり」> <全校合唱「秋田県民歌」>

(3) その他の取組

① 地域人材の活用による教育活動の充実

コミュニティ・スクールの機能を生かし、地域の人材や物的資源を活用して教育活動の充実を図っている。生活科では「畑の先生」として地域の農家の方、図工科では地域の大工職人、総合的な学習の時間には大豆作りや稲作栽培についてJAの方々等、専門的な立場の方から指導をいただきながら学習活動に取り組んでいる。

また、学校運営協議委員による「あいさつ運動」をはじめ、学習サポーター（ボランティア）の地域の方々による読み聞かせやクラブ活動への指導、地域の祭り「旧藩祭」のお囃子や手踊りの指導等をいただいている。



<地域の方々による「あいさつ運動」>

② 関係諸機関や外部機関との連携による専門性を生かした保健指導

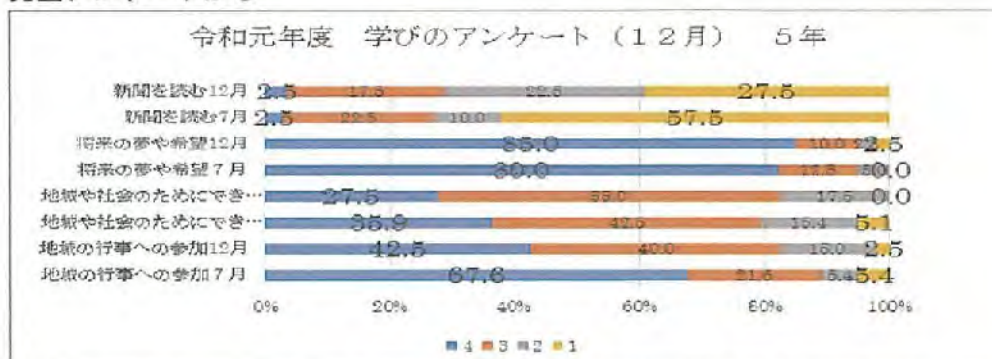
学校医や保健師の協力を得て、「手洗い教室」、「塩分教室」や「糖分教室」、「移動健康教室」や「こころの健康づくり教室」を実施している。

それらに加え、令和元年度は、4年生の保健学習「体の発育・発達」において、2名の学校医の協力を得た。専門的な立場の方の話を聞き、疑問を解決しながら学習を進めたことによって、児童は、得た知識を生かして生活していこうという強い思いをもっていた。また、地域社会とのつながりに気づき、「地域の人々から守られている」という安心感を抱くとともに、「地域の一人として、自分にできることをしていきたい」という見通しをもっていた。

(4) 教育課程等の評価・改善

教育課程の評価・検証・改善に当たって、まず、児童及び保護者に対しアンケート調査を行った。その結果をコミュニティ・スクール学校運営協議会に提示し、学校評価を受けて検証していくというPDCAサイクルで教育課程の改善に取り組んだ。

① 児童アンケートから



○自分の将来に対して夢や希望をもつ児童の割合が、90%を上回っている。

○地域や社会をよくするためにできることを考え、地域の行事に参加している児童も少なくない。

② 保護者アンケートから

令和元年度 学校教育に関するアンケート 由利本荘市立若城小学校 「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合

| 項目 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 全校平均 |
|---|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 1 学校は、PTAやお便りなどを通して、教育方針を保護者にわかりやすく説明している。 | 100.0% | 100.0% | 85.7% | 100.0% | 100.0% | 94.1% | 96.6% |
| 2 学校は、保護者や地域の願いや要望を生かそうとしている。 | 100.0% | 92.9% | 96.4% | 94.0% | 97.4% | 88.2% | 94.8% |
| 3 学校は、地域を愛する子どもを育てる活動に取り組んでいる。 | 100.0% | 100.0% | 96.4% | 100.0% | 97.4% | 100.0% | 99.0% |
| 4 学校は、子どもたちが安心して遊べる環境を整えている。 | 100.0% | 92.9% | 92.9% | 92.0% | 97.4% | 97.1% | 95.4% |
| 5 学校は、子どもたちに豊かな学力を身につける授業を行っている。 | 100.0% | 82.1% | 92.9% | 96.0% | 94.7% | 91.2% | 92.8% |
| 6 学校は、子どもたちに社会のルールや規範意識を育てている。 | 94.4% | 92.9% | 92.9% | 94.0% | 92.1% | 94.1% | 93.4% |
| 7 学校は、保護者や地域住民が授業やその他の行事等に参観する機会をよく設定している。 | 100.0% | 96.4% | 96.4% | 98.0% | 94.7% | 100.0% | 97.6% |
| 8 学校は、学校便り、学年通信、学級通信などを通して、学校や子どもたちの様子をよく伝えている。 | 100.0% | 96.4% | 67.9% | 100.0% | 100.0% | 94.1% | 93.1% |
| 9 お子さんは、楽しく学校に通っている。 | 100.0% | 96.4% | 100.0% | 100.0% | 94.7% | 91.2% | 97.1% |
| 10 お子さんは、学校の決まりや約束を守っている。 | 94.4% | 89.3% | 96.4% | 92.0% | 94.7% | 91.2% | 93.0% |
| 11 お子さんは、将来の夢や希望を持っている。 | 77.8% | 82.1% | 96.4% | 90.0% | 89.5% | 82.4% | 86.4% |
| 12 お子さんは、自分の考えを相手に伝えたり、異なる意見にも耳を傾けて行動することができる。 | 77.8% | 50.0% | 75.0% | 86.0% | 89.5% | 76.5% | 75.8% |
| 13 お子さんは、興味のあるものに対して質問したり調べたりすることができる。 | 83.3% | 75.0% | 85.7% | 84.0% | 92.1% | 79.4% | 83.3% |
| 14 お子さんは、目標達成のために粘り強く取り組むことができる。 | 61.1% | 53.6% | 82.1% | 68.0% | 73.7% | 70.6% | 68.2% |
| 15 お子さんは、今住んでいる地域の行事に参加している。 | 66.7% | 78.6% | 82.1% | 90.0% | 63.2% | 76.5% | 76.2% |
| 16 お子さんは、地域や社会をよくするためにできることを考えている。 | 16.7% | 25.0% | 50.0% | 60.0% | 55.3% | 44.1% | 41.8% |

○学校が、地域や保護者からの要望に応える学習活動を行い、その様子を分かりやすく開示していることに対する評価が非常に高い。

●「自分の考えを伝えたり、他の考えを聞き取ったりする力（＝コミュニケーション力）」、「目標達成に向け粘り強く取り組む力（＝たくましさ）」、さらに「地域社会へ貢献しようとする意欲」については、十分ではないという意見が多い。

③ 学校運営協議会による学校評価から

ア 生徒指導に関して

《具体的な取組状況》

- ・各委員会活動及び学級活動の活性化など、一人一人が活躍する場を計画的に設けることで「居場所と活躍する場所のある学校づくり」に努めている。
- ・「子どもを語る会」と支援会議や保護者面談等を開催し、支援を要する児童、気になる児童の情報交換を行いながら、本人・保護者に対し全教職員の共通理解の下、チーム岩城で生徒指導及び特別支援教育に当たっている。

《学校関係者評価と意見》

- 互いのよさを認め、自らの考えや判断を大切にして、自分らしさを発揮しようとする子どもを育てている。子どもたちは日々変容し、明るい表情で学校生活を送っており、これらが地域との交流、課外活動、スポーツ等に生かされ、それぞれの優秀な成績を収めることに生かされ、学校教育目標及び岩城っ子の理想に近付いてきている。

イ 学習指導に関して

《具体的な取組状況》

- ・学年末の子どもの姿をイメージし、少人数学習や習熟度別学習、個別指導の充実による基礎・基本の定着を図っている。
- ・本校で育てたい資質・能力を意識し、付けたい力を明確にした単元構想、学びの質を高める学習課題設定を行っている。
- ・自ら問いをもち、方法を探り、必要な情報を集めて問題を解決する授業を構築している。

《学校関係者評価と意見》

- 授業や教室環境から、日常的に指導方法の工夫改善が図られている。
- 諸検査において、6年生の結果は大変著しく、全国平均や県平均を大きく上回っている。また、県の調査結果からも、実施した全学年の算数と社会は県平均を上回り、学力が確実に向上していることが分かる。
- 学習意欲については、子どもの立場で分析して改善を図ってほしい。

④ 令和2年度に向けての改善策

- ・「郷土や地域」「伝統や文化」という軸を明確化するために学校教育目標を見直し、単元配列表と目指す子どもの姿とを照合しながら、資質・能力の関連性や系統性について再検討する。
- ・生活科や総合的な学習の時間を軸にし、関連する単元を教科等横断的に結び付ける具体的なカリキュラム・マネジメントを実施する。
- ・校内の研究組織を資質・能力に応じた部会に再構成し、効率的にPDCAサイクルを回し、評価・改善を図るような校内体制を構築する。
- ・学校運営協議会による評価等、外部評価を取り入れたPDCAサイクルを機能させるために、定期的に視点や方向性を明確に示しながら教育活動を進める。

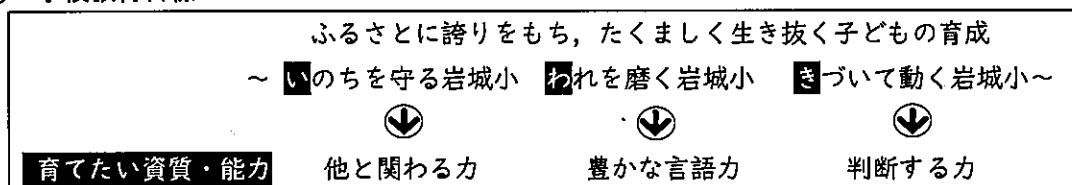
3 令和2年度の取組

(1) 学校の教育目標等の設定

本校では、昨年度、「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」の研究において、教職員全体で議論し、分析し、整理する研修会を何度も重ねた成果として、①育成を目指す資質・能力の設定、②資質・能力を構造化した研究の全体構想策定、③ふるさと教育を軸にした教科等横断的な重点単元の設定と単元配列表の作成等、3点について全体で確認することができた。

2年目となる今年度は、育てたい資質・能力を「他と関わる力・豊かな言語力・判断する力」として共有化を図り、総合的な学習の時間と生活科を核として、「郷土や地域に関する教育」「伝統や文化に関する教育」を通して教科等横断的な学びが実現できるように、教育課程の編成及び年間単元計画の見直しを行った。体験を通して郷土に学び、「実社会で活用できる力」を身に付けることができるよう、全教職員のチーム力で協働的に取り組んでいくために、次のような学校教育目標、重点、研究主題を設定した。

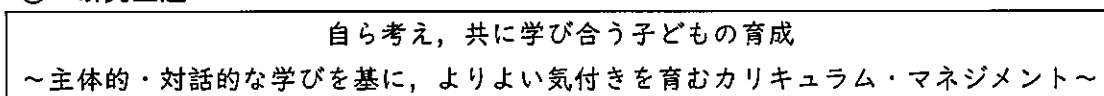
① 学校教育目標



② 経営の重点

- ア ふるさと教育を通して育てたい資質・能力の育成を図るカリキュラム・マネジメント
- イ 課題意識をもって問いを発し、他との関わりで学びを深め、実社会で活用できる学力の育成
- ウ 特別支援教育及び生徒指導の充実
- エ コミュニティ・スクールの推進

③ 研究主題



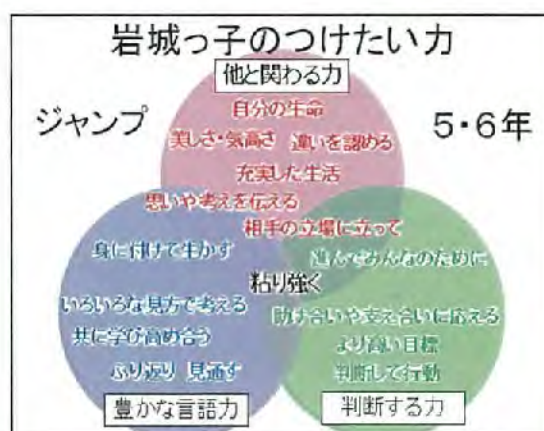
(2) 「郷土や地域に関する教育」「伝統や文化に関する教育」を通して現代的な諸課題に対応するための資質・能力を育成するために

① 本校で育てたい資質・能力の可視化・共有化

ア 本校で育てたい資質・能力の意識化を目指した環境整備

学校教育目標を受けて、「本校で育てたい資質・能力」【資料1】及び「発達段階に応じた本校で育てたい資質・能力」【資料2】について、児童の実態を踏まえて全教職員で見直しを図った。それらを図に表し【資料6】、各教室内に掲示して児童と

共有し、日常的に意識して取り組んでいく姿を目指した。



【資料6：各教室内に掲示した、発達段階に応じた本校で育てたい資質・能力】

イ 本校で育てたい資質・能力を育む「めあてカード」

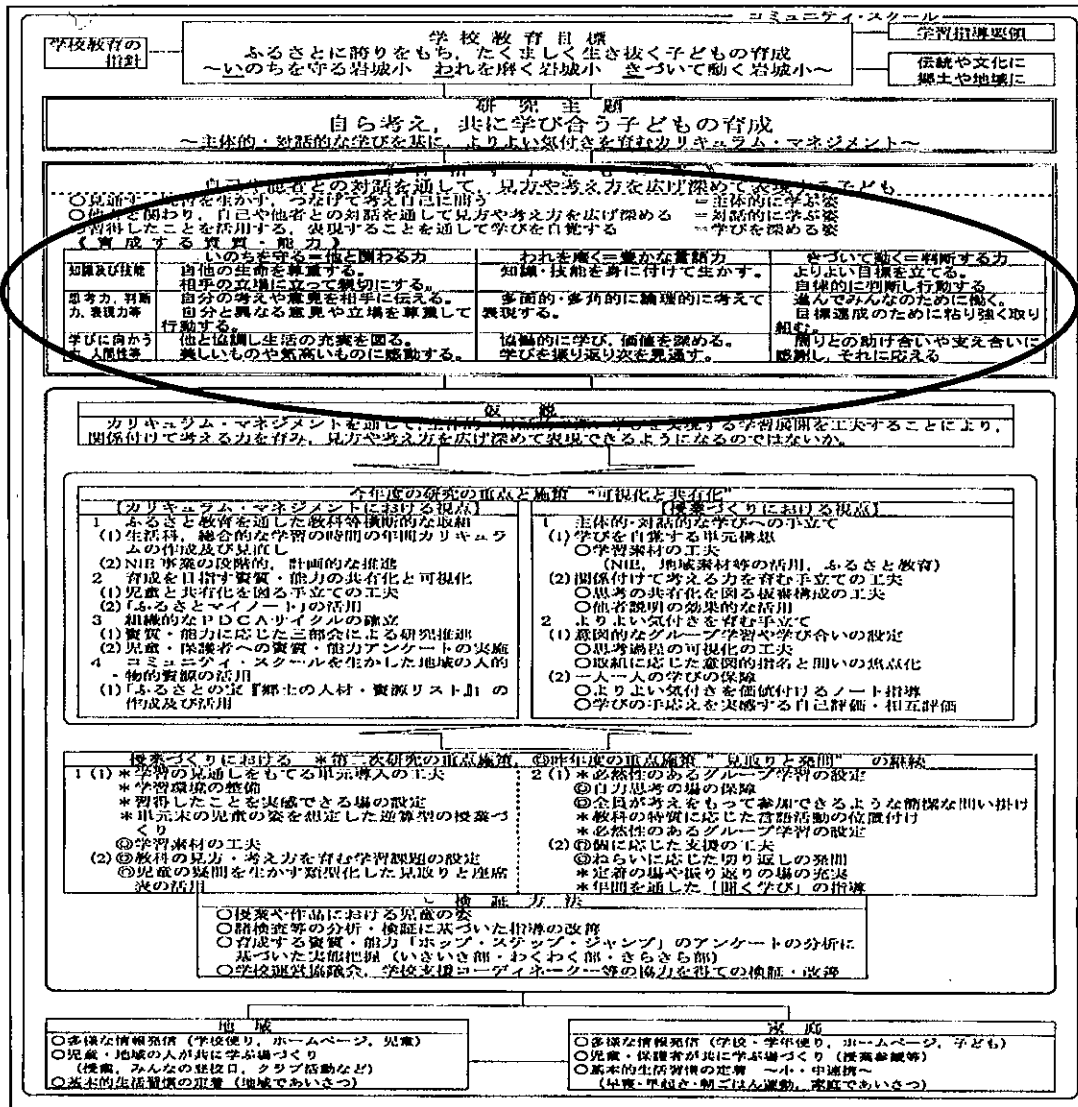
児童が、発達段階に応じた本校で育てたい資質・能力を自覚し、自らよりよい生き方について考えながら生活していく姿を目指したいと考えた。そこで、児童一人一人が資質・能力に応じた期別のめあてを立て、月ごとに振り返るカードを用いた。それを教室内にコーナーを設けて掲示し、児童の実践化の後押しをするとともに、児童一人一人のめあて達成に向けて教師が的確に関わっていくこととした。



【資料7：児童が資質・能力を意識して作成した「めあてカード」】

② 研究計画全体図における本校で育てたい資質・能力の位置付け

学校教育目標の具現化に向けて、各教科で身に付ける資質・能力に加え、本校で育てたい資質・能力を育む授業を目指し、研究計画全体図に本校で育てたい資質・能力を位置付けた。



【資料8：本校で育てたい資質・能力を位置付けた研究計画全体図】

③ 総合的な学習の時間及び生活科年間カリキュラムの作成

年度当初に見直しを図ったカリキュラム・デザイン表【資料5】を基に、ふるさと教育を軸に据えた教科等横断的な単元計画について再考した。それを踏まえ、総合的な学習の時間と生活科の年間カリキュラム表【資料9】を作成し、重点単元における学びの概要や他教科等との関連を整理して児童の指導に反映するようにした。単元計画には、児童が身に付けたことを発信する場として位置付けている学習発表会に加え、今年度から全校児童が参加する地域の祭り「旧藩祭」も位置付けた。カリキュラム表には、活用する地域の人的・物的資源を明記し、見直しをもって取り組めるようにした。

実践過程においても、児童の実態を踏まえて単元計画を再考し、カリキュラム・デザイン表、総合的な学習の時間や生活科の年間カリキュラム表に直接書き込むようにした。8月と12月には、児童の姿から成果や課題として捉えた資質・能力と、今後、意識的な取組で育成を図りたい資質・能力について、本校で育てたい三つの資質・能力別に色分けをして書き出し、カリキュラム表に貼って可視化した。

令和2年度 総合的な学習の時間「ふるさと大好きいわきっ子タイム」年間カリキュラム(5年生)

関：協と関の力 意：豊かな表現力 情：理解する力

岩城のよさを見つめ直そう～米作りや地域の産業を通して～

【学校教育目標】
ふるさとに関心をもち、たくましく生き抜く子どもの育成

【ふるさとで学ぶ学習子どもの姿】
米作りや地域の産業を通して、地域のよさを見つめ直す子ども

【重点として育む資質・能力】
想と関わる力：自分の考えや自分の意見を伝える力。(つ)
豊かな表現力：知識・技能を創りに付けて伝える力。(ア)
判断する力：関心と関わり合いながら課題を、それに応える力。(イ)

【学習単元1「ふるさとの農業」】
1) 育てたい資質・能力
想との関わりに関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きや地域とのつながりを考え表現する。(関、意、情)
2) 学習活動(課題・探究・事後課題)
○ 消費者・生産者双方の立場で多角的に考え、ことごとくできるように過程をとる。
○ 農業の歴史や地域の生産状況と共に、生産者が大切に育ててきた米の歴史を語り継ぐ。
○ 将来への展望ができるような表現をする。

【学習単元2「ふるさとの産業」】
1) 育てたい資質・能力
想との関わりに関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きや地域とのつながりを考え表現する。(関、意、情)
2) 学習活動(課題・探究・事後課題)
○ 地域産業の現状を把握できるように、具体的な資料を参照する。
○ 調べ学習の中で地域と比較することにより、強みや弱みを知ることとする。
○ 将来への展望ができるような表現をする。

【学習単元3「ふるさとの産業」】
1) 育てたい資質・能力
想との関わりに関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きや地域とのつながりを考え表現する。(関、意、情)
2) 学習活動(課題・探究・事後課題)
○ 今までの経験を整理し、ゴールの視をイメージできるようにする。
○ 関心を深め、方法を修正しながら計画を立てていくようにする。
○ 自己の役割を確かめる場を設ける。

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
|-----------|------------------|-------------------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------------|-----------|-----------|-----------------|-----------|----------|--|
| | | ふるさとの農業を見つめ直そう(1) | | | | | | ふるさとの産業を調べよう(1) | | | ふるさとの産業を調べよう(2) | | | |
| 総合的な学習の時間 | 1 米作りの計画を立てよう(4) | 2 田植え(4) | 3 田植え(4) | 4 田植え(4) | 5 田植え(4) | 6 田植え(4) | 7 田植え(4) | 8 田植え(4) | 9 田植え(4) | 10 田植え(4) | 11 田植え(4) | 12 田植え(4) | 1 田植え(4) | |
| | 2 田植え(4) | 3 田植え(4) | 4 田植え(4) | 5 田植え(4) | 6 田植え(4) | 7 田植え(4) | 8 田植え(4) | 9 田植え(4) | 10 田植え(4) | 11 田植え(4) | 12 田植え(4) | 1 田植え(4) | 2 田植え(4) | |
| 他教科等との関連 | 道徳 | | | | | | | | | | | | | |
| | 学級活動 | | | | | | | | | | | | | |
| | 国語 | | | | | | | | | | | | | |
| | 社会 | | | | | | | | | | | | | |
| | 算数 | | | | | | | | | | | | | |
| | 理科 | | | | | | | | | | | | | |
| | 家庭 | | | | | | | | | | | | | |
| 体育 | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校行事等との関連 | | | | | | | | | | | | | | |

【資料9：再考を図った「総合的な学習の時間年間カリキュラム表(5年)」】

④ 地域の人的・物的資源の活用に向けた、学習素材巡りとリストの作成

コミュニティ・スクールを導入している本校では、学校教育と関係諸機関や外部機関の連携協働によって、より充実した教育活動を展開できるように、小・中学校合同の人材バンク「岩城小・中地域協力隊」の募集【資料20】に取り組み、「ふるさとの宝『郷土の人材・資源』リスト」を作成した。それをもとに、学習素材を活用した学びの構築について検討を図り、学校支援コーディネーターを通して教育活動への協力を仰いだ。

リスト作成に当たり、全教職員で地域の学習素材巡りを行い、実践過程で見直して授業改善に生かし、積み重ねて次年度以降へつなげていくようにした。

| 【ふるさとの宝「郷土の人材・資源」リストI】 | | | |
|------------------------|---|--|------|
| < 5年 > | | | |
| 教科 | 単元名と活動内容 | 人・材・資源 | 備考 |
| 総合 | ふるさとの農業(5～9月) | ◎J.A.C.F. ◎天候村の方 ◎ | 百姓祭り |
| 国語 | 日本や世界の言葉に親しもう(7月) ・朝や夜間の言葉を知る。 | ◎朝や夜間の言葉ができる方 | |
| 国語 | 新聞を読もう(9月) ・新聞の構成を知り、記事の取り上げ方や読者の読み方について考える。 | ◎新聞社の方 | |
| 理科 | 流れる水のほとり(10月) ・流れる水や川の流れる様子について調べ、流れる水の動きと土地の様子の変化などについて考える。 | ◎水川 ◎水川活動の場 | |
| 家庭 | ミシンでソーイング(11月) ・ミシンを使って布を使った制作活動をする。 | ◎ミシンの使いが得意な方 | |
| 総合 | ふるさとの産業(11月) ・農業、水産業、工業について | ◎産業関係者 ◎工場関係者 ◎会社関係者 ◎漁業関係者 ◎製造関係者 | |
| 理科 | 人のたんじょう(2月) ・人の誕生と体内での子どもの成長について知り、変化の特徴を捉える。 | ◎ここらと体の健康教室(助産師さん) | |

【資料10：ふるさとの宝「郷土の人材・資源」リスト】

⑤ 本校で育てたい資質・能力の育成に向けた授業実践

ア 単元を通して本校で育てたい資質・能力の明確化

授業を展開するに当たり、単元の目標や各教科で身に付ける資質・能力をはじめ、本校で育てたい資質・能力を育むことができるように、本校で育てたい資質・能力と本単元との関わりを捉え、その中から重点と捉える資質・能力を明確にして焦点化を図った。指導案に記載する際、重点と捉えた資質・能力を太枠で囲み、授業研究協議会において、その資質・能力を中心に児童の姿で検証した。

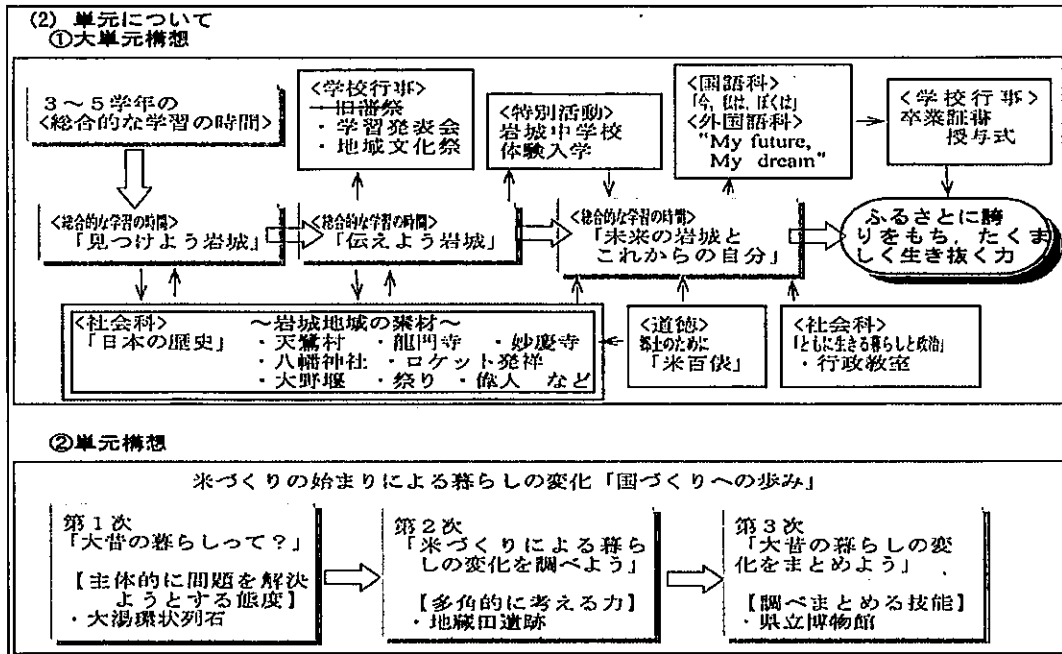
| 第6学年1組 社会科学学習指導案 | | |
|--|---|--|
| 指導者 | | |
| 1 単元名 米づくりの始まりによる暮らしの変化「田づくりへの歩み」 | | |
| 2 単元の目標 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 大昔の日本でむらからくにへと変化したことについて理解するとともに、遺跡や文化財、地図帳や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けることができる。(知識及び技能) ○ 縄文時代、弥生時代、古墳時代の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力をつけることができる。(思考力、判断力、表現力等) ○ 大昔の日本の暮らしについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度をもつとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして関心を養う。(学びに向かう力、人間性等) | | |
| 3 単元の評価規準 | | |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図帳や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子を理解している。 調べたことを年表や図表などにまとめ、むらからくにへと人々の生活が変化したことを理解している。 | 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見出し、狩猟・採集や農耕の生活、古墳の様子、大和朝廷による統一の様子について考え、表現している。 狩猟・採集や農耕の生活の様子、古墳の広がり、国家の統一の様子を把握し、統合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。 | 狩猟・採集や農耕の生活の変化について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 |
| 4 本校で育てたい資質・能力と本単元との関連 | | |
| 他と関わる力 | 豊かな言語力 | 判断する力 |
| 他の考えを受け入れ、自分の考えや意見を伝える力。【ウ】 | 知識及び技能を身に付けて生かす力。【ア】 多角的・多角的に論理的に考え表現する力。【イ】 | よりよい目標を立てる力。【ア】 |
| 5 学習を展開するにあたって (1) 児童について (男子19名 女子20名 計39名) | | |

【資料11：本校で育てたい資質・能力と本単元との関わりを明確化】

イ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教科等横断的な単元構成

主体的・対話的で深い学びの実現のためには、各教科等の学びが効果的につながることが大切である。そこで、カリキュラム・デザイン表【資料5】を基に、同教科内での他単元や他教科等、学年間、学校行事等とのつながりを生かし、各教科で身に付ける資質・能力と本校で育てたい資質・能力がどのようにつながるか、教科で得た知識がどのように活用されるか、各教科等や生活がどのようにつながるかを視点として大単元を構想した。【資料12(2)①】

また、児童の思考の流れを大事にした質の高い授業の構築に向けて、単元や題材の内容、時間のまとまり等を見通して単元を構想した。【資料12(2)②】そして、教科等で身に付ける資質・能力を焦点化し、単元を通して本校で育てたい資質・能力の具現化を図った。また、「ふるさとの宝『郷土の人材・資源』リスト」【資料10】をもとに地域の学習素材を取り入れ、より学びが深まるようにした。



【資料12：資質・能力の焦点化と具現化，地域の学習素材の活用】

ウ 単位時間における本校で育てたい資質・能力の明確化

本校で育てたい資質・能力と本単元との関わりや、重点と捉える資質・能力を明確にしても、それらを「いつ」「どこで」育てるかを明確にしなければ育むことはできない。そこで、単位時間における本校で育てたい資質・能力が育まれた児童の姿を明確にし、意識化を図って実践を積み上げた。

6 指導と評価の計画(全7時間 本時3/7) [関：他と関わる力, 言：豊かな言語力, 判：判断する力]

| 小単元 | 本時のねらい | 主な学習活動 | 主な文豪 | 学習活動の評価規準 | | |
|---------------|---|--|---|---|---|---------------|
| | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 大昔の暮らしって？ | 想像図を読み取りたり、五土五土などを調べたりして、縄文時代の様子や、弥生時代の様子や、その違いを表現することができる。 【言：イ】 | 「寄りや流をしていたこの様子」と「米づくりが広まったころの様子」の想像図を読み取り、比較したりして、気付いたことや疑問点について話し合える。 | 2つの想像図から読み取ったことを確認し、月ようになり、比較しやすいように板書作成を工夫したりする。 | 想像図を比べて、その様子の違いに気付く、その要因や疑問点を考え、表現している。 (発言・ノート) | | |
| | 2枚の想像図の読み取りから分かったことや疑問点に着目して、大昔の人々の暮らしの変化について学習問題をつくり、学習の見通しを立てることができる。 【関：ウ, 判：ア】 | 2枚の想像図の読み取りから、大昔の人々の暮らしの変化について学習問題をつくり、学習計画を立てる。 | 前時に読み取ったことを用いて学習問題をつくるように、掲示物や資料等を共有しやすいようにする。 | 人々の暮らしの変化について問いを見出し、学習問題として表現している。 (発言・ノート) | 学習問題について予想や学習計画を立て、主体的に追究しようとしている。(ノート) | |
| 米づくりによる暮らしの変化 | 想像図を読み取りたり、米づくりに使われた道具や、農具から、この時代の米づくりの様子や、米づくりによって暮らしがどのように変わったのかを調べる。 【言：ア, イ】 | 米づくりの様子や想像図や、日付た、石臼などの道具から、この時代の米づくりの様子や、米づくりによって暮らしがどのように変わったのかを調べる。 | 全てが手作業で多くの人が協力する必要があることをつかめるように、米づくりの様子や、比較する。 | 想像図や写真などから、農具による生活の変化について考えている。 (発言・ノート) | | |

【資料13：本校で育てたい資質・能力と本時との関わりを明確化】

エ 授業研究協議会において、本校で育てたい資質・能力について児童の姿で検証

授業研究協議会を、授業改善に向けた取組をはじめ、本校で育てたい資質・能力について児童の具体的な姿で検証する場として位置付けた。

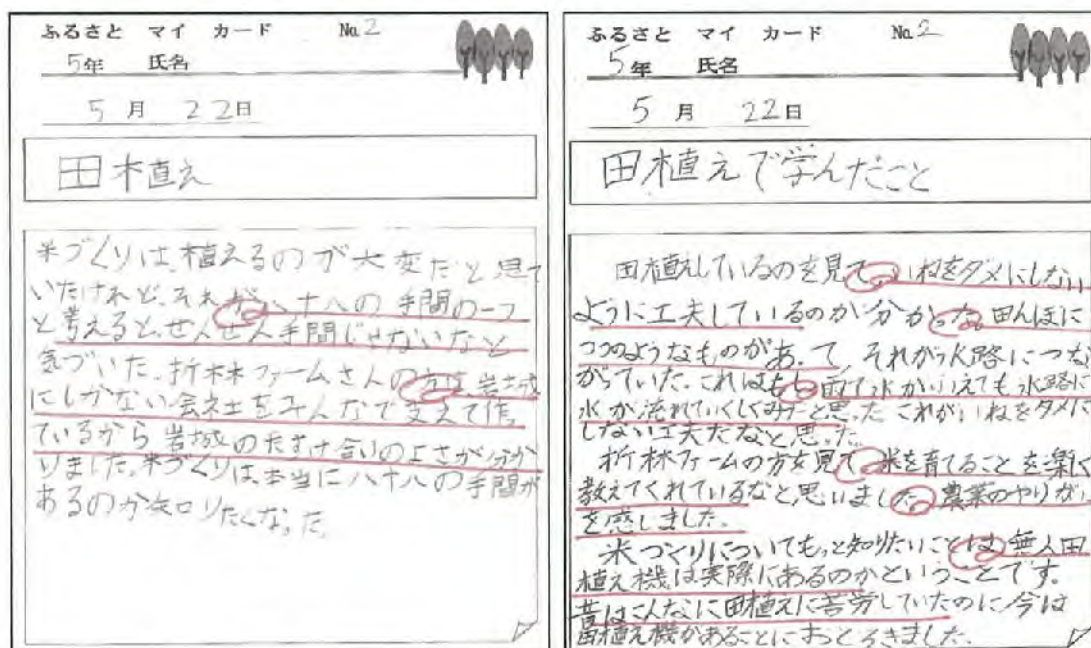
授業時間に捉えた児童の姿を付箋紙に書き込み、ワークショップ型協議会で類型化して可視化し、全体協議会で活用した。授業改善の方向性や、本校で育てたい資質・能力を育むための具体的な手立てを見だし、全教職員の共通理解を深めることができた。



【資料14：授業研究協議会において、ワークショップ型協議→全体協議で活用した表】

⑥ 学びの手応えを実感する「ふるさとマイノート」の活用

児童が、郷土や地域に関する教育及び伝統や文化に関する教育についての学びの手応えを実感して次へつなげられるように、「ふるさとマイノート」を用いた。総合的な学習の時間や生活科の重点単元等に関する学習資料、単元の振り返りカード等を集積して可視化し、手元に置いて常時活用できるようにした。



【資料15：「ふるさとマイノート」(カード)：総合的な学習の時間(5年)】

⑦ 社会やふるさとに対する見方・考え方を育むNIE実践

秋田県NIE推進協議会NIE実践指定校としての取組を生かし、社会やふるさとに対する見方・考え方を育み、言語力を豊かにすることを目指した。各学年の児童の実態に応じたNIE実践を段階的、計画的に深めることができるよう、学校教育計画の中にNIE計画を位置付けて実践を積み重ねた。

【N I E計画】

1 目標

新聞を活用して世の中の出来事に興味・関心をもち、それらを題材として感想や意見を伝え合うことなどを通して、社会に目を向けながら物事を多面的・多角的に捉え、自ら考えたり、判断したりする力を培う。

2 育成を目指す資質・能力

○日常的に新聞にふれることにより、社会への関心を高め、相手を受け入れる（受容）、相手や自分自身を知ろうとする（他者理解・自己理解）力。

【新聞に親しむ（新聞で遊ぶ）】：他と関わる力

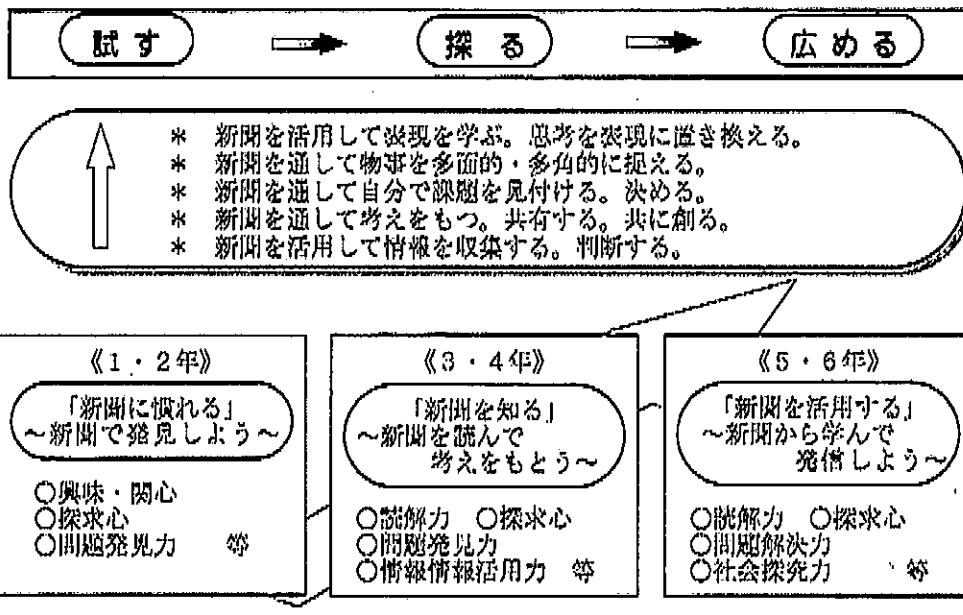
○多様な考えにふれ、発信する場を設定することにより、物事を多面的・多角的に捉えて論理的に考え、表現する力。 【新聞で発信する（新聞で社会とつながる）】：豊かな言語力

○新聞を学習活動に効果的に取り入れることにより、学びをつなげ、自律的に判断して行動する力。 【新聞を創る（新聞で学ぶ・考える）】：判断する力

3 具体的な取組

(1) 児童の発達段階に応じた新聞活用の段階的、計画的な取組の推進

【発達段階に応じたN I Eの学びのイメージ】



(2) 新聞と日常生活をつなぐ環境づくり

○玄関ホールにN I Eコーナーを設け、新聞を自由に閲覧し、感想等をノートに書いて交流できる空間の整備をする。また、児童の新聞に関する取組や、児童に読んでほしい記事を掲示して紹介する。

○図書室に、子ども新聞を自由に閲覧できるコーナーや、新聞に関する学習を紹介するコーナーを設ける。

(3) 学びをつなぐ新聞の効果的な活用

○カリキュラム・マネジメントを通して、年間単元配列表に新聞活用の学習（新聞機能学習、新聞制作学習、新聞活用学習等）を位置付ける。また、新聞記者や新聞制作者等をゲストティーチャーとして招き、学習展開の充実を図る。

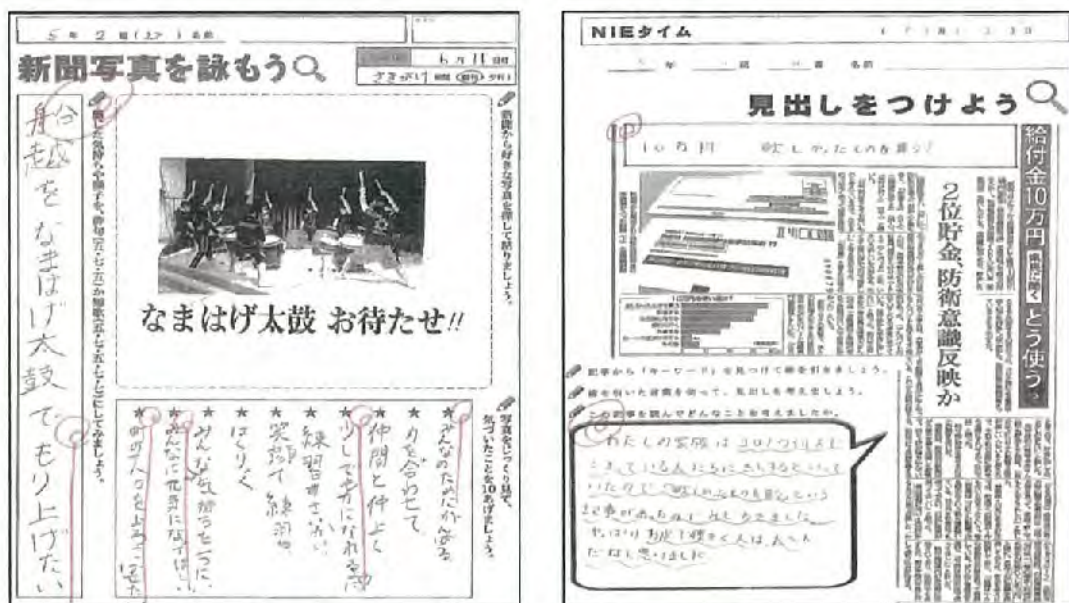
○金曜日の朝活動の時間を「N I Eタイム」とし、取組を個人ファイルに集積していく。

○新聞を活用したコンクール（新聞の写真にタイトルをつける等）を実施し、言葉を磨き、語彙を増やす。

○クラブ活動に「新聞クラブ」を開校し、新聞を活用した様々な取組を全校へ広げていく。

【資料16：学校教育計画に位置付けたN I E計画】

毎週金曜日の朝活動の時間を「NIEタイム」と設定し、全校一斉に新聞を活用した教育活動に取り組んだ。その取組の様子を教室内やNIEコーナーで紹介し、新聞や社会の出来事への児童の興味・関心を高め、物事を多面的・多角的に考えられるようにした。



【資料17：NIEタイムでの取組例】



【資料18：玄関ホールに設置したNIEコーナー】

(3) その他の取組

郷土料理や伝統料理を通して食育指導の充実を図ることを目的とし、例年、学校給食において「世界の味めぐり」や「日本列島味めぐり」として各国や地域の特色ある料理を味わう週を設定している。本県を代表する郷土料理としての「きりたんぼ」をはじめ、我が地域で生産されている「プラムワインゼリー」や「なんばこ」を味わうことによって、地域の人の思いにふれ、地域を見つめ直すことにもつながっている。

今年度は、新たに、地場産物である「比内地鶏」を味わう日を設定した。地元の生産者の話を聞くことによって、社会や地域を見つめて自分の将来を思い描き、自分ができることについて考える機会ともなった。



【資料19：ランチルーム「食育コーナー」】

(4) 教育課程等の評価・改善

昨年度の改善策を受け、今年度の教育課程の評価・検証・改善にあたっては、まず年度当初に三つの資質・能力に沿った児童の実態を把握し、それぞれに対する目標と具体的な施策を盛り込んだ学級経営計画を作成した。さらに、三つの育てたい資質・能力ごとに設けた三部会を期別に行い、ショートスパンでPDCAサイクルを回しながら、期ごとの具体的な施策を立てて取り組んだ。

また、昨年と同様に児童アンケート調査を行い、同じ内容項目について教師側からも評価を行った。そして、最後に「コミュニティ・スクール学校運営協議会」による学校評価を受け、今年度の教育課程の達成状況の検証を行った。

① 学級経営計画

| 第5学年1組 | | 学級経営計画 | |
|---|--|---|--|
| 担任 | | | |
| 【学校教育目標】 ふるさとに誇りをもち、たくましく生き抜く子どもの育成 | | | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> いのちを守る 他と関わる力 </div> | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> むねを磨く 豊かな言語力 </div> | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> きづいて動く 判断する力 </div> | | | |
| 【児童の実態】 | | | |
| 在籍児童 男子15名 女子9名 計24名 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 明るく活発で、あいさつや返事も元気にできるが、場に応じた言葉遣いが十分でない子どもが見られる。 自他の違いをなかなか理解できず、思いやりや協調性に欠ける言動が見られる子どももいる。 | | <ul style="list-style-type: none"> 新しい学習への興味・感心が高く、意欲的に学習に取り組もうとする子どもが多い。 話をきちんと聞き取る力や読み取る力、集中力、学習能力に個人差が見られる。 考えを伝え合うことを苦手と感じている子どもが多い。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 高学年として、友達や下級生の役に立ちたいという意欲を強くもっている。 当番や係活動に責任をもって取り組むことができるが、自ら仕事を見付けて動くことができる子どもは少ない。 | | | |
| 【学級目標】 | | | |
| 全力！協力！笑顔！ ～あきらめず やりぬく5の1～ | | | |
| 【目指す姿】 | | | |
| 互いのよさを認め合い、励まし合う子ども | | 自らの考えを明確にし、学習や活動に取り組む子ども | |
| 助け合いに感謝し、みんなのために進んで働く子ども | | | |
| 【具体的施策】 | | | |
| 【前期目標】 生活や学習の土台作り。やるべきことや大事なことを意識してできる子どもに。 | | | |
| ①気持ちのよいあいさつや返事、場に応じた言葉遣いができるように、継続して声をかけたり、重点目標を定めたりして定着を図る。 ②たくましい心を育成するために、友達のよさやがんばりを紹介し、お互いに認めたえ合う場を設定する。 | | ①落ち着いて学習に取り組むことができるように、学習に必要な物の準備や、教師や友達の話聞く姿勢、発表の仕方など、基本的な学習態度が身に付いていくように指導する。 ②学習形態を工夫して、多くの子どもが発表の機会をもち友達の考えを知ることができるようにする。 | |
| ① ② | | ① ② | |
| 【後期目標】 努力が実を結ぶ時期。自分たちで学習や活動を作り上げることができる子どもに。 | | | |

・各期の具体的な施策の中に、学校教育目標「ふるさとに誇りをもち、たくましく生き抜く子どもの育成」の中の「ふるさと」「たくましさ」という文言を入れるように留意した。

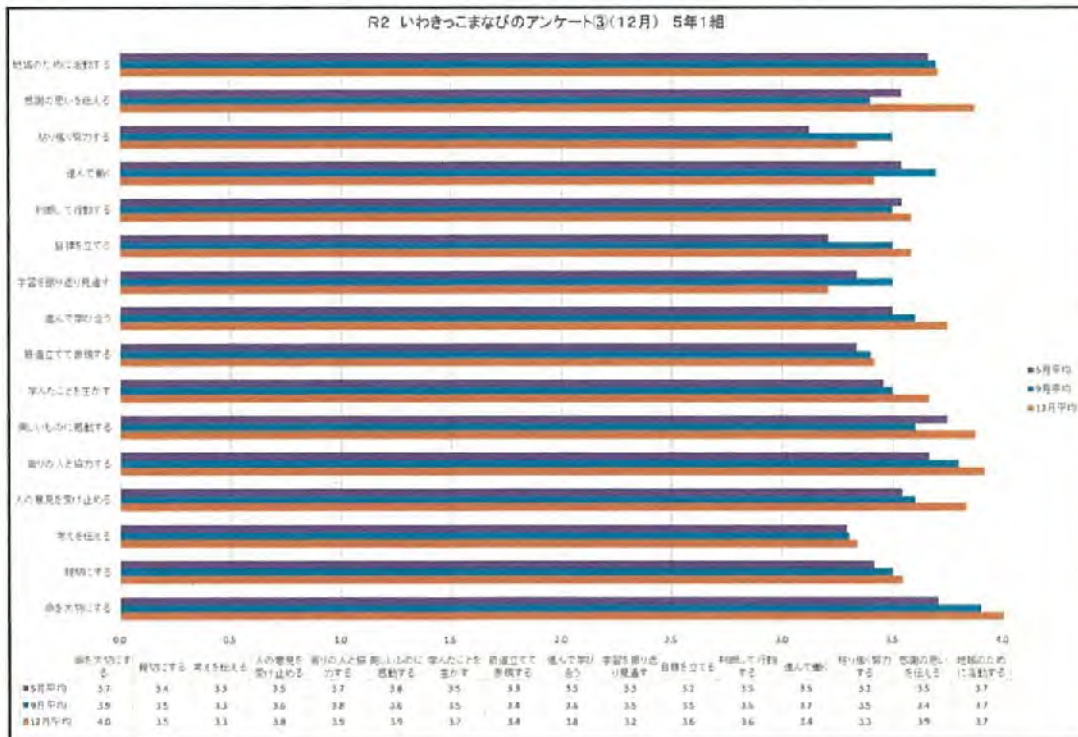
② 三部会による期別の反省から

| 【岩城っ子の身に付けたい資質・能力】の育成を目指して～Ⅲ期】 | | |
|---|---|--|
| いのちを守る岩城っ子（他と関わる力） | われを磨く岩城っ子（豊かな言語力） | きづいて動く岩城っ子（判断する力） |
| 【いきいき部】～心のか～ | 【わくわく部】～言葉のか～ | 【きらきら部】～考えるか～ |
| ◎鈴木、作左部、平部、熊谷、大友 | ◎大塚賀、上田、齊藤、金田、品山 | ◎大畑、武藤、高橋、中西 |
| 目標 友達を大切に、相手のことを考えた言動ができるようにしよう。 | 目標 話や記事の内容を心で受け止め、自分の言葉で表現できるようにしよう。 | 目標 よりよい人間関係を築けるように、社会的スキルを身に付けるための活動を取り入れよう。 |
| 具体的施策 ・「ふるさとマイノート」の中で、友達とのかかわりについて振り返る。（学担） ・道徳の授業「親切、思いやり」の価値項目（学担） | 具体的施策 ・各学級でNIEコーナーを設けて紹介する。（学担） ・各学年部のNIEタイムの取組を、NIEコーナーで紹介する。（品山） ・友達の見解に言葉でつなげられるように表現の仕方を紹介する。（学担） | 具体的施策 ・係活動や委員会活動のふりかえりをする。（学担・担当） ・異学年交流の場の設定 新体力テスト、なかよし清掃、合同体育など ・無言清掃の徹底をはかる。（学担・担当） ・学級活動で、社会的スキルについての話し合いをする。（学担） |
| 振り返り ○「親切、思いやり」の価値項目を意識して道徳の授業を行った。 ●「ふるさとマイノート」を、友達や相手のことを考えた内容で書くことは難しかった。 | 振り返り ○NIEコーナーを各学級で掲示し紹介しあった。また、学校のNIEコーナーでも紹介できた。コーナーに掲示する作品をコピーして提出を。 ●友達の見解に言葉でつなげられるように表現の仕方を紹介する活動は今後も継続していく必要がある。 | 振り返り ○異学年交流で、合同体育を行った。相手意識をもち、その人に対する言動を考慮することができた。 ●無言清掃は、以前より静かになったが、今後も指導を継続していく必要がある。 ●道徳や学活などを通して、社会的スキルについて話し合ったが、今後も継続して指導していく。 |

| 【岩城っ子の身に付けたい資質・能力】の育成を目指して～Ⅳ期】 | | |
|---|--|--|
| 目標 相手の立場に立って親切にしよう。 | 目標 話や記事の内容を心で受け止め、自分の言葉で表現できるようにしよう。 | 目標 よりよい学校生活を送れるように、規範意識を高める活動をしよう。 |
| 具体的施策 ・児童会提案で、「あったかハート運動」を行う。 ・学活や朝・帰りの会等で、資質能力の国の言葉を使って、友達との関わりを話す活動を取り入れる。 | 具体的施策 ・各学級でNIEコーナーを設けて紹介する。（学担） ・各学年部のNIEタイムの取組を、NIEコーナーで紹介する。（品山） ・NIEでの取組をを活かし感想交流をする。（学担） | 具体的施策 ・校内外のルールを振り返り、その大切さを考える機会を設ける。 ・生活習慣を自己評価するチェック表を活用する。 ・ペア学年によるそうじの交流。（教室掃除） |

・各期ごとに三部会を行い、それぞれの施策について評価し、その結果を基に次期の具体的な施策を提案し、学校全体で同じベクトルで資質・能力の向上を図った。

③ 資質・能力に対する児童アンケート



・三つの資質・能力についてアンケートを実施した。各設問とも概ね向上していた。

④ 資質・能力に対する教師アンケート

【後期前半を振り返って】

いわきっ子 まなびのアンケート (ホップ)
こころの力・ことばの力・かんだる力

| | いい | まあ | いい | ばん | 駄目 |
|--|---|----|----|----|-----------|
| しつもんないようにならぬよう、いちばんあうすうじに○をしてくだい。 ○を付けたら、その項目の取組の進捗状況を必要に応じて行ってください。 1- 全てはまる 3- どちらかといえは 全てはまる 2- どちらかといえは 全てはまるない 4- 全てはまるない | | | | | |
| | アンケートしつもんないよう | | | | ○をつけるばいしょ |
| こころの力 | ① いのちを たいせつにしている。 | 4 | ③ | 2 | 1 |
| | ② こまっている人に 気づいて、しんせつにしている。 | 4 | ③ | 2 | 1 |
| | ③ じぶんの かんだるを もっている。 | 4 | ③ | 2 | 1 |
| | ④ ともだちの いけんや かんだるを、せいごまで きている。 | 4 | 3 | ② | 1 |
| ことばの力 | ⑤ みんなと なかよく、あかしく すごしている。 | 4 | ③ | 2 | 1 |
| | ⑥ 「うつくしいな」、「すばらしいな」と、おもうことがある。 | 4 | ③ | 2 | 1 |
| | ⑦ ちえや できることを ぶやしている。 | 4 | ③ | 2 | 1 |
| | ⑧ じぶんと みんなの おもいを くらべて、じゅんじょよく いたり、かいたりしている。 | 4 | 3 | ② | 1 |
| かんだる | ⑨ みんなと まなびあひ、「なるほど」、「わかった」を ぶやしている。 | 4 | ③ | 2 | 1 |
| | ⑩ がくしゅうを ふりかえり、つぎの がくしゅうを よそう している。 | 4 | ③ | 2 | 1 |
| | ⑪ じぶんには、よいところがあるとおもう。 | 4 | ③ | 2 | 1 |
| | ⑫ きまりを まもり、じぶんのことを じぶんで やっている。 | 4 | ③ | 2 | 1 |
| あそび | ⑬ じぶんの やくめに 気づいて、がんばっている。 | 4 | ③ | 2 | 1 |
| | ⑭ じぶんが やらなくてはいけぬべんきょうや しごとを しっかり やっている。 | 4 | ③ | 2 | 1 |
| | ⑮ ともだち、かぞく、ちいせいのひとに、「ありがとう」と いえる。 | 4 | ③ | 2 | 1 |
| | ⑯ ちいせのために、なにか してあげたいとおもう。 | 4 | 3 | ② | 1 |
| あそびは、「いわきの どんとこうを せめておと おもひますか。 | | | | | |

1 後期前半の取組について

(1)

① 生活科「たのしいあきいっぱい」
保育園の子たちと一緒に楽しく遊んでもらうというゴールに向かい、自分たちで拾い集めた木の葉や落ち葉でおもちゃを制作した。もっと楽しいおもちゃにするにはどうしたらいいのかを思考ツールのクラダチャートを使って考え、工夫・改良した。交流会の計画準備もほとんど自分たちで意見を出し合って考え、保育園児と楽しく交流することができた。

② 図画工作科「はってかさねて」
生活科で拾った葉っぱを使ってその模様を塗り出したり、塗り出した物と葉っぱを重ねて形を作ったりと、葉っぱごとに違う模様や形、柔らかなさを感じて楽しんでた。

③ 国語科「ものの名まえ」
物の名前を集めてお店屋さんごっこをするという単元の目標に向かい、毎時間お店屋さん形式の演習に取り組んだことと、生活科の「たのしいあきいっぱい」でグループを巡って意見を伝える活動経験から、様々な工夫出し合い、お店屋さんごっこに臨んでいた。(物の名前集めでは思考ツールの熊手チャートを使い、上位語と下位語の関係を学習した。これを家庭学習で取り組む児童が多く、理解の深まりや語彙の習得につながっているように感じられる。)

2 今後の取組について

- 生活科：制作したおもちゃを道の駅に展示する。
- 特別活動：学級会を通して自分の意見をもち、その意見を出し合い議論できるようにする。また、相手の意見や話を最後まで聞き、自分の考えと比べることができるようになる。
- 教科を問わず、有効な場面面で適切な思考ツールを活用し、視覚化や議論の活発化、理解の深化につながるようにする。

・教師も自クラスの児童について同じ項目で評価した。児童の評価結果と比較することで、認識のズレや、十分育成できていないポイントが明らかになり、指導方法の改善を図ることができた。

4 取組を進める上での学校運営上の工夫

～カリキュラム・マネジメントを見える化し、全職員の共通理解を図るために～

(1) ゴールの明確化

カリキュラム・マネジメントを進めていくためには、ゴールを明確にすることが非常に大切である。ゴールが見えないカリキュラム・マネジメントは形式的で、実効性の無いものになってしまう。

日々の教育活動の中で目指すゴールは、子どもの姿でなくてはならない。そして、その姿は教職員だけでなく、児童、保護者や地域とも共通理解されることが必要になる。そこで、学校教育目標を「ふるさとに誇りをもち、たくましく生き抜く子どもの育成」として、目指す資質・能力との関わりの中で三つの合い言葉「いのちを守る岩城小」「われを磨く岩城小」「きづいて動く岩城小」で表した。この三つの合い言葉を日常の教育活動の様々な場面に取り入れることで、目的意識をもってカリキュラム・マネジメントに取り組むことができた。

(2) 効果的なPDCAサイクルのための組織づくり

カリキュラム・マネジメントにおいては、効果的にPDCAサイクルを回していくための組織作りが必要となる。そこで、目指す資質・能力に合わせて三つの部「いきいき部（他と関わる力）・わくわく部（豊かな言語力）・きらきら部（判断する力）」を組織し、期ごとに振り返りを行い、その振り返りを基に具体的な施策を話し合うことで、PDCAサイクルを効果的に機能させることができた。

また、総合的な学習の時間や生活科を核とした教科等横断的な教育課程の編成に関しては、研修会議の中に編成作業のための時間を設定することで、共通理解と、取組への意識化を図った。

そして、こういった取組の情報を共有することが、職員一人一人のカリキュラム・マネジメントに対する意識を高めることにもつながった。

(3) 中学校との連携による、人材バンク「岩城小・中地域協力隊」募集の試み

カリキュラム・マネジメントにおいては、学校がもつ資源を最大限に生かすことも大切なポイントとなる。「人」「物」「金」「時間」といったマネジメントのための資源の中で、学校がマネジメントできる最大の資源が「人」である。人的資源に関して、様々な施設等を含めた地域の人材を学校教育に生かしていくことは、カリキュラム・マネジメントを進める上での大きな柱であり、そのためには学校運営協議会や学校支援活動コーディネーターとの連携が大切になる。

岩城地域には、小学校、中学校それぞれの学校運営協議会が連携する場として「岩城地域運営協議会」があり、地域、小・中学生合同での研修会等に取り組んでいる。

そこで、この「地域運営協議会」と連携し、岩城教育学習課にも協力をお願いし、小学校、中学校合同の人材バンクの募集に取り組んだ。この「岩城小・中地域協力隊」の整備を進めることで、学校が必要とする地域の人材等とスムーズにアクセスできる体制を作っていきたい。

岩城小・中地域協力隊
大募集

岩城小学校、中学校では学校の様々な活動や学習に協力していただく「地域協力隊」に登録していただける方を募集します。
例えば・・・

- ・運動会などの行事係り
- ・いじめ対策の行事係り
- ・交通安全の行事係り
- ・行事などの学校の環境整備

- ・地域の職業の行事係り
- ・中学校や地域の行事係り
- ・体育大会の係り
- ・ボランティア活動
- ・地域の歴史について

その他、こんな協力はどうですか？といった登録も歓迎です。地域協力隊に登録していただきますと、必要に応じて学校からお礼の連絡をいたします。

年齢・性別を問いません。登録していただける方は下の登録用紙にご記入の上、岩城小学校、岩城中学校、岩城総合支所教育学習課、亀田出張所、松ヶ崎公民館にお届け下さい。

なお、活動はボランティアとなり、謝礼等がないことをご理解ください。お問い合わせは、

ご不明な点は質問の旨お問い合わせ先まで。締め切り10月30日

岩城小・中地域協力隊登録用紙

| | | |
|---------------------------------|-----|-------|
| 氏名(姓・名) | TEL | 住所(〒) |
| ※お申し込みの際は、お住まいの住所、氏名を必ずお書きください。 | | |
| 100-7777 岩城町 1-1-1 | | |
| メールアドレス(任意)： | | |

【資料20：「岩城小・中地域協力隊」募集要項】

5 成果と今後の展望

カリキュラム・マネジメントとは何か。その議論から始まり、協議を重ねて進めてきたことによって、全教職員の共通理解が深まり、参画意識が高まった。また、学校教育目標の見直しを図ったことによって、「郷土や地域に関する教育」「伝統や文化に関する教育」という軸が明確になり、学校教育活動全ての取組がつながった。そして、本校で育てたい資質・能力「他と関わる力」「豊かな言語力」「判断する力」の育成に向けて全教職員が一つとな

り、児童の実態に即して改善を図ったり、新たな取組に着手したりしながら推進することができた。その中で、学習の当事者である児童が、自分たちの手で変えていこうとカリキュラム・マネジメントに関わり、積極的に動いたことが一番の成果であると感じている。これは、教科等横断的な取組による教育効果であると考えている。

カリキュラム・マネジメントを推進するに当たり、児童、教職員、保護者、地域の願いをもとにした学校教育目標の具現化に向けて、児童の実態を踏まえ、本校で育てたい資質・能力を設定した。そして、それを基に資質・能力が身に付いた児童の姿を系統立てて表に整理した。さらに、それを図に表して教室内に掲示したり、「いわきっこまなびのアンケート」に結び付けて児童や教師、保護者が用いて評価・改善に活用したりしたことによって、目指す資質・能力を身に付けた姿を共有し、意識化や日常化を図ることができた。

また、「郷土や地域に関する教育」「伝統や文化に関する教育」を軸に据え、総合的な学習の時間や生活科の時間を核として、各教科等の関連性を整理したカリキュラム・デザイン表と、総合的な学習の時間や生活科の年間カリキュラム表を作成した。それらを実践過程で再考し、「ふるさとの宝『郷土の人材・資源』リスト」をもとに地域の学習素材を見つめ直し、NIEと関連を図るなどして学習活動の充実を図ったことにより、児童が学んだことを自覚し、ふるさとへの思いや気付きの質を高めることができた。

さらに、研究組織を本校で育てたい資質・能力に応じた三部会に再構成し、保護者やCS学校運営協議会等、地域を巻き込んで効率的にPDCAサイクルを機能させた。そのことによって、視点や方向性を確かめ、児童の指導に反映させながら教育活動を進めることができ、資質・能力の育成を図ることにつながった。

今後は、コミュニティ・スクールを導入している本校の特色を生かし、地域との連携をさらに密にして教育活動を展開し、児童のふるさとへの思いや愛着を深め、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力を育みたいと考える。そこで、中学校と連携を図り、9年間のスパンにおける資質・能力の育成を視野に入れ、児童の見方や考え方の広がりとして「郷土や地域に関する教育」「伝統や文化に関する教育」を軸とした学びのつながりを視点としてカリキュラムの改善を図りたい。

次世代の地域社会を担う児童の「ふるさとに誇りをもち、たくましく生き抜く」姿を目指し、児童、教職員、保護者、地域が一体となり、協働的に活動していく中で、「現代的な諸課題に対応するための資質・能力」を確実に育むことを大切にしたい。



＜岩城地域の祭り「旧藩祭」に参加する、いわきっこ＞

第3章 由利本荘市における

カリキュラム・マネジメント



〈西目小：3年 総合的な学習の時間〉

本市の小・中学校では、コミュニティ・スクールの推進、「学校経営要覧」及び「研究紀要」の作成に取り組んでいる。本章では、これらの取組とカリキュラム・マネジメントの関わりについて、それぞれ整理していく。

第1節 コミュニティ・スクールとカリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントを推進する上で、家庭や地域社会との連携及び協働を欠くことはできない。このことは、解説（総則編）における次の記述からも明らかである。

なお、学校における教育活動が学校の教育目標に沿って一層効果的に展開されるためには、家庭や地域社会と学校との連携を密にすることが必要である。（中略）このような観点から、その積極的な連携を図り、相互の意思の疎通を図って、それを教育課程の編成、実施に生かしていくことが求められる。保護者や地域住民が学校運営に参画する学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）や、幅広い地域住民等の参画により地域全体で児童の成長を支え地域を創生する地域学校協働活動等の推進により、学校と地域の連携及び協働の取組が進められてきているところであり、これらの取組を更に広げ、教育課程を介して学校と地域がつながることにより、地域でどのような子供を育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンの共有が促進され、地域とともにある学校づくりが一層効果的に進められていくことが期待される。（p.21 下線は大庭）

下線（実線）部は、家庭・地域との連携・協働を通じたカリキュラム・マネジメントに関わる記述である。そして、地域との連携・協働のための大きな役割を担っているのが、下線（波線）部にある「コミュニティ・スクール」である。

本市では、平成24年度から平成27年度にかけて、全小・中学校をコミュニティ・スクールに指定している。そして、各校ではふるさと教育を基底としたコミュニティ・スクールの推進し、各地区の歴史・伝統を踏まえ、特色ある教育課程を編成している。

また、平成29年度からは、市学校教育の重点施策の一つ目に「地域力を活かした学校づくりと学校力を活かした地域づくり」を掲げ、市全体で下記のことに取り組んでいる。

- ◇ 「地域の良さに気付く子供」「地域の課題に目を向ける子供」「地域の未来を考える子供」の育成（平成30年度～）
- ◇ 学校と家庭、地域相互の働きかけによる学力向上への取組
- ◇ 学校運営協議会、地域運営協議会の設置と市連絡協議会の開催による、組織的で計画的な運営
- ◇ CS協働コーディネーターの配置による、学校・地域・行政等の連携による各自の事業計画に基づいた取組の活性化

そして、各校では、学校運営協議会を年2～5回、地域運営協議会を年2～5回実施している他、下記のような特色ある取組を進めている。

| 学 校 名 設置年月日 | コミュニティ・スクール推進のための主な取組（令和2年度） |
|---------------------|--|
| 新山小 H27. 3. 2～ | ①幼稚園、保育園並びに北中・地域との連携の推進と「育てたい力」の具体的取組系統表の活用 ②小・中合同あいさつ運動の実施 |
| 鶴舞小 H27. 3. 31～ | ①地域・保護者と共に取り組む、鶴舞小・本荘南中合同あいさつ運動 ②いじめ撲滅を目指す、小中合同会議 |
| 尾崎小 H26. 12. 1～ | ①全校児童・保護者・地域の方々と整備するポカポカロード ②JA・地域農家の協力による米づくり体験活動 |
| 子吉小 H27. 2. 1～ | ①地域の自然、産業、歴史等を学ぶ「生活科」「総合的な学習の時間」の推進 ②「地域の見守り隊」、読み聞かせやベルマーク整理などのボランティア活動 |
| 小友小 H27. 3. 2～ | ①地域の人材、地域素材を生かした体験活動の充実 ②小友地区諸団体との協働による地域貢献への取組の推進 |
| 石沢小 H27. 2. 26～ | ①地域とともに進める心にのこる閉校記念事業 ②伝統のホタル研究及び集団疎開にちなむ「絆の茂里」学習の継続と深化 |
| 矢島小 H24. 9. 13～ | ①「地域力を活かした学校支援、学校力を活かした地域づくり」を目指した学校・地域連携の推進 ②『感動・教育・絆』を目指す、「ひまわりプロジェクト」の推進 |
| 岩城小 H26. 10. 1～ | ①学校・家庭・地域間での目標・ビジョンの共有による学校運営の実現 ②豊かな自然や地域の力を生かしたふるさと愛にあふれる子どもの育成 |
| 由利小 H26. 10. 1～ | ①「地域の教育力」を生かした豊かな学習・体験活動の実施 ②関係機関と連携した、「地域に学ぶ」「地域と触れ合う」機会の設定 |
| 西目小 H26. 12. 25～ | ①地域ぐるみの「あいさつチャレンジデー」実施 ②高校生や地域の団体等との協働による勤労生産活動 |
| 鳥海小 H26. 12. 25～ | ①地域人材を活かした学習支援ボランティアの充実～そば・田んぼの名人、読み聞かせ、キビー～ ②地域の伝統を受け継ぐ総合的な学習～民族芸能活動～ |
| 東由利小 H26. 12. 1～ | ①地区PTA意見交流会（熱議）（小・中の保護者及び教職員、地域の方々、児童生徒） ②小・中学校合同駅伝 |
| 岩谷小 H26. 7. 1～ | ①保護者・地域の方々との熱議「P・T・R♥かだろう会」 ②小中合同あいさつ運動 |
| 大内小 H28. 4. 1～ | ①地域みんなで取り組む「大内小さつきプロジェクト」 ②大内地域の伝統文化を継承し、体験するふるさと学習 |

| 学校名 設置年月日 | コミュニティ・スクール推進のための主な取組（令和2年度） |
|-------------------|---|
| 本荘北中 H26.10.1～ | ①小・中・地域連携によるあいさつ運動・クリーンアップ活動 ②保・小・中連携による「育てたい力」の具体的取組系統表の活用と確かな学力の向上 |
| 本荘南中 H27.3.10～ | ①地域と一体となったあいさつ運動の展開 ②地域に開かれた学校づくりの推進 |
| 本荘東中 H27.3.2～ | ①地域の環境を生かした職場体験の実施 ②地域の人材・環境を生かした『古代米アート』の実践 |
| 矢島中 H27.2.1～ | ①地域行事への参加（矢島茶会、八朔祭り、ひな祭り） ②矢島中三道教育の実践（全校書道、全校剣道、茶道教室） |
| 岩城中 H26.7.1～ | ①地域素材・人材の活用（小6・中3・地域住民との意見交流会の実施） ②開かれた学校づくりの推進（「熱気チャレンジプラン」「スクールカレンダー」の全戸配布） |
| 由利中 H26.12.25～ | ①地域の教育力を最大限に学校運営に反映させるための、学校運営協議会の効果的活用 ②地域との共催による特色ある学校行事の運営 |
| 西目中 H25.11.14～ | ①「かかしプロジェクト～みんなでつなごう西目の輪～」の実施 ②開かれた学校のための情報発信（校区カレンダー全世帯配布、学校便りの小学校6年生保護者への配布） |
| 鳥海中 H26.12.25～ | ①学校運営協議会の充実（地域活性化につながる「熱議」の実施） ②地域の教育力活用（伝統芸能、自然史・郷土史体験学習、福祉体験学習、冬季体験学習、民謡教室） |
| 東由利中 H26.12.1～ | ①小中合同会議、小中意見交流会、小中合同駅伝大会、小中防災教室の開催 ②開かれた学校づくり、持続可能な地域づくりへの貢献 |
| 大内中 H27.10.1～ | ①学校と学校運営協議会の双方向の連携 ②学校からの積極的な情報発信 |

これらの取組は、学習活動や学校行事等への協力依頼を保護者・地域の方々が快く引き受けてくださるからこそできることばかりである。このことは、解説（総則編）（p.21）で述べられている「地域でどのような子供を育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンの共有」がなされていることが大きい。その結果、子どもたちの教育活動が一層充実し、「地域の良さに気付く子供」「地域の課題に目を向ける子供」「地域の未来を考える子供」に近づくという好循環の中で、学校教育が推進されているのである。

以上のように、各校にコミュニティ・スクールによる地域との連携・協働の基盤があることは、カリキュラム・マネジメントに取り組む上で大きな強みとなっている。今後も、コミュニティ・スクールを生かしたカリキュラム・マネジメントを通して、「地域とともにある学校づくり」を一層推進していきたい。

第2節 「学校経営要覧」の作成とカリキュラム・マネジメント

組織的かつ計画的にカリキュラム・マネジメントを進めていく際には、各校務分掌で担っている教育活動をカリキュラム・マネジメントの視点で見直すことも必要になってくる。

例えば、次のような視点である。

- ◇学校教育目標の実現や資質・能力の育成に資するものとなっているか。
- ◇教育課程のどの部分に位置付いているか、もしくは関連しているか。

見直しのタイミングは年間の中で何度かあるが、一番重要なのは年度始めである。

新たなメンバーで年度をスタートすると、第1回職員会議で校長から学校教育目標等や校務分掌が提示される。その後、各自の校務分掌で担っている教育活動を、前年度からの改善点と新年度の学校教育目標等を踏まえて見直し、年間計画を作成する。それらを冊子にまとめたものが「学校経営要覧」である。

「学校経営要覧」は、「学校教育計画必携」、「学校経営ハンドブック」、「学校教育計画」等、学校によって名称は異なるが、市内全ての学校で作成しているものである。学校運営に関わる全分野の内容を網羅しており、「この1冊があれば学校教育活動の全てが分かる」という冊子になっているため、校内での各種会議の際はもちろん、来校者への学校紹介用資料としても活用されている。

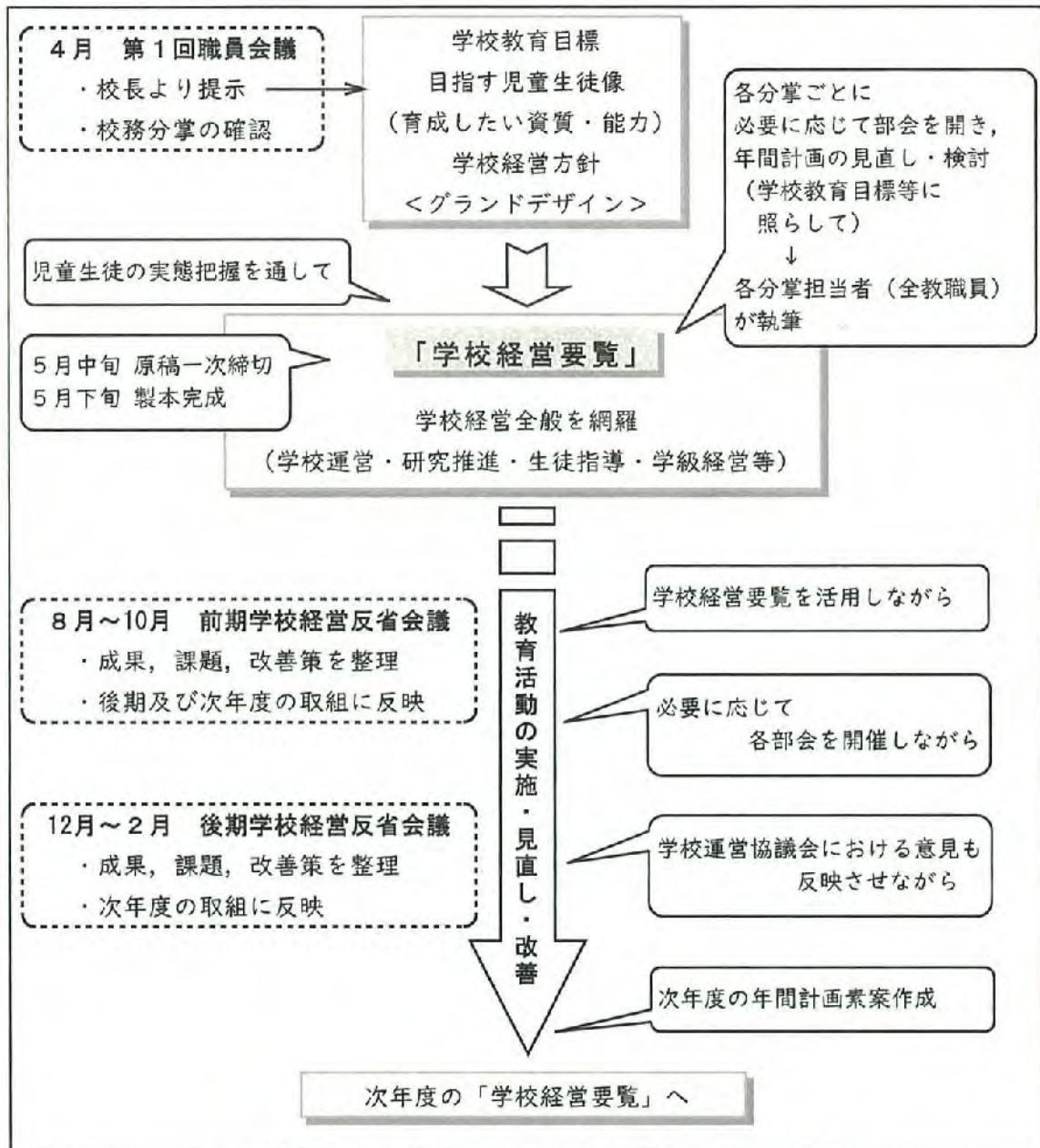
活用のために作成するものではあるが、作成すること自体にも次のような意義がある。

- ① 学校運営に対する全教職員の参画意識の向上
- ② 組織的な学校運営のための基盤づくり
- ③ 担当分掌の内容の見直し（前例踏襲からの脱却）

特に、③を通して「全ての教育活動は、学校教育目標の具現化のためにある」という視点を全教職員が再確認することは、カリキュラム・マネジメントを推進する上でも重要である。その意味で、カリキュラム・マネジメントの年間PDCAサイクルの「P」の段階において、「学校経営要覧」の作成が果たす役割は大きい。そして、「学校経営要覧」の作成が当然のこととして根付いていることは、カリキュラム・マネジメントに取り組む上での本市の強みである。

ちなみに、目次には各校の学校運営上の特徴が反映されている。後掲の各実践校における令和2年度版目次を参照されたい。

【年間スケジュール】



〈西目中：1年 理科〉

目 次

<学校基本情報>

- 由利本荘市西目中学校校歌1
- 西目中学区地図2
- 西目中学校教室配置図3
- 西目中学校学校一覧4
- 学校運営組織校務分掌一覧6
- 週時程・年間授業実施計画7
- 年間行事予定9
- 令和元年度卒業生進路状況10
- 生徒の身体状況11

I 学校経営の概要

- 学校経営にあたって12
- 学校経営の概要16
- 本校の研究推進について19
- 年間5期の主題と重点事項28

II 学年・学級経営

- 第1学年経営計画29
- 第2学年経営計画32
- 第3学年経営計画35

III 教科指導部経営

- 国語科・社会科経営計画38
- 数学科・理科経営計画39
- 音楽科・美術科経営計画40
- 技術・家庭科・保健体育科経営計画41
- 英語科・道徳科経営計画42
- 総合的な学習の時間経営計画43
- 特別支援教育推進計画47
- 少人数指導推進計画49

IV 道徳、特別活動指導部経営

- 道徳教育全体計画50
- 特別活動 全体計画54
- 学級活動・生徒会活動56

V 生き方指導部経営

- 生き方指導全体計画57
- キャリア教育全体計画58
- 西目小・中学校連携による
9年間のキャリア教育59
- 生徒指導全体計画60
- 不登校・いじめ対策委員会活動計画61
- 西目中学校いじめ防止基本方針62
- 生活指導・教育相談63
- 部活動運営方針64
- 学校保健計画67
- 食に関する指導全体計画68
- 給食指導、安全指導69
- 交通安全指導、環境衛生・清掃指導70

VI 家庭・地域連携指導部経営

- 家庭・地域連携全体計画71
- PTA活動・ふるさと教育72
- ふるさと教育全体計画73
- ボランティア活動・勤労生産活動74

VII 各種指導部経営

- ICT教育・学校図書館75
- 事務経営計画76
- 安全管理・災害予防・避難計画77
- 職員交通安全管理規定80
- 職員服務規程81

目 次

| | |
|---|---|
| <p>◇ 学校一覧</p> <p>校 歌 1</p> <p>学 校 一 覧 2</p> <p>児童の体位・スポーツ少年団加入状況 4</p> <p>校舎平面図 5</p> <p>通学路図 6</p> <p>西目小学校いじめ防止基本方針 7</p> <p>西目小学校児童虐待防止基本方針 8</p> <p>I 学校経営計画</p> <p>1. 学校経営の概要 9</p> <p>2. 学校運営組織 14</p> <p>3. 教育課程実施計画 16</p> <p>4. コミュニティ・スクールについて 29</p> <p>II 運営計画</p> <p>1. 研究推進計画 30</p> <p>2. 学習指導部経営案 42</p> <p style="padding-left: 20px;">国語科・社会科 43</p> <p style="padding-left: 20px;">算数科・理 科 44</p> <p style="padding-left: 20px;">生活科・音楽科 45</p> <p style="padding-left: 20px;">図画工作科・家庭科 46</p> <p style="padding-left: 20px;">体育科・外国語活動 47</p> <p>3. 特別支援教育経営案 48</p> <p>4. 道徳教育経営案 50</p> <p>5. 特別活動経営案 62</p> <p style="padding-left: 20px;">児童会活動全体計画 64</p> <p style="padding-left: 20px;">特別活動年間計画 65</p> <p style="padding-left: 20px;">クラブ活動・学校行事 66</p> <p>6. 総合的な学習の時間経営案 57</p> <p>7. ふるさと教育 61</p> <p>8. キャリア教育 62</p> | <p>9. 学校図書館経営案 65</p> <p>10. 情報教育全体計画 66</p> <p>11. 生徒指導計画 67</p> <p>12. 交通安全指導計画 69</p> <p>13. 町内子ども会年間指導計画 70</p> <p>14. 保健指導経営案 71</p> <p style="padding-left: 20px;">救急処置計画 73</p> <p style="padding-left: 20px;">感染症管理と予防の実際 75</p> <p>15. 「性に関する指導」年間計画 76</p> <p>16. 給食・清掃指導年間計画 77</p> <p>17. こども園小中連携年間計画 78</p> <p>III 学年・学級経営案・単元カリキュラムデザイン</p> <p style="padding-left: 20px;">第1学年 79</p> <p style="padding-left: 20px;">第2学年 81</p> <p style="padding-left: 20px;">第3学年 83</p> <p style="padding-left: 20px;">第4学年 85</p> <p style="padding-left: 20px;">第5学年 87</p> <p style="padding-left: 20px;">第6学年 89</p> <p style="padding-left: 20px;">第2学年梅組学級経営案 91</p> <p style="padding-left: 20px;">第6学年梅組学級経営案 92</p> <p>IV 管理運営・危機管理計画</p> <p>1. 服務・諸手続等について 93</p> <p>2. 学校私費会計の事務処理 95</p> <p>3. 西目小学校個人情報保護規定 96</p> <p>4. 飲酒運転・信用失墜行為の根絶のために 98</p> <p>5. 安全管理・事故防止・防犯計画 99</p> <p>6. 不審者への対応 103</p> <p>7. 学校防災計画 106</p> <p>8. 事務部経営案 108</p> |
|---|---|

《 目 次 》

| | |
|---|--|
| <p>I 学校の概要</p> <p>校章校歌岩城小学校在籍数 1</p> <p>職員一覧 2</p> <p>学校運営組織と校務分掌 3</p> <p>学校見取り図 4</p> <p>学区地図 6</p> <p>II 学校運営計画</p> <p>1 学校経営の概要 7</p> <p>2 教育課程</p> <p>(1)月別行事予定・授業時数授業日数 10</p> <p>(2)教科領域等の授業時数 22</p> <p>(3)学校行事時数 23</p> <p>(4)児童会活動時数 23</p> <p>(5)曜日別時間割表 24</p> <p>(6)特別教室使用割・他担計画 24</p> <p>(7)日課表年間行事予定 25</p> <p>(8)スクールバス運行表 26</p> <p>III 学習指導</p> <p>1 研修計画の概要 27</p> <p>2 ふるさと教育の推進 【い・わ・き】</p> <p>(1)ふるさと教育経営計画 34</p> <p>ふるさと教育全体計画 35</p> <p>(2)キャリア教育経営計画 36</p> <p>キャリア教育全体計画 37</p> <p>(3)コミュニティ・スクール計画 38</p> <p>3 教科経営計画 【わ】</p> <p>国語科経営計画 39</p> <p>社会科経営計画 39</p> <p>算数科経営計画 40</p> <p>理科経営計画 40</p> <p>生活科経営計画 41</p> <p>音楽科経営計画 41</p> <p>図画工作科経営計画 42</p> <p>体育科経営計画 42</p> <p>家庭科経営計画 43</p> <p>外国語活動、外国語科経営計画 43</p> <p>特別の教科「道徳」経営計画 44</p> <p>4 道徳教育 【い】</p> <p>(1)道徳教育経営計画 45</p> <p>(2)道徳教育全体計画 46</p> <p>5 「総合的な学習」の時間【い・わ・き】</p> <p>(1)「総合的な学習の時間」経営計画 47</p> <p>(2)「総合的な学習の時間」全体計画 48</p> <p>6 特別活動 【き】</p> <p>(1)特別活動全体計画 49</p> <p>(2)学級活動 50</p> <p>(3)児童会活動 51</p> <p>(4)なかよし活動 53</p> <p>(5)クラブ活動 54</p> <p>(6)儀式及び集会実施計画 55</p> | <p>7 特別支援教育経営計画 【わ】</p> <p>(1)特別支援教育計画 56</p> <p>(2)特別支援教育年間計画 57</p> <p>8 情報活用教育経営計画 【わ】</p> <p>(1)図書館教育経営計画 58</p> <p>図書類教育全体計画 59</p> <p>(2)メディア教育経営計画 60</p> <p>(3)NIE計画 62</p> <p>IV 生徒指導 【い】</p> <p>1 生徒指導経営計画 63</p> <p>岩城小学校いじめ防止基本方針 67</p> <p>2 学校安全指導計画 68</p> <p>学校安全計画 69</p> <p>3 保健給食指導経営計画</p> <p>(1)保健指導計画 71</p> <p>(2)保健室経営計画 73</p> <p>(3)清掃指導計画 75</p> <p>(4)給食指導計画 76</p> <p>4 環境経営計画</p> <p>(1)学校菜園計画 78</p> <p>(2)校内掲示計画 78</p> <p>V 学級経営計画 【い・わ・き】</p> <p>1年1組学級経営計画 79</p> <p>1年2組学級経営計画 80</p> <p>2年1組学級経営計画 81</p> <p>2年3組学級経営計画 82</p> <p>3年1組学級経営計画 83</p> <p>4年1組学級経営計画 84</p> <p>5年1組学級経営計画 85</p> <p>5年2組学級経営計画 86</p> <p>6年1組学級経営計画 87</p> <p>6年4組学級経営計画 88</p> <p>VI 学校管理計画 【い】</p> <p>1 安全管理計画 89</p> <p>(1)防災計画 89</p> <p>(2)不審者による校内侵入に対する安全管理 93</p> <p>(3)事故発生時の対応 95</p> <p>2 職員交通安全校内規定 98</p> <p>3 職員交通安全友の会 99</p> <p>4 学校事務経営計画 100</p> <p>5 PTA役員一覧 101</p> |
|---|--|

育てたい資質・能力

- い = 他と関わる力
- わ = 豊かな言語力
- き = 判断する力



第3節 「研究紀要」の作成とカリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントを通して児童生徒に資質・能力を育成していくに当たって、核となるのは授業である。どのような資質・能力をどのような授業を通して育成していくのか、全校体制での実践的研究が不可欠であり、不断の授業改善が求められる。つまり、カリキュラム・マネジメントと授業改善は両輪なのである。

その意味で、研究主任がカリキュラム・マネジメントの中核的役割を担っている学校が多く見られることは、本市の強みとなっている。

また、授業改善に関わる年間のPDCAサイクルにおいて、年度末の「研究紀要」の作成が根付いていることも、本市の大きな強みである。

「研究紀要」は、「研究集録」、「実践集録」、「研究のあゆみ」等、学校によって名称は異なるが、市内全ての学校で作成しているものである。研究主題や研究の重点に沿って取り組んだ授業実践の成果と課題について、基本的に全教員が執筆する。（学年部での共同執筆をしている学校もある。）それを基に、研究主任が学校全体の成果と課題を整理し、次年度の研究推進へとつなげていくのである。「この1冊があれば、1年間の授業改善の営みが全て分かる」という冊子になるため、次年度の転入教職員への引継資料としても活用されている。

ページ数や掲載する資料等は各校に任されている。後掲の各実践校における令和元年度版目次を参照されたい。

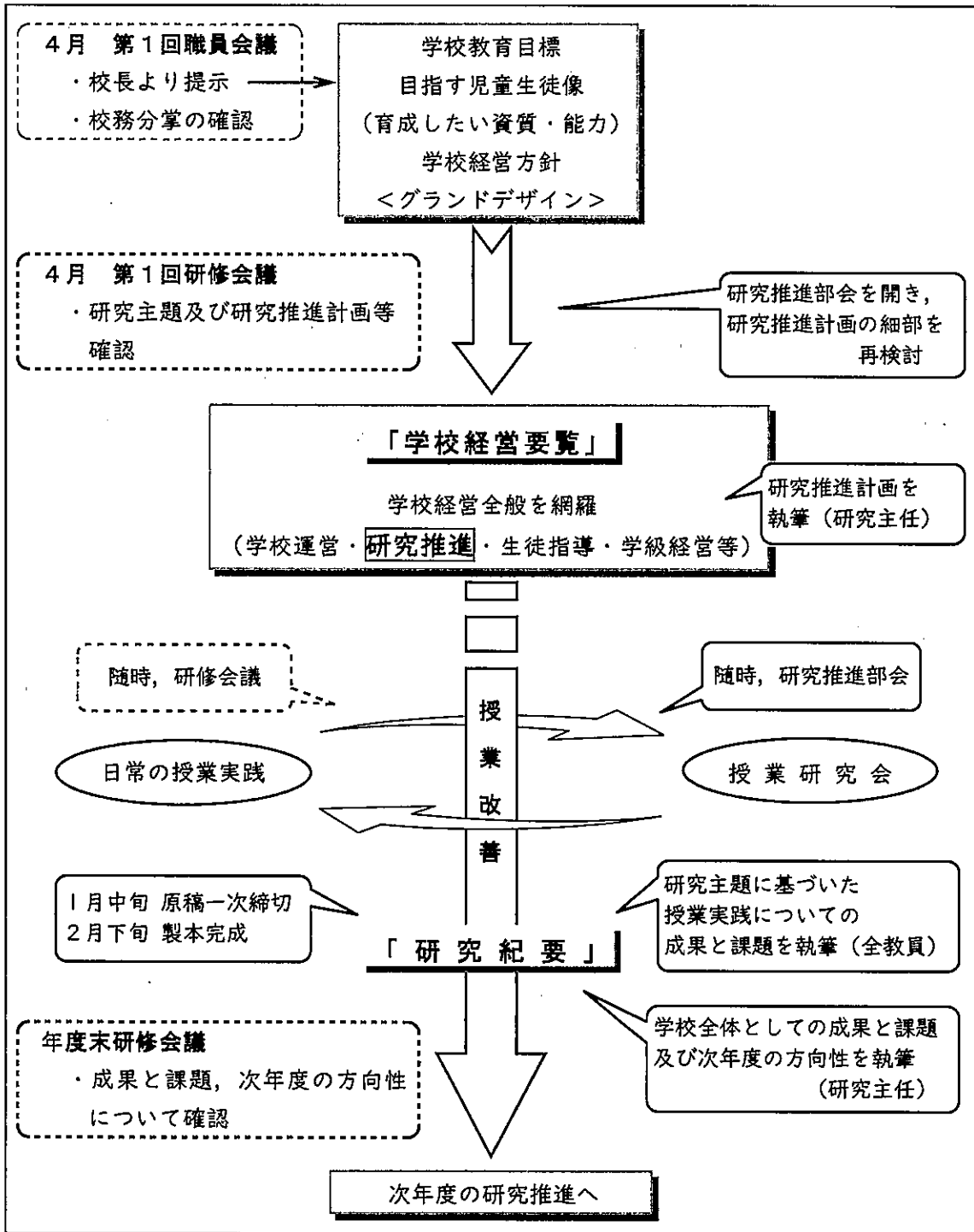
なお、「研究紀要」の作成には、次のような意義がある。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">① 児童生徒に資質・能力を育成するための校内研究の活性化② 教師一人一人の実践記録③ 教師自身の成長 |
|--|

特に③に関わって、「自分自身の実践を客観的に振り返って外言化する」という執筆作業自体に大きな意義があると考えられる。児童生徒にどのような変容が見られたかを分析するためには、児童生徒の変容を見取る目が鍛えられていなければならない。また、変容につながった要因を分析するためには、日常的に様々な手立てに取り組んでおく必要がある。つまり、「研究紀要」の執筆は実践の日常化につながるものであり、教師自身の授業力向上に大きく寄与するものであると言えよう。

年度始めに「学校経営要覧」を作成し、その中の研究推進の部分に特化して年度末に「研究紀要」としてまとめる。このサイクルをより効果的に機能させながら、カリキュラム・マネジメントを推進していきたい。

【年間スケジュール】



目 次

| | | |
|-----------------------------|--------------------------|----------|
| 巻 頭 言 | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 校長 高橋 義明 |
| 1 研究の概要 | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1 |
| 2 各教科における『つなぐ』から深い学びへ」の実践事例 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 18 |
| 3 各教科の実践 | | |
| 国 語 科 教諭 | 土田 正志 | 36 |
| " 講師 | 森 大 和 | 37 |
| 社 会 科 教諭 | 佐藤 史寿 | 38 |
| 数 学 科 教諭 | 伊藤 淳 | 39 |
| " 講師 | 渡部 裕人 | 41 |
| 理 科 教諭 | 相庭 隆弘 | 42 |
| " 教諭 | 齊藤 尚子 | 43 |
| 音 楽 科 教諭 | 小助川志帆 | 44 |
| 美 術 科 教諭 | 田所 史世 | 45 |
| 保健体育科 教諭 | 鈴木 憲一 | 46 |
| 英 語 科 教諭 | 山崎 順子 | 47 |
| 特別支援教育 教諭 | 伊藤 直美 | 48 |
| 4 指導案 | | |
| 音 楽 科【1年B組】 | 指導者 小助川志帆 | 49 |
| 道 徳【1年A組】 | 指導者 齊藤 尚子 | 52 |
| 英 語 科【3年A組】 | 指導者 山崎 順子 | 55 |
| 数 学 科【3年B組】 | 指導者 伊藤 淳 | 58 |
| 理 科【3年B組】 | 指導者 相庭 隆弘 | 66 |
| 国 語 科【はまなす】 | 指導者 伊藤 直美 | 70 |
| 特別活動【生徒総会】 | 指導者 全 職 員 | 73 |
| あ と が き | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 教頭 猪股 正信 |
| 研究同人 | | |

| 目 次 | |
|---|-----------------|
| ◇ はじめに | 校 長 戸賀瀬 晃久 |
| ◇ 研究の概要 | 研究主任 井島 美奈子…… 1 |
| ◇ 実践を通して | |
| 1年○「学びがつながる西目っ子」の素地をつくる | 加賀 綾子…… 6 |
| 1年○主体的に学び続ける子どもを育てるために | 北島 佳奈…… 8 |
| 2年○学びの価値やつながりに気づき、 生かそうとする子どもの育成 | 高橋 香奈子…… 10 |
| 2年○学びをつなげ、主体的に学ぶ子どもの育成 | 阿部 菜那…… 14 |
| 3年○学びをつなげて、主体的に学び続ける姿を目指して | 佐藤 美里…… 16 |
| 3年○学びを拓く文学的文章の授業づくり ～話し合いによる読みの深まりを求めて～ | 大関 恵子…… 18 |
| 4年○学びをつなぎ、主体的に活動する外国語活動 | 安倍 正…… 22 |
| 4年○学びのつながりを求めて | 小島 由美子…… 36 |
| 5年○目的意識をもち、学び続ける子どもを育てるために | 津島 尚人…… 28 |
| 5年○「みんなでつなぐ」～深い学びの姿を目指して | 小池 郁子…… 32 |
| 6年○学んだことを生かし、つなげる国語学習 | 佐藤 裕樹 36 |
| 6年○学びを生活へ生かす子どもを育てるために | 佐藤 理恵子…… 42 |
| 梅組○主体的に人と関わり学びを深める授業づくり～昨年度の実践を改めて～ | 鈴木 裕美…… 48 |
| 桜組○子どもの興味・関心をつなげる自立活動の授業づくり | 井島 美奈子…… 54 |
| 理科○深い学びで論理的思考力の育成を図る | 佐藤 春美…… 58 |
| <small>外国語活動 外国語</small> ○英語によるコミュニケーション能力の育成 | 丹野 紋子…… 60 |
| <small>音楽科</small> ○音楽的な見方・考え方を働かせる授業づくりの実践 ～生活や社会の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の基盤として～ | 今野 隼…… 64 |
| ◇ 研究のまとめ | 井島 美奈子…… 70 |
| ◇ 資 料 | |
| ○西目っ子の学びアンケートより | …………… 76 |
| ○R1年度県学習状況調査質問紙より | …………… 81 |
| ◇ あとがき | 教 頭 小 嶋 裕 |

目 次

| | | |
|--------------------------|-------------------|----|
| 序にかえて | ----- 校長 高野 睦 | 1 |
| I 研究の概要 | ----- 研究主任 安齋 知子 | 3 |
| II 実践 | | |
| (算教科) | | |
| ○ 第1学年の実践 | ----- 大須賀 章子 | 10 |
| ○ 第2学年の実践 | ----- 作左部 里子 | 12 |
| ○ 第3学年の実践 | ----- 能 美 優 夏 | 14 |
| ○ 第4学年の実践 | ----- 畠 山 ゆかり | 16 |
| ○ 第5学年の実践 | ----- 鈴 木 拓 実 | 18 |
| ○ 第6学年の実践 | ----- 森 山 啓 子 | 20 |
| (特別支援教育) | | |
| ○ 4組の実践 | ----- 佐々木 紀子 | 22 |
| (国語科) | | |
| ○ 第4学年の実践 | ----- 武 藤 士 肇 | 24 |
| ○ 算教科実践の成果と課題 | ----- 安 齋 知 子 | 26 |
| III 研究の成果と課題 | ----- | 27 |
| ○諸検査結果の分析 | | |
| ○令和元年度カリキュラム・マネジメント完了報告書 | | |
| ○令和元年度 研究の成果と課題 | | |
| あとがき・研究同人 | ----- 教 頭 運 藤 良 和 | 39 |

おわりに

新型コロナウイルス感染症が国内で確認されてから1年以上になりますが、未だ収束の気配を見せないままです。そのような中、必要に迫られて取り組んでいるうちに全国的に当たり前になったことがいくつかあります。例えば、外出時のマスク着用や、感染予防対策を講じながらの学校生活などです。本市においても、GIGAスクール構想により、リモート学習の実現に向けた取組が加速しました。

何かを推し進めたり定着させたりする際の原動力となるのは「必要感と明確な目標」であることを再認識できた事例だったと思います。

カリキュラム・マネジメントにも同様のことが言えるのではないのでしょうか。

「学習指導要領に『カリキュラム・マネジメントに取り組むべし』との記載があるから」という焦りにも似た必要感から取組をスタートさせた学校も少なくないでしょう。そして、手探りで推進していくうちに、「子どもたちに『〇〇力』を育成するために、本校において本当に必要なことは何か」という本来の必要感に立ち戻る時が訪れ、取組の見直しにかかります。そこから、真の意味でのスタートなのかもしれません。

このようにして取り組んでいくうちに、カリキュラム・マネジメントもいつしか当たり前のこととして全ての学校に根付いていくものと思います。

本市においては、文部科学省委託事業「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」の指定を受け、「手引きを作成する」という明確な目的があったことも直接的な必要感となり、カリキュラム・マネジメントの推進につながりました。本調査研究を進める上で、各実践校とも試行錯誤の連続ではありましたが、教職員の情熱とチーム力、そして何よりも子どもたちの変容がエネルギーとなり、各校ならではのカリキュラム・マネジメントの道筋を付けてきた2年間であったと感じています。

実践校として取組を着実に進め、本手引きに詳らかに紹介して下さった西目中学校、西目小学校、岩城小学校の教職員の皆様に、心から感謝を申し上げます。

なお、カリキュラム・マネジメントを推進していくに当たっては、専門的な知見から学ぶ機会が不可欠であるということも実感しております。

本市では、令和元年度に3回、令和2年度に2回、「カリキュラム・マネジメント検討会議」を開催し、指導者の方々（後掲の検討委員名簿参照）からたくさんの御助言をいただきながら取組を進めてまいりました。

その他に、令和元年度には次のとおり研修会を開催いたしました。

独立行政法人教職員支援機構（NITS）による

「学校改善をはかるマネジメント能力の育成」セミナー

【日 時】令和元年12月14日（土）

【参加者】実践校全教職員 及び 市内各校管理職・ミドルリーダー

【講師】天笠 茂 氏（千葉大学 特任教授）
田村 学 氏（國學院大學 教授）
本図 愛実 氏（宮城教育大学 教授）
照屋 翔大 氏（茨城大学 准教授）

由利本荘市冬季教職員研修会における講演会

【日時】令和2年1月8日（水）
【参加者】市内全教職員
【講師】成田 雅樹 氏（秋田大学 教授）
【演題】「これからの時代に求められる資質・能力を育むための
カリキュラム・マネジメントの在り方について」

また、次のとおり、実際の授業参観を通して御助言いただく機会も得ることができました。

「カリキュラム・マネジメント調査研究」実地調査

【日時】令和2年1月17日（金）
【訪問校】西目中学校，岩城小学校
【指導者】天笠 茂 氏（千葉大学 特任教授）
田村 知子 氏（大阪教育大学 教授）
石田 有記 氏（文部科学省初等中等教育局教育課程課 学校教育官）
田代 和馬 氏（文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室
専門職）
吉田 尚史 氏（教職員支援機構つくば中央研修センター研修事業課
研修特別研究員）

加えて、令和2年12月2日に「カリキュラム・マネジメント事業先とのヒアリング会」がZoomで行われました。その際に、「カリマネにゴールはなく、継続していくもの」「子どもも教師も成長するカリマネに」というお話がありました。本市におけるカリキュラム・マネジメントも道半ばであり、本手引きに記載した取組をベースに、今後も各校で進化・深化させていく予定です。これからも、子どもたちと共に教師も成長するカリキュラム・マネジメントを目指してまいります。

結びになりますが、本市のカリキュラム・マネジメントの研究推進に当たり、様々な機会でご親切丁寧な御指導・御助言をいただきましたたくさんの先生方に、心から感謝を申し上げます。今後とも一層の御指導・御鞭撻を賜りますようお願いいたします。

秋田県由利本荘市教育委員会学校教育課
指導主事 大庭 珠 枝

令和元年度 カリキュラム・マネジメント検討委員名簿 敬称略

| | 氏名 | 所属・役職等 |
|--------|--------|--|
| 指導者 | 成田 雅樹 | 秋田大学教育文化学部 学校教育課程教育実践コース 教授 |
| | 畑 朋幸 | 秋田県教育庁義務教育課指導班 副主幹(兼)班長 |
| | 稲岡 寛 | 秋田県総合教育センター研修班 指導主事 |
| | 倉田 和人 | 秋田県教育庁中央教育事務所由利出張所 管理・指導班 指導主事 |
| 実践校関係者 | 高橋 義明 | 由利本荘市立西目中学校 校長 |
| | 土田 正志 | 由利本荘市立西目中学校 研究主任 |
| | 戸賀瀬 晃久 | 由利本荘市立西目小学校 校長 |
| | 井島 美奈子 | 由利本荘市立西目小学校 研究主任 |
| | 高野 睦 | 由利本荘市立岩城小学校 校長 |
| | 安齋 知子 | 由利本荘市立岩城小学校 研究主任 |
| | 田口 睦子 | 由利本荘市立新山小学校 生徒指導主事 (前 由利本荘市立西目小学校 研究主任) |
| 市教委事務局 | 佐々田 亨三 | 由利本荘市教育委員会 教育長 (令和元年度末をもって退任) |
| | 土倉 新也 | 由利本荘市教育委員会学校教育課 主幹兼学校教育課長 |
| | 佐藤 隆 | 由利本荘市教育委員会学校教育課 参事兼課長補佐 |
| | 村上 雅美 | 由利本荘市教育委員会学校教育課 指導主事兼学校教育班長 |
| | 齊藤 千也 | 由利本荘市教育委員会学校教育課 指導主事 |
| | 佐々木 光浩 | 由利本荘市教育委員会学校教育課 指導主事 |
| | 大庭 珠枝 | 由利本荘市教育委員会学校教育課 指導主事 |

令和2年度 カリキュラム・マネジメント検討委員名簿 敬称略

| | 氏名 | 所属・役職等 |
|--------|---------|-----------------------------------|
| 指導者 | 成田 雅 樹 | 秋田大学教育文化学部 学校教育課程教育実践コース 教授 |
| | 櫻庭 直 美 | 秋田県教育庁義務教育課指導班 副主幹(兼)班長 |
| | 稲岡 寛 | 秋田県総合教育センター研修班 指導主事 |
| | 加賀 秀 和 | 秋田県教育庁中央教育事務所由利出張所 管理・指導班 指導主事 |
| 実践校関係者 | 高橋 義 明 | 由利本荘市立西目中学校 校長 |
| | 佐藤 史 寿 | 由利本荘市立西目中学校 研究主任 |
| | 本間 光 幸 | 由利本荘市立西目小学校 校長 |
| | 井島 美奈子 | 由利本荘市立西目小学校 研究主任 |
| | 加賀 綾 子 | 由利本荘市立西目小学校 生活科・きらら部会主任 |
| | 高野 睦 | 由利本荘市立岩城小学校 校長 |
| | 島山 ゆかり | 由利本荘市立岩城小学校 研究主任 |
| 市教委事務局 | 秋山 正 毅 | 由利本荘市教育委員会 教育長 |
| | 土倉 新 也 | 由利本荘市教育委員会学校教育課 主幹兼学校教育課長 |
| | 村上 雅 美 | 由利本荘市教育委員会学校教育課 参事兼課長補佐 |
| | 齊藤 千 也 | 由利本荘市教育委員会学校教育課 指導主事兼学校教育班長 |
| | 佐々木 紀 子 | 由利本荘市教育委員会学校教育課 指導主事 |
| | 佐々木 光 浩 | 由利本荘市教育委員会学校教育課 指導主事 |
| | 大庭 珠 枝 | 由利本荘市教育委員会学校教育課 指導主事 |

令和元年度～令和2年度 文部科学省委託事業

「これからの時代に求められる資質・能力を育むための
カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」

カリキュラム・マネジメントの手引き

令和3年3月

発行 秋田県由利本荘市教育委員会 学校教育課

Tel. 0184-32-1310

印刷 (有)高野写真印刷

由利本荘市石脇字石脇69-1

Tel. 0184-22-7456

